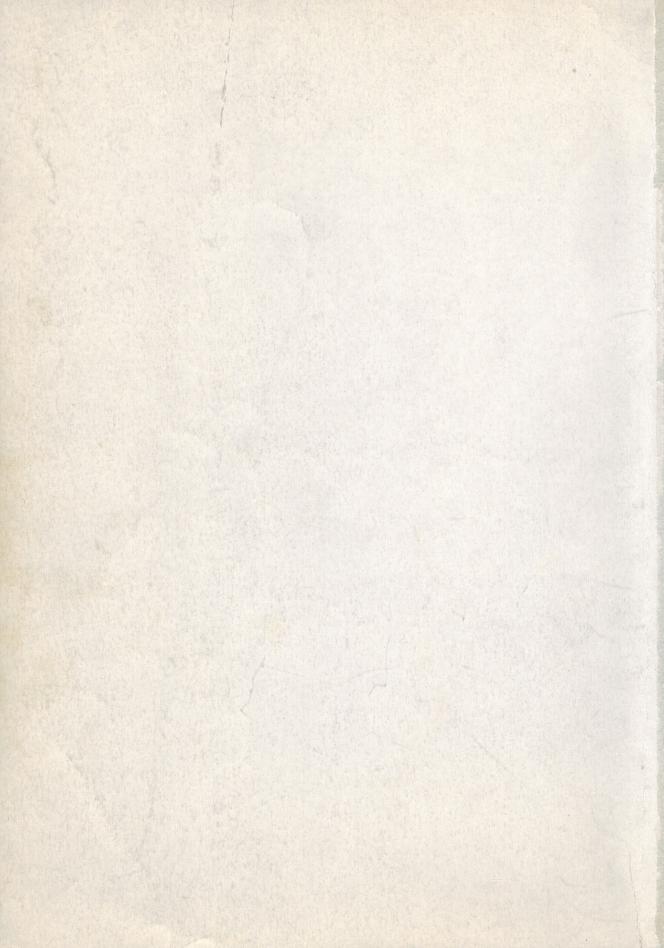


All About 89 Words & Music



YUTAKA OZAKI

Complete Song Book

All About 89 Words & Music

Contents

十七歳の地図 SEVENTEEN'S MAP	
街の風景 SCENES OF TOWN————————————————————————————————————	6
はじまりさえ歌えない CAN'T SING EVEN THE BEGINNING	
I LOVE YOU—	15
ハイスクール Rock'n' Roll HIGH SCHOOL ROCK'N' ROLL	
15の夜 THE NIGHT	
愛の消えた街 LOVELESS TOWN————————————————————————————————————	
十七歳の地図 SEVENTEEN'S MAP	27
傷つけた人々へ TO ALL THAT I HURT	32
僕が僕であるために MY SONG————	36
OH MY LITTLE GIRL	
回帰線 TROPIC OF GRADUATION	44
Scrambling Rock'n' Roll Bow!	54
	- 70
Scrap Alley—	
ダンスホールー	66
卒業	70
坂の下に見えたあの街に――――	75
存在	78
群衆の中の猫―――――――――――――――――――――――――――――――――――	82
シェリー Shelly	
Teenage Blue	90
壊れた扉から THROUGH THE BROKEN DOOR	
路上のルール RULES ON THE STREET	98
失くした½ ALTERNATIVE	103
Forget-me-not	
米軍キャンプ BASE CAMP———	
彼 GRIEP—————	114
Driving All Night	
ドーナツ・ショップ DONUTS SHOP	
誰かのクラクション SOMEBODY BEEPS A KLAXON————	
Freeze Moon	

132

核	CORE(T	TWELVE-I	NCH SINGLE	b/w TWILIGHT WIND)
---	--------	----------	------------	--------------------

街角の風の中 TWILIGHT WIND-	144
街路樹	親のへ由し
核 CORE	awob 1i 196
·ISM	
LIFE	
時	166
COLD WIND	169
紙切れとバイブル―――	174
遠い空————	Morning 179
理由	184
街路樹一	Tama, say good-bye
誕生 BIRTH	
LOVE WAY	
KISS————	
黄昏ゆく街で 57TH STREET —	
ロザーナ ROSSANA	Socios All Night
銃声の証明 INDETIFICATION————	THOM LIA DRIVING MIE O 213
RED SHOES STORY—	arcabling Rock'n' Roll
LONELY ROSE—	DNOS YM SICK & & 5 1224
置き去りの愛 I LEFT MY LOVE IN YOU-	228
FIRE—	ORADUATION————————————————————————————————————
COOKIE—	236 236
永遠の胸	240
レガリテート LEGALITÄT	246
虹 RAINBOW————	-HT918 250
COLD JAIL NIGHT	ТНОГИ ЯНТ № 255
禁猟区 DON'T TOUCH THIS—————	260
音のない部屋 QUIET ROOM	
きっと忘れない HAPPY BIRTHDAY	
風の迷路 WHAT IS LOVE-	
MARRIAGE—	
誕生 BIRTH————————————————————————————————————	

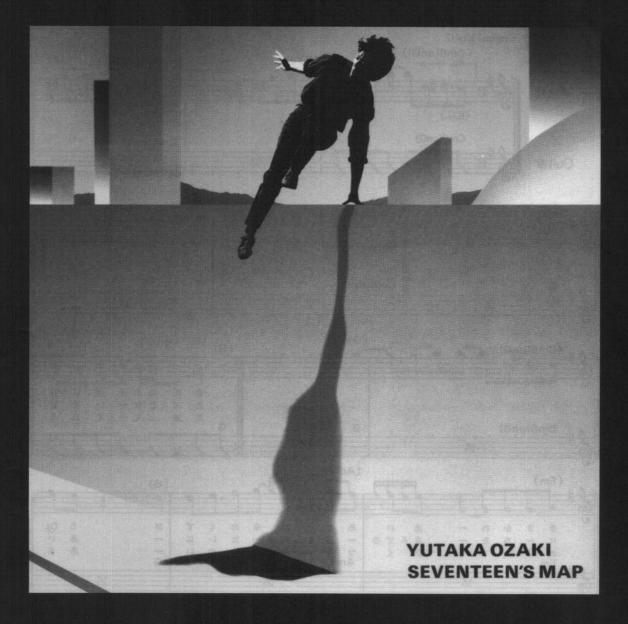
の M の M
O'NET C.
- 1AC
- 141

Wa
SSI
-
B > 0
十一世派の
SHO
ELY
たりの
77737
SLAIC.
And C
7 (
XINBO
D JA
1年17日
EFF CRIA

429

弱くてバカげてて

Yutaka Ozaki Complete Song Book

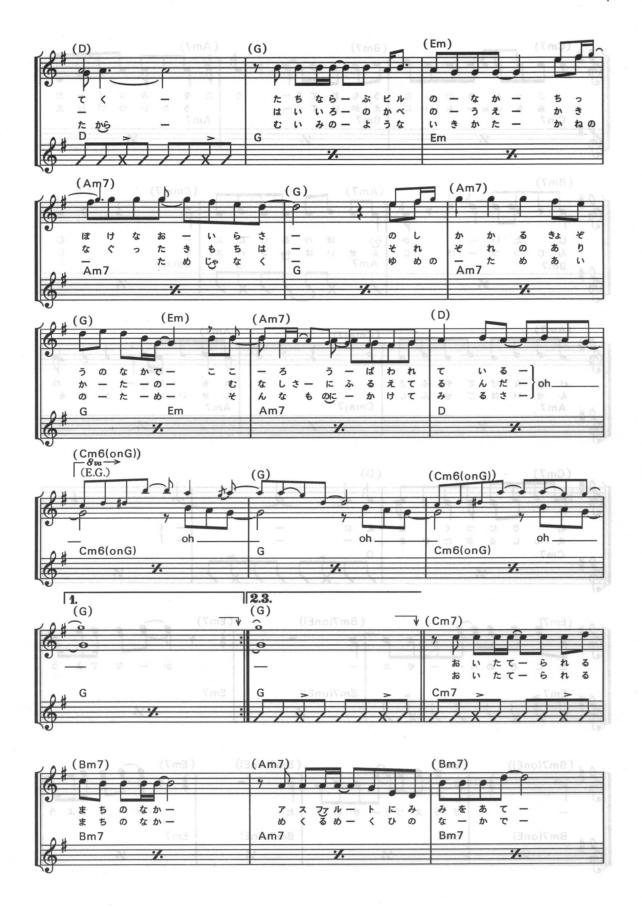


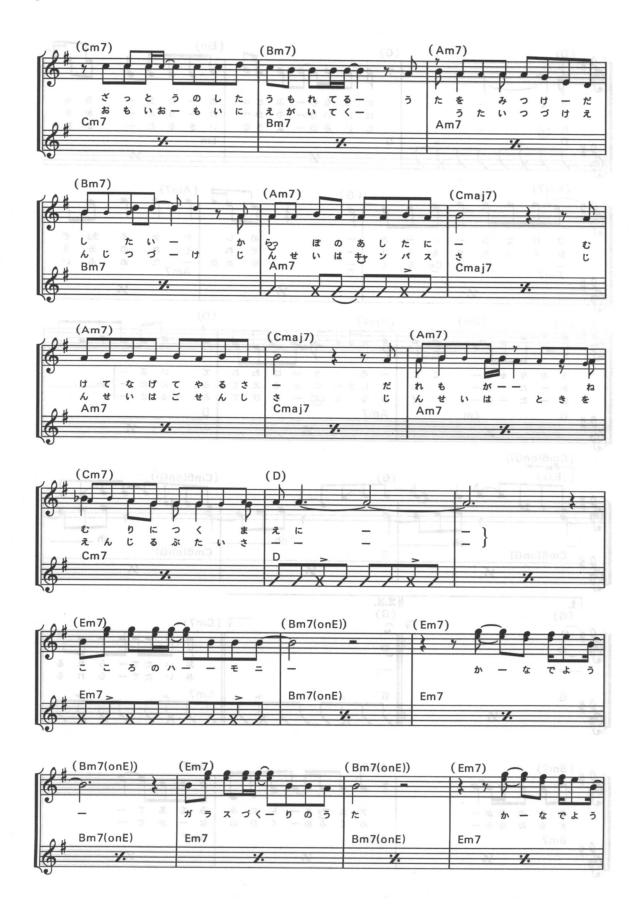
十七歳の地図 SEVENTEEN'S MAP

SONY RECORDS SRCI 1910

街の風景 SCENES OF TOWN



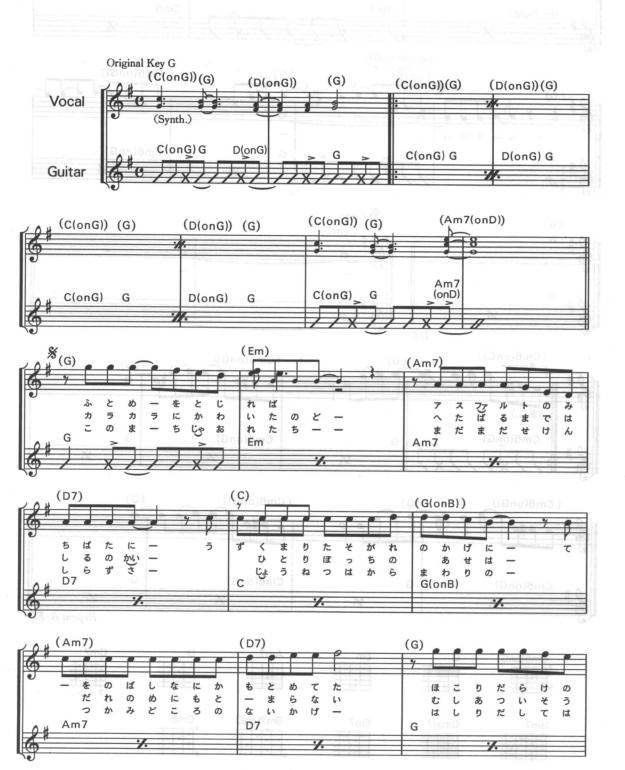


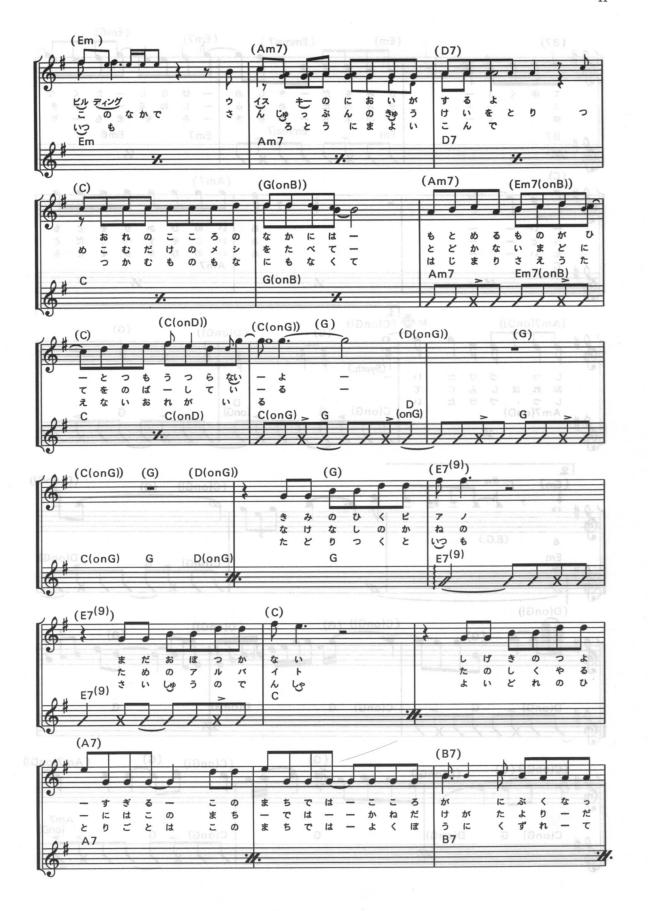




はじまりさえ歌えない

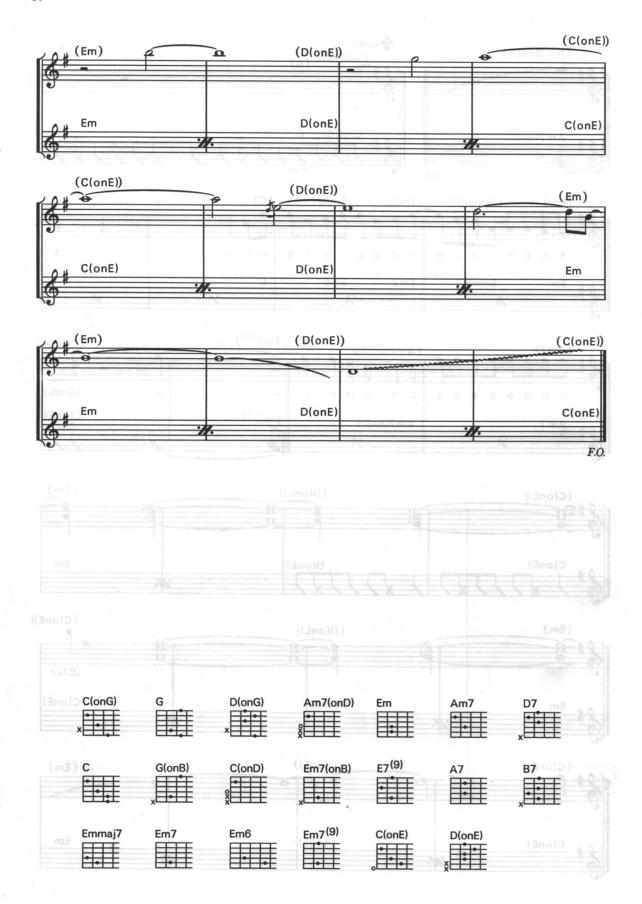
CAN'T SING EVEN THE BEGINNING











I LOVE YOU







ハイスクールRock'n' Roll

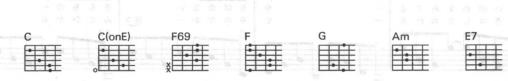
HIGH SCHOOL ROCK'N' ROLL











15の夜

THE NIGHT

作詩/作曲:尾崎 豊

© 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.











愛の消えた街

LOVELESS TOWN











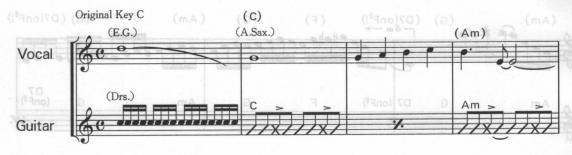


SEVENTEEN'S MAP

作詩/作曲:尾崎 豊

© 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.



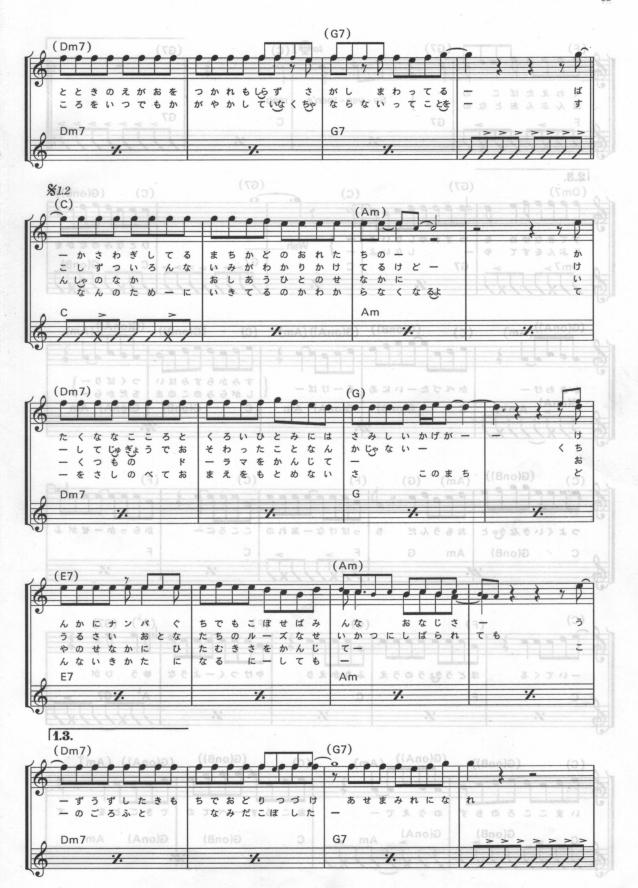














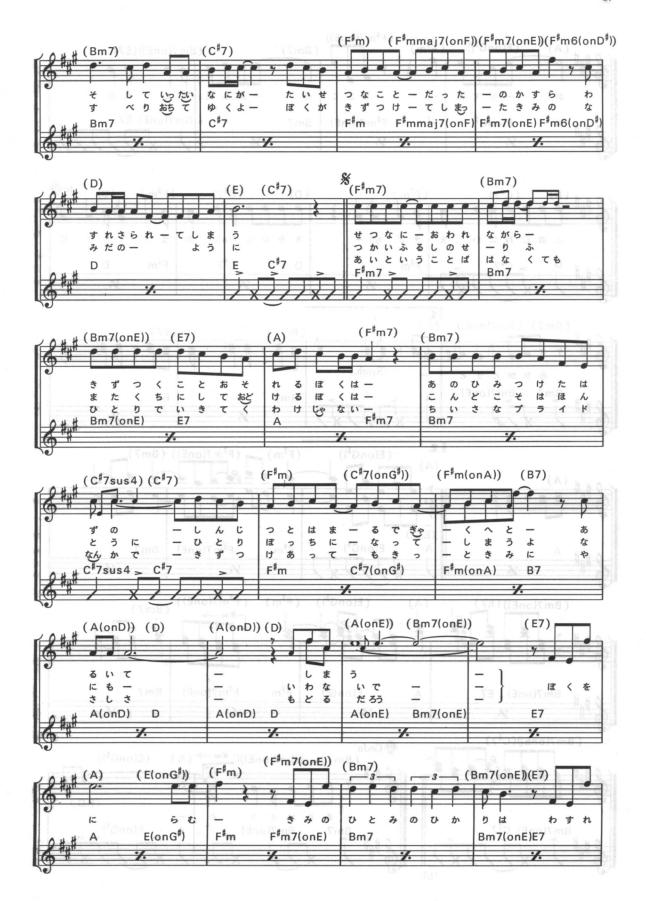


傷つけた人々へ

TO ALL THAT I HURT

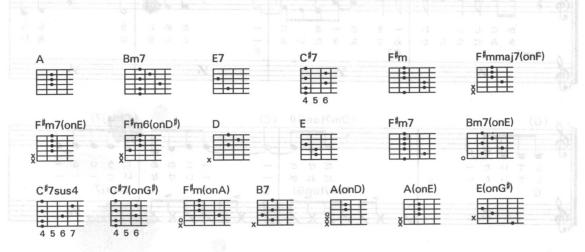
作詩/作曲:尾崎 豊 © 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.









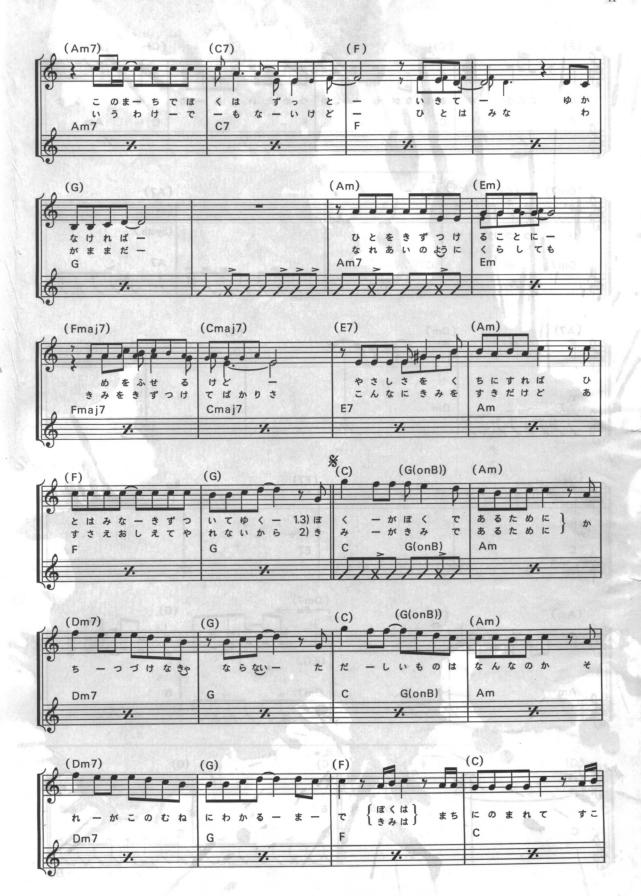


僕が僕であるために

MY SONG

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.









OH MY LITTLE GIRL







街の風景

Words and Music by Yutaka Ozaki

街の風に引き裂かれ 舞い上った夢くずが路上の隅で寒さに震え もみ消されてく立ち並ぶビルの中 ちっぽけな俺らさのしかかる虚像の中で 心を奪われているあてどない毎日を まるでのら犬みたいに愛に飢え 心は乾き ふらつき回るよ 灰色の壁の上 書きなぐった気持はそれぞれの在り方の空しさに震えてるんだ追い立てられる街の中 アスファルトに耳をあて雑踏の下埋もれてる歌を見つけ出したい空っぽの明日に向けて投げてやるさ 誰もか眠りにつく前に

心のハーモニー 奏でよう ガラス作りの歌 奏でよう 無限の色を散りばめた 街の風景

黙っておくれよ 理屈なんかいらない 甘えだと笑うのも よく解ったから 無意味の様な生き方 金のためじゃなく 夢のため 愛のため そんなものにかけてみるさ 追いたてられる街の中 めくるめく日の中で 思い思いに描いてく 歌い続け 演じ続け 人生はキャンパスさ 人生は五線紙さ 人生は時を演じる舞台さ 心のハーモニー 奏でよう ガラス作りの歌 奏でよう 無限の色を散りばめた 街の風景

I LOVE YOU

Words and Music by Yutaka Ozaki

I love you 今だけは悲しい歌聞きたくないよ I love you 逃れ逃れ 辿り着いたこの部屋 何もかも許された恋じゃないから 二人はまるで 捨て猫みたいこの部屋は落葉に埋もれた空き箱みたいだからおまえは小猫の様な泣き声できしむベッドの上で 優しさを持ちよりきつく躰 抱きしめあえばそれからまた二人は目を閉じるよ悲しい歌に愛がしらけてしまわぬ様に

I love you 若すぎる二人の愛には触れられぬ秘密がある I love you 今の暮しの中では 辿り着けない ひとつに重なり生きてゆく恋を 夢見て傷つくだけの二人だよ 何度も愛してるって聞くおまえは この愛なしでは生きてさえゆけないと きしむベッドの上で 優しさを持ちより きつく躰 抱きしめあえば それからまた二人は目を閉じるよ 悲しい歌に愛がしらけてしまわぬ様に

はじまりさえ歌えない

Words and Music by Yutaka Ozaki

よと目を閉じればアスファルトの道端に うずくまり黄昏の影に手を伸ばし何か求めてた 埃りだらけのピルディング ウイスキーの匂いがするよ 俺の心の中には求めるものがひとつも映らないよ 君の弾くピアノ まだ覚束ない 刺激の強すぎる この街では心か強くなってゆくよ 君を抱きしめ離したくない 愛の光を ともし続けたい

カラカラに乾いた喉 へたばるまで走るのかい ひとりぼっちの汗は離の眼にもとまらない 蒸し熱い倉庫の中で 30分の休憩をとり つめ込むだけのメシを食べて 届かない窓に手を伸ばしている なけなしの金のためのアルバイト 楽しくやるには この街では金だけがたよりだよ 君のためなら死ねるさきっと 愛こそすべてだと 俺は信じてる

この街じゃ俺達 まだまだ世間知らずさ 情熱は空回りの 把みどころのない影 走り出してはいつも 路頭に迷い込んで 把むものも何もなくて はじまりさえ歌えない俺がいる 辿り着くといつも最終の電車 酔いどれのひとり言は この街では欲望に崩れてゆくこの街から君を守りたい 愛の光を ともし続けたい 君を抱きしめ離したくない 愛の光を ともし続けたい

ハイスクール Rock'n' Roll

Words and Music by Yutaka Ozaki

Oh! 朝は目覚めても昨日の疲れひきずったまま 様にならない制服着て表へ出るよ そして ぞろぞろと駅へ歩く人達に まぎれ込んで 俺も歩いてゆくよ 満員電車に押し込まれ 言葉さえなくした Strange boy 何がどうなろうと 誰にもどうにも出来ないみたいさ セーラー服のLittle girl 小さな躰もみくちゃにされ それでも夢見てるの 失う事ばかりなのに Rock'n' Roll 踊ろうよ

Rock'n' Roll くさらずに Rock'n' Roll 手を伸ばせば自由はあと少しさ

Oh! これから半日は退屈な授業で費すだけで 身も心も疲れはて 魂さえも Knock Knock down こっそり抜け出し 小さなコーヒーショップの Smoking time ジュークボックスにいかした Rock'n' roll 俺らに聞かせて欲しいのさ ちょっと! こんなラッシュアワーに死ぬまでもまれたくないよ 何がどうして誰のために縛られなくちゃならないの 逃れられない流れの中で 必死にあがいてる俺が 見えるよ

必死にあがいてる俺が 見えるよ Rock'n' Roll 踊ろうよ Rock'n' Roll くさらずに

Rock'n' Roll 手を伸ばせば自由はあと少しさ

15の夜 UOY EVOL I

Words and Music by Yutaka Ozaki

落書きの教科書と外ばかり見てる俺 超高層ビルの上の空 届かない夢を見てる やりばのない気持の扉破りたい 校舎の裏 煙草をふかして見つかれば逃げ場もない しゃがんでかたまり 背を向けながら 心のひとつも解りあえない大人達をにらむ そして仲間達は今夜家出の計画をたてる とにかくもう 学校や家には帰りたくない 自分の存在が何なのかさえ 解らず震えている 15の夜——

盗んだバイクで走り出す 行き先も解らぬまま暗い夜の帳りの中へ 誰にも縛られたくないと 逃げ込んだこの夜に 自由になれた気がした 15の夜

冷たい風 冷えた躰 人恋しくて 夢見てるあの娘の家の横を サヨナラつぶやき走り抜ける 闇の中 ぽつんと光る 自動販売機 100円玉で買えるぬくもり 熱い缶コーヒー握りしめ 恋の結末も解らないけど あの娘と俺は将来さえ ずっと夢に見てる 大人達は心を捨てみ捨てみと言うが 俺はいやなのさ 退困な授業が俺達の全てならば なんてちっぱけで なんて意味のない なんて無力な 15の夜――

盗んだバイクで走り出す 行き先も解らぬまま 暗い夜の帳りの中へ

覚えたての煙草をふかし 星空を見つめながら 自由を求め続けた 15の夜

盗んだバイクで走り出す 行き先も解らぬまま 暗い夜の帳りの中へ

誰にも縛られたくないと 逃げ込んだこの夜に 自由になれた気がした 15の夜

愛の消えた街

Words and Music by Yutaka Ozaki

道端に倒れた様に眠る人がいるよ
一度は目にするが、すぐに目をそらして通りすぎる
誰もが不幸になるかもしれない自分を守り
自分の愛を向けることもバカらしくて出来ない
まぬけな人ごみ

俺もまた先の解らぬ不安の中にいる 今を何とか生きる事で 心に余裕もないよ 金もとれない 学生に一体何が出来るのか どんな奴らも つまりは自分の将来以外 どうでもいいと思うはずさ

愛の消えた街さ 昔からそうなのだろうか それがあたりまえと言うには俺はまだ若すぎる 見つけたい 見つけたい 愛の光を

> 要という言葉をたやすく口にするのを嫌うのも 一体何が愛なのか それは誰にも解らないから 男と女 心より躰で慰めあい 心を探して迷い道迷い込んで倒れるのが 見えるだろう

二人もまた先の解らぬ不安の中にいる 愛を誓い守る事が全てだと信じて 子供も産めない世の中の解らぬ二人に いったいどんな愛が 育てられるとゆうのか Oh! 今ここに

愛の消えた街さ 昔からそうなのだろうか それがあたりまえと言うには俺はまだ若すぎる 見つけたい 見つけたい 愛の光を 信じたい 信じたい 愛の光を

十七歳の地図

Words and Music by Yutaka Ozaki

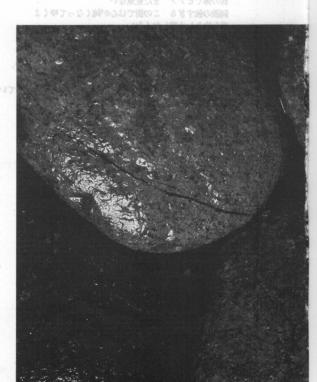
十七のしゃがれたブルースを聞きながら
夢見がちな俺はセンチなため息をついている
たいしていい事あるわけじゃないだろう
一時の笑顔を疲れも知らず探し回っている
バカ騒ぎしてる 街角の俺達の
かななな心と黒い瞳には寂しい影が
喧嘩にナンパ 愚痴でもこぼせば皆同じさ
うずうずした気持で踊り続け 汗まみれになれ
くわえ煙草の Seventeen's map

街角では少女が自分を売りながら
あぶく銭のために何でもやってるけど
夢を失い 愛をもて遊ぶ あの子忘れちまった
心をいつでも輝かしていなくちゃいけないってことを
少しずつ色んな意味が解りかけてるけど
決して授業で教わったことなんかじゃない
口うるさい大人達のルーズな生活に縛られても
素敵な夢を忘れやしないよ

人波の中をかきわけ 壁づたいに歩けば すみからすみはいつくばり 強く生きなきゃ思うんだ ちっぽけな俺の心に 空っ風が吹いてくる 歩道橋の上 振り返り 焼けつくような夕陽が 今 心の地図の上で 起こる全ての出来事を照らすよ Seventeen's map

電車の中 押しあう人の背中にいくつものドラマを感じて 親の背中にひたむきさを感じて このごろふと涙こぼした 半分大人のSeventeen's map 何のために生きてるのか解らなくなるよ 手を差しのべて おまえを求めないさ この街 どんな生き方になるにしても 自分を捨てやしないよ

人波の中をかきわけ 壁づたいに歩けば しがらみのこの街だから 強く生きなきゃ思うんだ ちっぽけな俺の心に 空っ風が吹いてくる 歩道橋の上 振り返り 焼けつく様な夕陽が 今 心の地図の上で 起こる全ての出来事を照らすよ Seventeen's map



傷つけた人々へ

Words and Music by Yutaka Ozaki

どれだけ言葉費し 君に話したろう どんな言葉でも言いつくせなかった事の答も ひとつしかないはずと 時の流れに心は変ってしまうから そして いったい何が 大切な事だったのかすら忘れさられてしまう 刹那に追われながら 傷つく事恐れる僕は あの日見つけたはずの真実とはまるで逆へと 歩いてしまう

僕をにらむ君の瞳の光は 忘れかけてた真心教えてくれた

この胸に今刻もう 君の涙の美しさにありがとうと

センチメンタルな気持じゃ悔んでばかりだよ 僕はなんてまぬけな男だったろう 君にはもう許されることもない 僕の幾つもの思いが指のすきまから すべり落ちてゆくよ 僕が傷つけてしまった君の涙の様に 使い古しの台詞 また口にしておどける僕は 今度こそは 本当に ひとりぼっちになってしまうよ

何も言わないで 僕をにらむ君の瞳の光は 忘れかけてた真心教えてくれた

この胸に今刻もう 君の涙の美しさにありがとうと

愛という言葉はなくても ひとりで生きてく訳じゃない 小さなブライドなんかで 傷つけあってもきっと君に 優しさ戻るだろう

僕をにらむ君の瞳の光は 忘れかけてた真心教えてくれた この胸に今刻もう 君の涙の美しさにありがとうと



僕が僕であるために

Words and Music by Yutaka Ozaki

心すれちがう悲しい生き様に
ため息もらしていた
だけぎ この目に映る この街で僕はずっと
生きてゆかなければ
人を傷つける事に目を伏せるけど
優しさを口にすれば人は皆傷ついてゆく
僕が僕であるために勝ち続けなきゃならない
正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで
僕は街にのまれて 少し心許しながら
この冷たい街の風に歌い続けてる

別れ際にもう一度 君に確かめておきたいよこんなに愛していた 誰がいけないとゆう訳でもないけど 人は皆わがままだ 慣れあいの様に暮しても 君を傷つけてばかりさこんなに君を好きだけど 明日さえ教えてやれないから 君が君であるために 勝ち続けなきゃならない 正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで 君は街にのまれて 少し心許しながらこの冷たい街の風に歌い続けてる 僕が僕であるために勝ち続けなきゃならない 正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで 僕は街にのまれて 少し心許しながらこの冷たい街の風に歌い続けてる

OH MY LITTLE GIRL

Words and Music by Yutaka Ozaki

こんなにも騒がしい街並に たたずむ君は とても小さく とても寒がりで 泣きむしな女の子さ 街角のLove Song 口ずさんで ちょっぴりぼくに微笑みながら 凍えた躰 そっとすりよせて 君は口づけせがむんだ Oh My Little Girl 暖めてあげよう Oh My Little Girl こんなにも愛してる Oh My Little Girl 二人黄昏に 肩寄せ歩きながら いつまでも いつまでも 離れられないでいるよ 君の髪を 撫でながら ぼんやりと君を見てるよ 甘えた声で 無邪気に笑う ぼくの腕に包まれた君を Oh My Little Girl 素敵な君だけを Oh My Little Girl こんなにも愛してる Oh My Little Girl 冷たい風が 二人の躰すり抜け いつまでも いつまでも 離れられなくさせるよ Oh My Little Girl 暖めてあげよう Oh My Little Girl こんなにも愛してる Oh My Little Girl 二人黄昏に 肩寄せ歩きながら

いつまでも いつまでも 離れないと誓うんだ

表が僕であるために Access

第つけた人々へ 図訳の過せ上 Look and Mark by Make Units

をおいては発養し、成なに続いたあっている。 こんな意味でもだってもないからなのなが、 などったかないます。 なの深れにおばあってしようかっと、ことがなった。 として、いっていらか。 として、いっていらか。

9.21 信息 经出货 即也到 Erthelmton Songilla

Yutaka Ozaki Complete Song Book

It's just like a deer with bloodshot green eyes chased into the corner by the deer hunters. It's just like a yacht drifting among a flock of sailing warships in the city. It's just like a girl holding the deserted dog trembling in the cold rain. It's just like a iron melting in the redhot fire. They all look so dangerous and beautiful. But who can help them? And who can touch them?

Yutaka Ozaki Tropic of Graduation

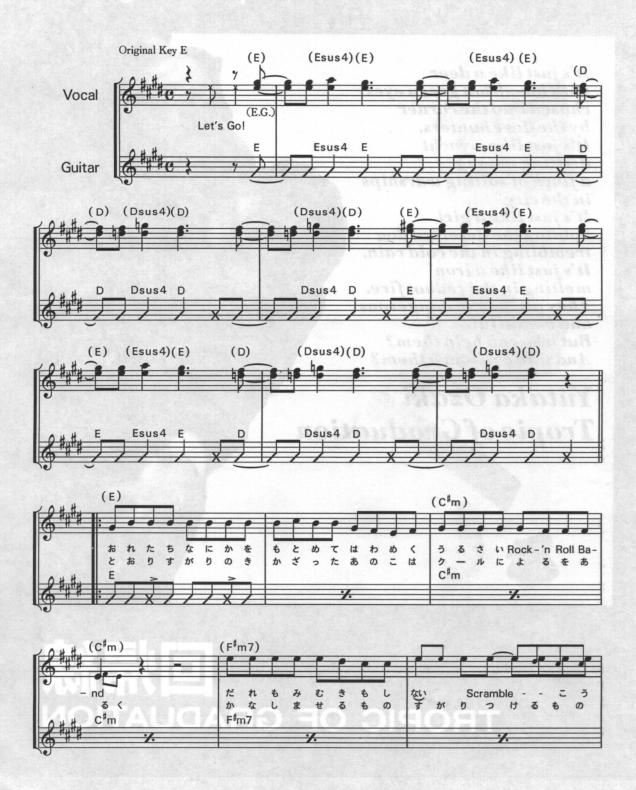


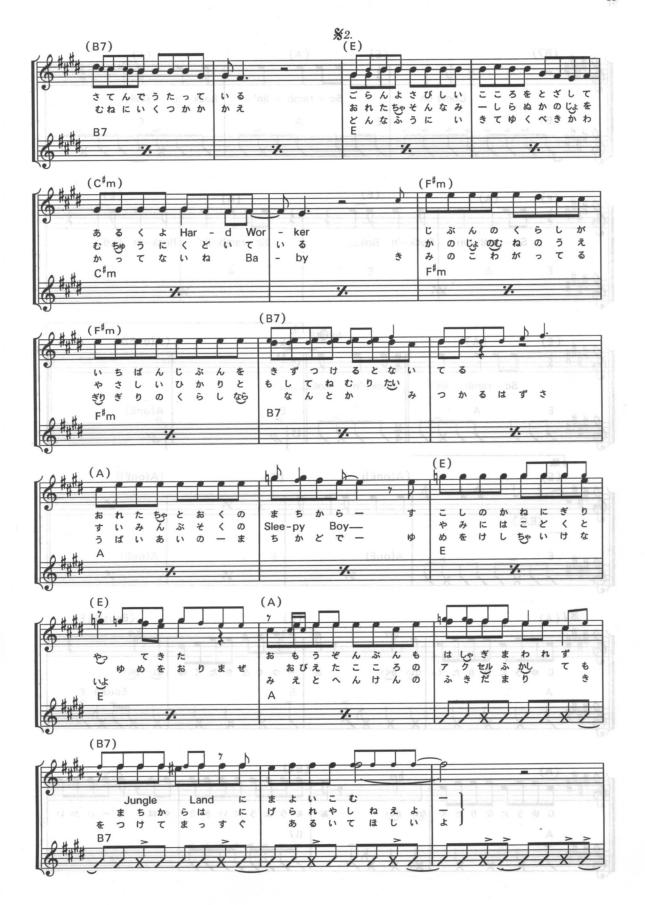
SONY RECORDS SRCL 1911

Scrambling Rock'n' Roll

© 1984 by Grand Mother Music Vision Inc.

omplete Song Book













Bow!

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1984 by Grand Mother Music Vision Inc.









Scrap Alley

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1985 by Grand Mother Music Vision Inc.







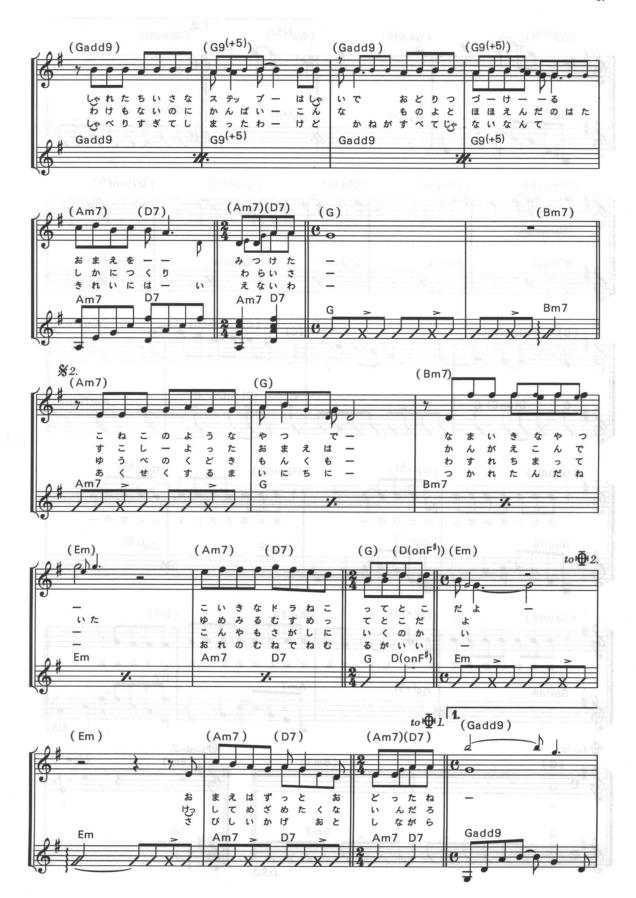


ダンスホール

Dance Hall

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1984 by Grand Mother Music Vision Inc.













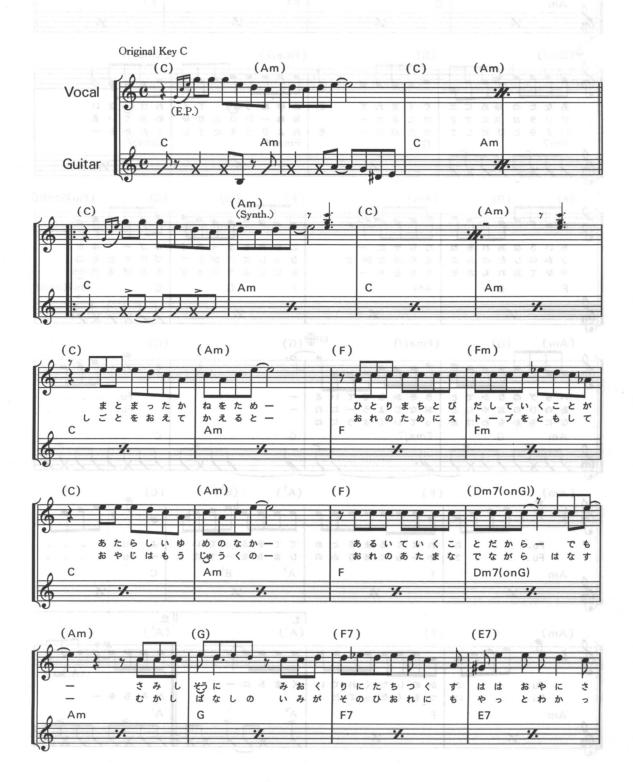


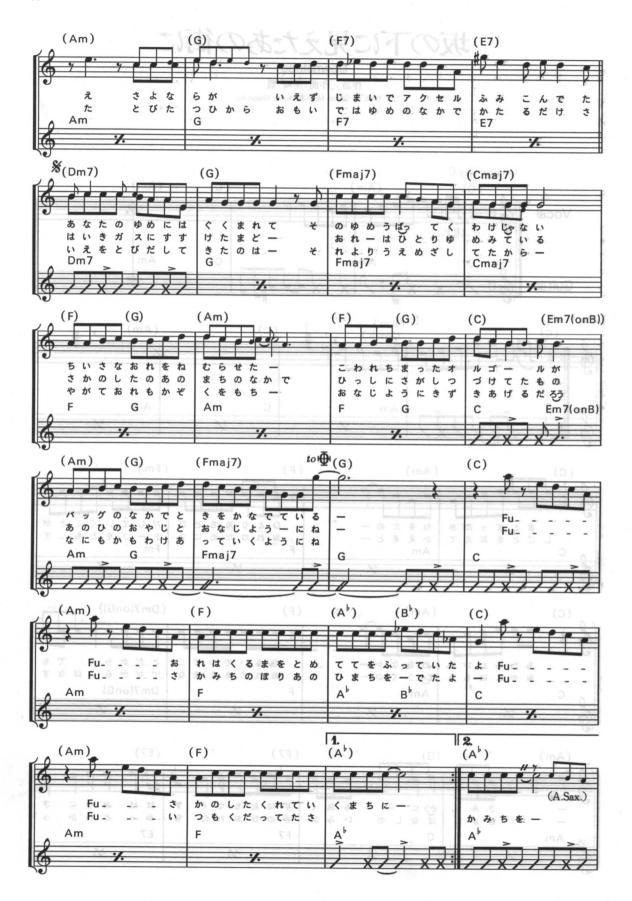




坂の下に見えたあの街に

Downslope



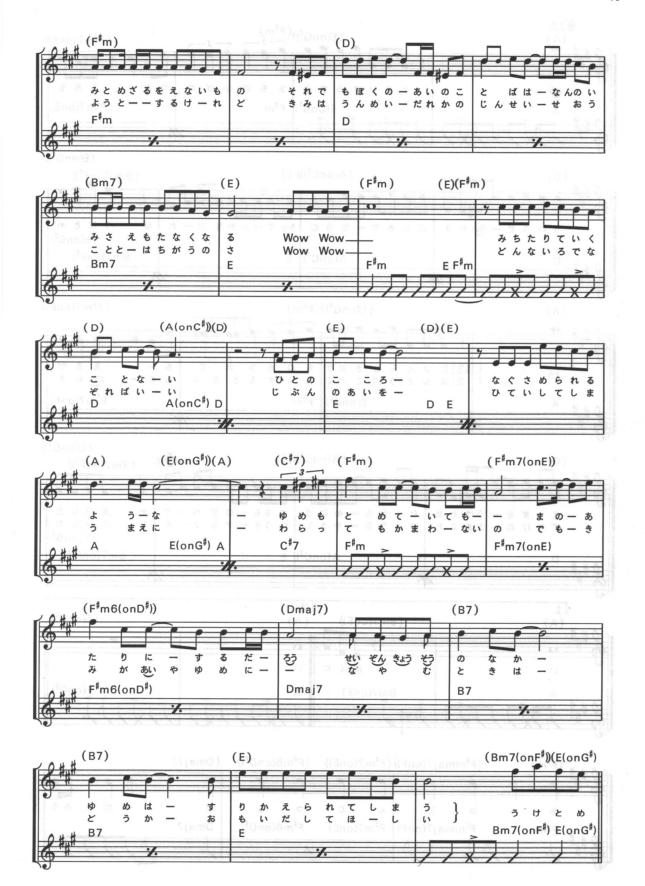




存在

Existence









群衆の中の猫

Cat In The Crowd









シェリー









Teenage Blue







Scrambling Rock'n' Roll

Words and Music by Yutaka Ozaki

俺達何かを求めてはわめく うるさい Rock'n' Roll Band 誰も見向もしない Scramble 交差点で歌っている ごらんよ 寂しい心を閉ざして歩くよ Hard Worker 自分のくらしが一番自分を傷つけると泣いてる

能達遠くの街から 少しの金にぎりやってきた 思う存分もはしゃぎまわれず Jungle Land に 迷いこむ

Scramblin' Rock'n' Roll

通りすがりの 着飾ったあの娘は クールに夜を歩く 悲しませるもの すがりつけるもの 胸にいくつかかかえ 俺達そんな見知らぬ彼女を 夢中にくどいている 彼女の胸の上 優しい光ともして眠りたい

睡眠不足の Sleepy Boy 闇には孤独と 夢を織りまぜ おびえた心のアクセルふかしても 街からは逃げられやしねえよ

Scramblin' Rock'n' Roll

自由になりたくないかい
熱くなりたくはないかい
自由になりたくないかい
思う様に生きたくはないかい
自由っていったいなんだい
どうすりゃ自由になるかい
自由っていったいなんだい
君は思う様に生きているかい

さかりのついた獣の様に 街はとても Dangerous 入口はあっても出口はないのさ 奪いあっては さまよう街角

自由になりたくないかい 熱くなりたくはないかい 自由になりたくないかい 思う様に生きたくはないかい 自由っていったいなんだい どうすりゃ自由になるかい 自由っていったいなんだい 君は思う様に生きているかい

寂しがりやの君の名前すら 離も知りはしない Scramble 交差点では 心を閉ざし解りあうことがない どんなふうに生きてゆくべきか わかってないね Baby 君の恐がってる ぎりぎりの暮しなら なんとか見つかるはずさ

奪いあいの街角で 夢を消しちゃいけないよ 見栄と偏見のふきだまり 気をつけて まっすぐ歩いてほしいよ

Scramblin' Rock'n' Roll

Scramblin' Rock'n' Roll 奪いあいの Rock'n' Roll

Bow!

Words and Music by Yutaka Ozaki

否が応でも社会に飲み込まれてしまうものさ 若さにまかせ 挑んでくドンキホーテ達は 世の中のモラルをひとつ 飲み込んだだけで ひとつ崩れ ひとつ崩れ すべて壊れてしまうものなのさ

あいつは言っていたね サラリーマンにはなりたかねえ 朝夕のラッシュアワー 酒びたりの中年達 ちっぱけな金にしがみつき ぶらさがってるだけじゃ NO NO 救われない これが俺達の明日ならば

午後4時の工場のサイレンが鳴る
心の中の狼が叫ぶよ
鉄を喰え 飢えた狼よ
死んでもブタには 喰いつくな
夢を語って過ごした夜が明けると
逃げだせない渦が 日の出と共にやってくる
中卒・高卒・中退 学歴がやけに目につく
愛よりも夢よりも 金で買える自由が欲しいのかい
午後4時の工場のサイレンが鳴る
心の中の狼が 叫ぶよ
鉄を喰え 飢えた狼よ
死んでもブタには 喰いつくな
鉄を喰え 飢えた狼よ
死んでもブタには 喰いつくな

Scrap Alley

Words and Music by Yutaka Ozaki

二人で中古の車に乗り込み ハイウェイを飛ばすおまえは明け始めた眩しい朝日に 祝福された 俺がいくつになると 子供はいくつになるだなんて 一度へマしたあの時も 同じように話してた おまえは十九で父親になり 暖かい暮しをみつけ明けゆく空 あの日見つめながら 二人で愛の生活を約束した 両手に抱えた生活の中で おまえの汗は愛に費やされ 暖かい暮しに小さな祝福をあげた 愛する者達は 俺だけをたよりに寄り添い暮し幸せがどれほど大切か感じている 昔はチンピラだったと 笑うおまえ 少し淋しく うつむいた 昔みたいな事じゃ もう笑えやしないと 最後におまえは 何度も歌った

Say Good-bye Scrap Alley
Say Good-bye ー人ぽっちのアクセル ON
Say Good-bye おんぱみのギター
Say Good-bye 擦り切れた Rock'n' Roll
がむしゃらに傷つき求めた あの日より幸せになってくれ
この胸に愛の生活を誓うために
おまえは何度も歌うのか
Say Good-bye Scrap Alley

あの頃へたくそな Rock Band 組んで 目立とうとして ボリュームを上げた 格好つけては 彼女の気を引いていた 割れるぐらいに音が上がると 警察が来て苦情を言われた 暫くは知らないふりで歌っていた 昔の事を思い出して 讃美して 懐かしがるつもりはない これからおまえの生きざまを思う時 おまえのShoutが 聞こえてくるんだ

Say Good-bye Scrap Alley
Say Good-bye 一人ぱっちのアクセル ON
Say Good-bye おんぱろのギター
Say Good-bye 擦り切れた Rock'n' Roll
がむしゃらに傷つき求めた あの日より幸せになってくれ
この胸に愛の生活を誓うために
おまえは何度も歌うのか
Say Good-bye Scrap Alley
Say Good-bye Scrap Alley

ダンスホール

Words and Music by Yutaka Ozaki 安いダンスホールは たくさんの人だかり 陽気な色と音楽と煙草の煙にまかれてた ギュウギュウづめのダンスホール しゃれた小さなステップ はしゃいで踊りつづけてる おまえを見つけた

子猫のような奴で なまいきな奴 小粋なドラ猫ってとこだよ。温のまとは、)の中の思いではは、ままり おまえはずっと踊ったね

気どって水割り飲みほして 慣れた手つきで、火をつける 気のきいた 流行文句だけに おまえは小さくうなづいた。 次の水割り手にして 訳もないのに 乾杯 こんなものよと 微笑んだのは たしかに つくり笑いさ

少し酔ったおまえは 考えこんでいた 夢見る娘ってとこだよ 決して目覚めたくないんだろう

あたい グレはじめたのは ほんの些細なことなの 彼がいかれていたし でも本当は あたいの性分ね 学校はやめたわ 今は働いているわ 長いスカートひきずってた のんびり気分じゃないわね 少し酔ったみたいね しゃべり過ぎてしまったわ けど金がすべてじゃないなんて きれいには言えないわ

母するる時は、能力は多たよりに寄り膨い等し

皆はチンピラだったと 英・岐土丸

夕べの 口説き文句も忘れちまって 今夜もさがしに行くのかい 寂しい影 落しながら

俺の胸で眠るがいいませんがままず、中のまたは、または、 そうさおまえは孤独なダンサー

卒業

Words and Music by Yutaka Ozaki

校舎の影 芝生の上 すいこまれる空 幻とリアルな気持 感じていた チャイムが鳴り 教室のいつもの席に座り 何に従い。従うべきか考えていた。 ざわめく心 今 俺にあるものは 意味なく思えて とまどっていた カロー 発き 割り込ませる

放課後 街ふらつき 俺達は風の中 孤独 瞳にうかべ 寂しく歩いた 笑い声とため息の飽和した店で ピンボールのハイスコアー 競いあった 退屈な心 刺激さえあれば ままなりをいることも かい 何でも大げさにしゃべり続けた

行儀よくまじめなんて 出来やしなかった 夜の校舎 窓ガラス壊してまわった コンボング タボウオ 逆らい続け あがき続けた 早く自由になりたかった 信じられぬ大人との争いの中でもよるままではまません。 許しあい いったい何 解りあえただろう うんざりしながら それでも過した ひとつだけ 解ってたこと マロボーキリ人 ママ かっし つき この支配からの 卒業

誰かの喧嘩の話にみんな熱くなり 自分がどれだけ強いか。知りたかった。 従うとは負けることと言いきかした。《のき郷は遺伝をはる生活 友達にさえ 強がって見せた wollA gara? and hone and この支配からの 卒業 キリロウスアールのみに ちゅんし 時には誰かを傷つけても

坂の下に見えたあの街に

Words and Music by Yutaka Ozaki

まとまった金をため ひとり街飛び出して行くことが 新しい夢の中 歩いて行くことだから でも寂しそうに見送りに立ちつくす母親にさえ さよならが言えずじまいで アクセルふみ込んでた あなたの夢に育ぐくまれて、その夢奪ってくわけじゃない

小ちな俺を眠らせた こわれちまった オルゴールが バッグの中で 時をかなでている 俺は車を止めて 手を振っていたよ 坂の下 暮れて行く街に

仕事を終えて帰ると 俺のためにストーブをともして 親父はもう十九の俺の頭 なでながら 話す昔話の意味が その日俺にもやっとわかった 飛び立つ日から思い出は 夢の中で語るだけさ 排気ガスにすすけた窓 俺はひとり夢見ている 坂の下のあの街の中で 必死に探し続けてた物 あの日の親父と同じ様にね

坂道のぼり あの日街を出たよ いつも下ってた 坂道を 家庭を飛び出してきたのは それより上目指してたから やがて俺も家族を持ち 同じ様に築きあげるだろう 何もかもわけあって行く様にね

思い出す たそがれて行く街を 坂の下 たたずんでいた街を 俺はいくつもの 傷をきざみこんだ 坂の下に見えたあの街の中

やがて誰も恋に落ちて 愛の言葉と は かんしょ だい はっぱん 理想の愛 それだけに心奪われた 生きる為に 計算高くなれと言うが るいしゃべききゃ 人を愛すまっすぐさを強く信じた 大切なのは何 愛することと 生きる為にすることの区別迷った

行儀よくまじめなんて クソくらえと思った 夜の校舎 窓ガラス壊してまわった 逆らい続け あがき続けた 早く自由になりたかった 信じられぬ大人との争いの中で 許しあい いったい何 解りあえただろう うんざりしながら それでも過した ひとつだけ 解ってたこと この支配からの 卒業

卒業して いったい何解ると言うのか 想い出のほかに 何が残るというのか 人は誰も縛られた かよわき小羊ならば 先生あなたは かよわき大人の代弁者なのか 俺達の怒り どこへ向うべきなのか これからは 何か俺を縛りつけるだろう あと何度自分自身 卒業すれば

仕組まれた自由に 誰も気づかずに あがいた日々も 終る 数学中のできる時 闘いからの 卒業



存在

Words and Music by Yutaka Ozaki

にぎやかな街 隠しきれないさみしさが ほら見つめてる 小さくかがめて守らなければ 自分の存在すら見失うよ 誰もかれもの存在ならば いつも認めざるをえないもの それでも僕の愛の言葉は 何の意味さえもたなくなる 満ちたりて行くことない 人の心なぐさめられる様な 夢求めていても まのあたりにするだろう 生在競争の中 夢はすりかえられてしまう

受け止めよう 目まいすらする 街の影の中 さあもう一度 愛や誠心で立ち向って行かなければ 受け止めよう 自分らしさに うちのめされても あるがままを受け止めながら 目に映るもの全てを愛したい 僕に見えるものは いつも当はずれが多かったけれど 現実と夢の区別くらいは ついていたはずだった 何もかもをあるがままに 受けとめ様とするけれど 君は運命 誰かの人生 背負うこととはちがうのさ どんな色でなぞればいい 自分の愛を否定してしまうまえに 笑ってもかまわないの でも君が愛や夢に 悩む時は どうか思い出して欲しい 受け止めよう 目まいすらする 街の影の中 さあもう一度 愛や誠心で たちむかって行かなければ 受け止めよう 本当のこと口にする君の目を 誰も傷つけぬ 気まぐれの様な やさしいうそすらさえも愛したい 愛は真実なのだろうか 愛は君を救ってくれるだろうか 背中あわせの裏切りに打ちのめされても それでもいい 愛してる 他に何ができるの 受け止めよう 目まいすらする 街の影の中 さあもう一度 愛や誠心で立ち向って行かなければ 受け止めよう 自分らしさに うちのめされても あるがままを 受け止めながら 目に映るもの全てを

群衆の中の猫

Words and Music by Yutaka Ozaki

悲しみの色に 塗りつぶされて行く黄昏の街家路を辿る人ごみの中 愛だけたよりに 雑踏の中に君を探している 時々君を見失いそうになる きらびやかな街に 君は目を奪われている 上手に笑っても 君の瞳に僕が映らないから 誰も少しずつ 生き方を変えて行くけど 求める愛の姿は変らないから 輝き失なわぬ様 君らしく 生きて欲しいから やさしく肩を抱き寄せよう 君が悲しみにくれてしまわぬ様に やさしく肩を抱き寄せよう

群衆にまぎれ込んだ 子猫の様に 傷ついて路頭 さまよい続けているなら ねえここへおいでよ 笑顔を僕が守ってあげるから 突然降り出した雨から 君をつつむ時 僕のせいで 君が泣くこともあるだろう

僕の胸で泣いてよ 何もかも わかちあって行きたいから

やさしく肩を 抱き寄せよう 雨に街が輝いて見えるまで やさしく肩を 抱き寄せよう

何を求めて人はさまようのだろうか 君も僕もこの街の中でもうおびえないで 君らしく輝いて欲しいから

やさしく肩を 抱き寄せよう 君が悲しみにくれてしまわぬ様に やさしく肩を 抱き寄せよう こんなに君を愛しているから

シェリー

Words and Music by Yutaka Ozaki

シェリー 俺は転がり続けて こんなとこにたどりついた

シェリー 俺はあせりすぎたのか むやみに何もかも 捨てちまったけれど

シェリー あの頃は夢だった 夢のために生きてきた俺だけどシェリー おまえの言うとおり 金か夢かわからない暮しさ

転がり続ける 俺の生きざまを 時には無様なかっこうでささえてる

シェリー 優しく俺をしかってくれ そして強く抱きしめておくれ おまえの愛が すべてを包むから

シェリー いつになれば 俺は這い上がれるだろう

シェリー どこに行けば 俺はたどりつけるだろう

シェリー 俺は歌う 愛すべきものすべてに

シェリー 見知らぬところで 人に出会ったらどうすりゃいいかい

シェリー 俺ははぐれ者だから おまえみたいにうまく笑えやしない

シェリー 夢を求めるならば 孤独すら恐れやしないよね

シェリー ひとりで生きるなら 涙なんか見せちゃいけないよね

転がり続ける 俺の生きざまを 時には涙をこらえてささえてる

シェリー あわれみなど 受けたくはない 俺は負け犬なんかじゃないから 俺は真実へと歩いて行く

シェリー 俺はうまく歌えているか 俺はうまく笑えているか 俺の笑顔は卑屈じゃないかい 俺は誤解されてはいないかい 俺はまだ馬鹿と呼ばれているか 俺はまだまだ恨まれているか 俺に愛される資格はあるか 俺は決してまちがっていないか 俺は真実へと歩いているかい

シェリー いつになれば 俺は這い上がれるだろう シェリー どこに行けば 俺はたどりつけるだろう

シェリー 俺は歌う 愛すべきものすべてに

Teenage Blue

Words and Music by Yutaka Ozaki

埃っぽい街 壁に登って Teenage Blue ハーモニカ吹けば 淋しい街のノイズに合う 静かな Rock'n' Roll & Blues 一本の煙草を吸いつくすまでに どれくらい時を無駄にできるか 賭けよう 知らない顔でいる君を見てる 悲しいまでの僕 何もかも 燃えてしまえばいい

抱きしめてよ 震えてる心 愛を捜して さまよってるから 変わらないもの 街にはないけど それでもいいよ 抱きしめてほしい 静かな Rock'n' Roll & Blues 聞いていたい

ドラッグにチョコレート そして Rock'n' Roll 足元に舞う風のように 恋に落ちては枯れてしまう

静かな Rock'n' Roll & Blues 思い浮かべてた あの頃の笑顔を あの頃傷つけ合った 心の痛みを ほら坂道で歌う 少女の夢のよう 一日の終わり 燃えてる

抱きしめてよ 震えてる心 愛を捜して さまよってるから 変わらないもの 街にはないけど

それでもいいよ 抱きしめてほしい

静かな Rock'n' Roll & Blues 聞いていたい

きさがる方 学に見える WAR 4 STORE \$ 3 00 3 10 heh3 A 3 まるファ東 Locative 上かりけり 11755 (0)出北美 -6000 支付上市。 きまなるの

度LAM

FJQLA **りかる 40%** 师言失证 うつら音 11159 置) リカウ 医生工序物

Yutaka Ozaki Complete Song Book



through the broken door

壊れた扉から THROUGH THE BROKEN DOOR

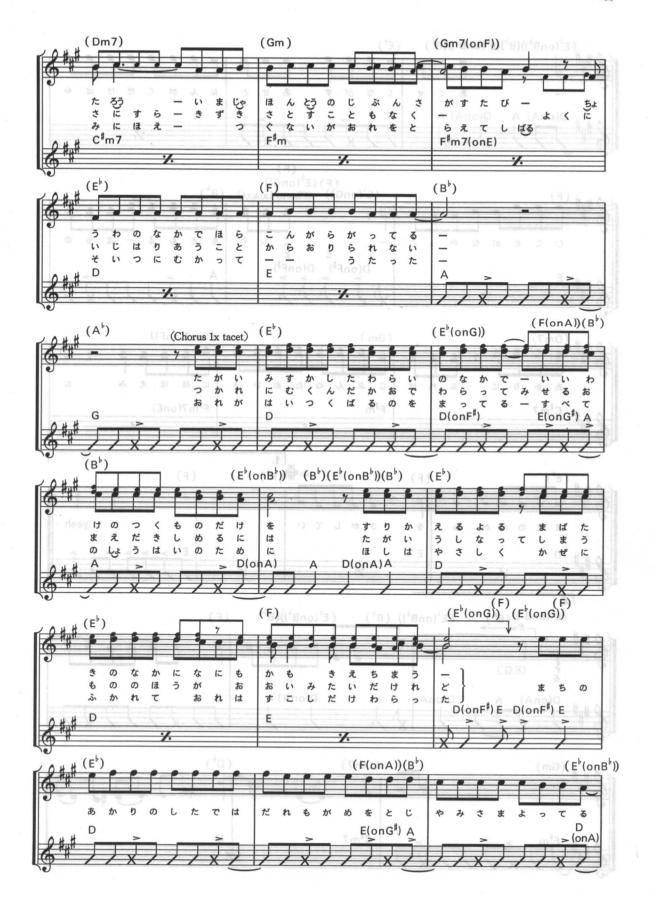
SONY RECORDS SRCL 1912

路上のルール RULES ON THE STREET

RULES ON THE STREET 作詩/作曲:尾崎 豊

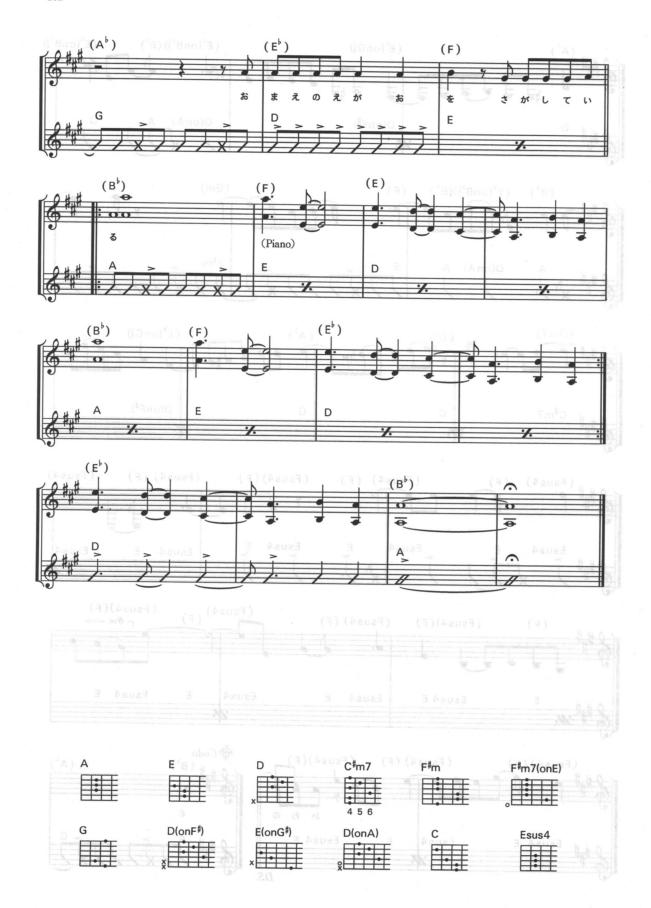
© 1985 by Grand Mother Music Vision Inc.











失くした1/2

ALTERNATIVE

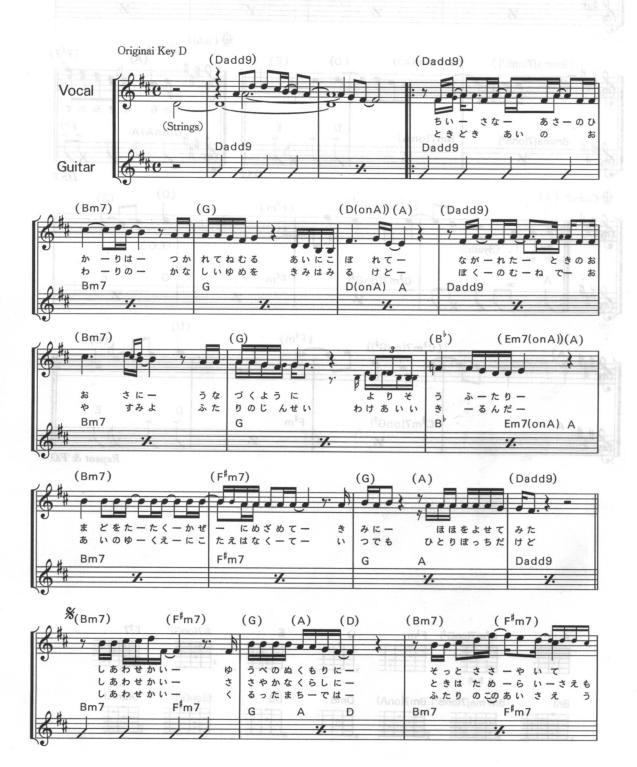






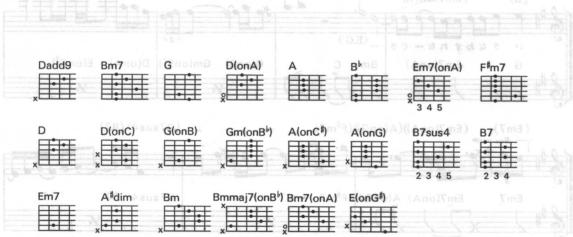


Forget-me-not









(m5)(いまの)(m)米軍キャンプ

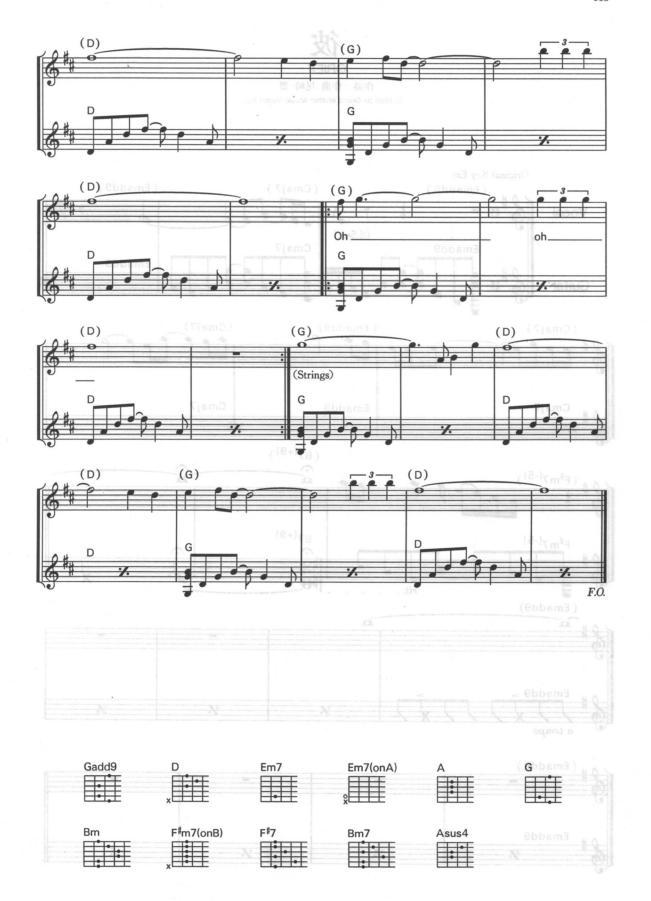
BASE CAMP









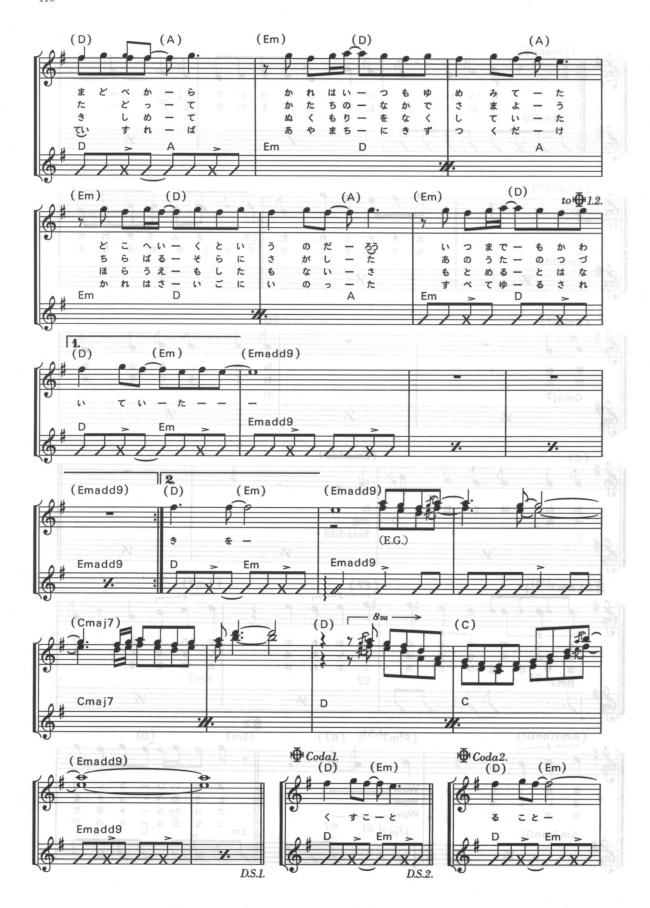




GRIEF



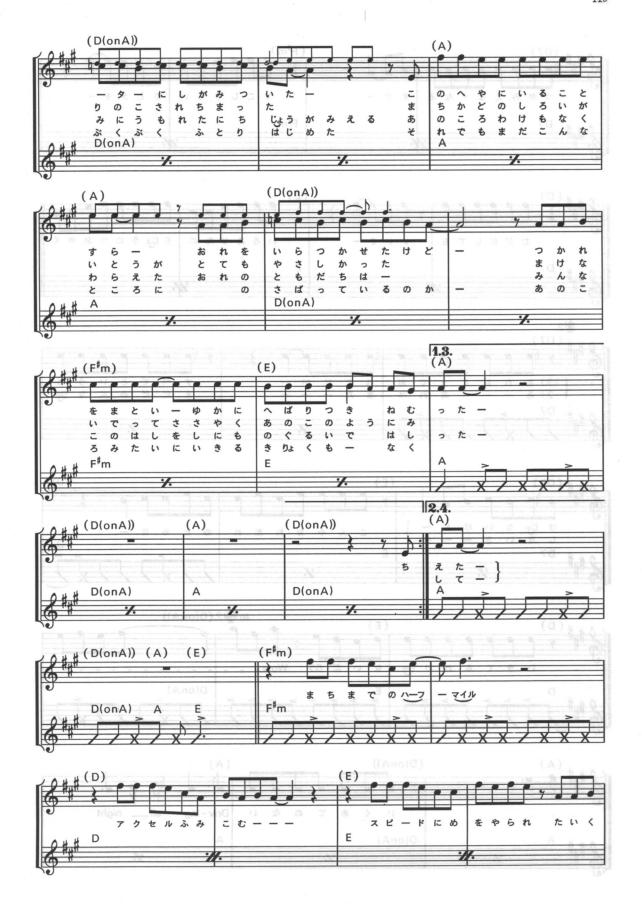






Driving All Night















た

おん

が

Dm7

に

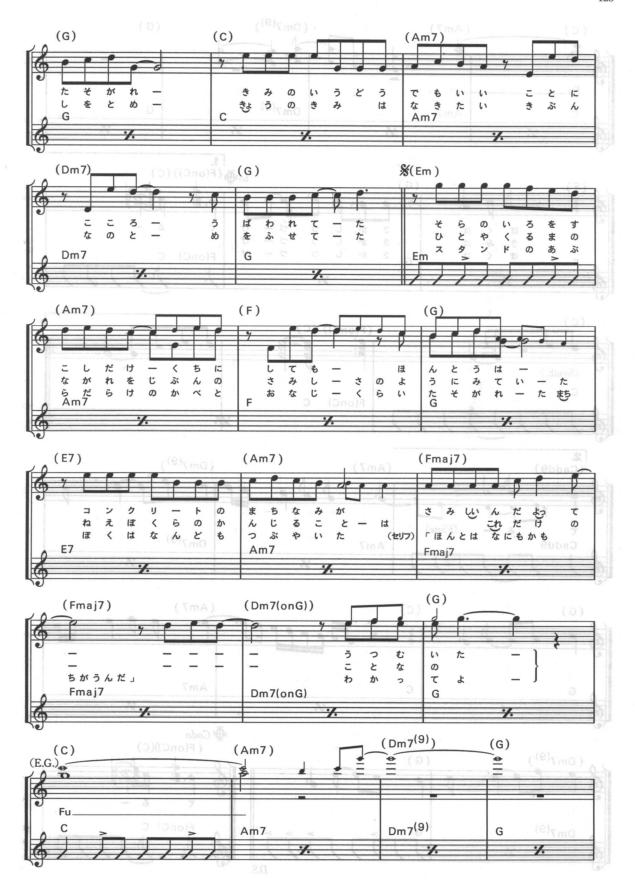
Ø

3

か

なが

Am7

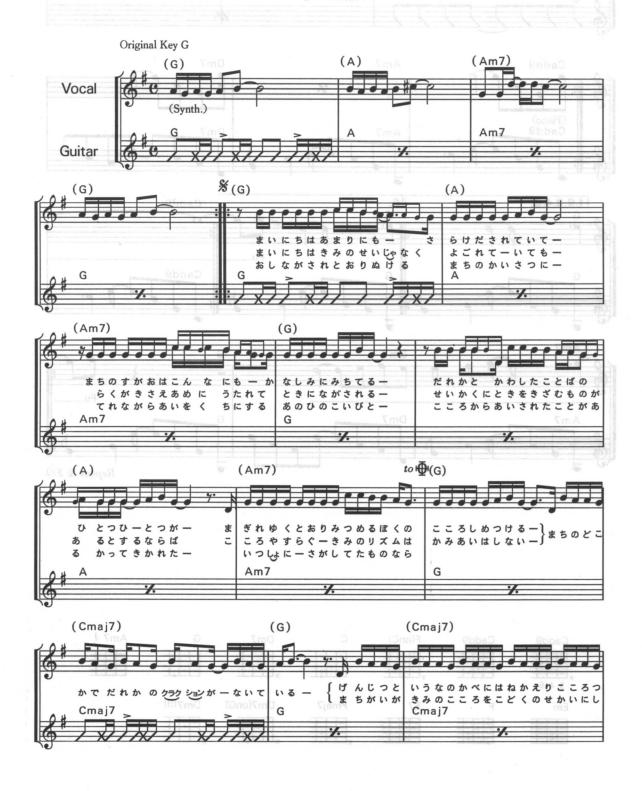


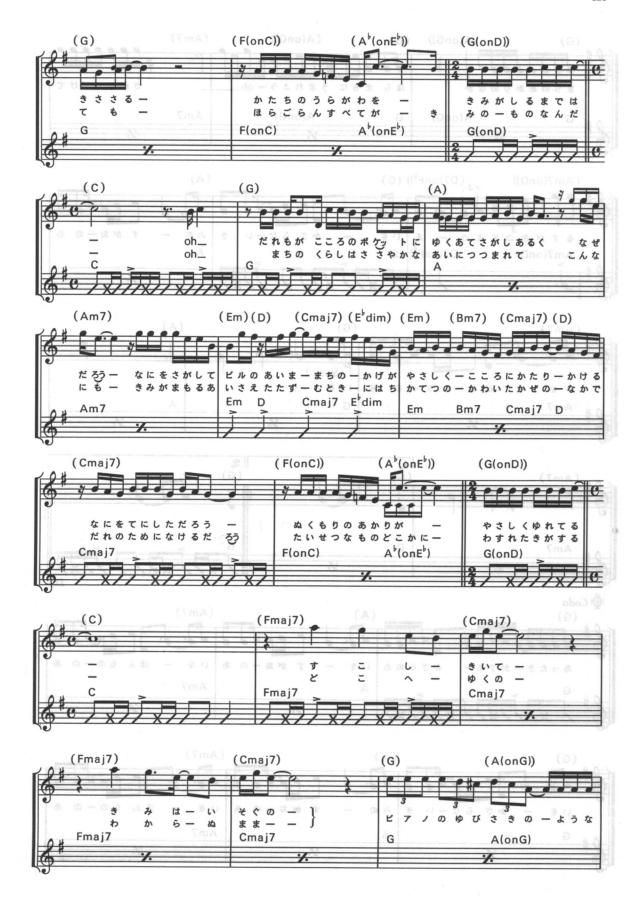




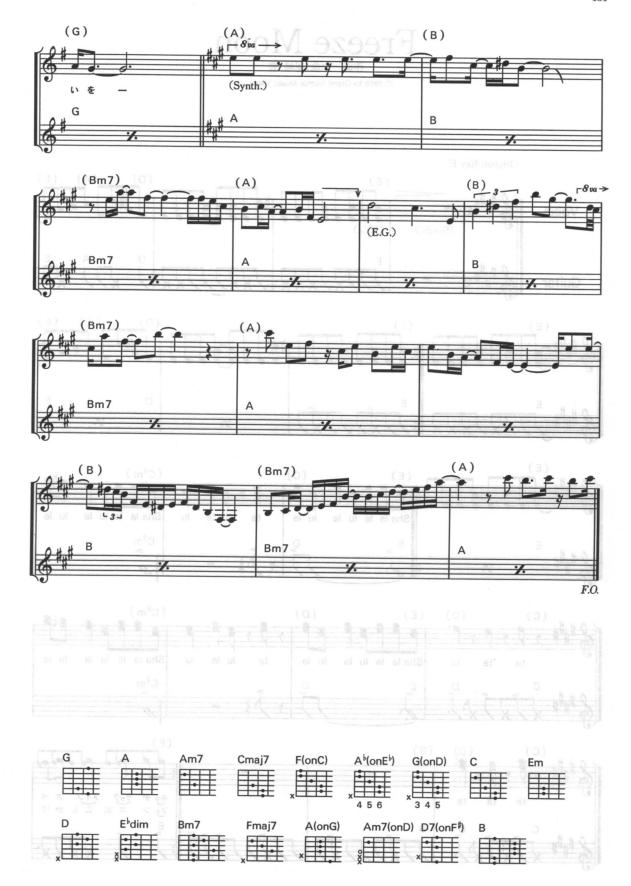
誰かのクラクション

SOMEBODY BEEPS A KLAXON









Freeze Moon

作詩/作曲:尾崎 豊

© 1985 by Grand Mother Music Vision Inc.















路上のルール IdgiZ IIA anivir(I

Words and Music by Yutaka Ozaki

洗いざらいを捨てちまって 何もかもはじめから やり直すつもりだったとはでは夢が もう どれくらい流れたろう 今じゃ本当の自分 捜すたび 調和の中で ほら こんがらがってる 互い見すかした笑いの中で 言訳のつくものだけを すり替える夜 瞬きの中に 何もかも消えちまう 街の明りの下では 誰もが目を閉じ 闇さまよってる

あくせく流す汗と 音楽だけは 止むことがなかった 今夜もともる街の明りに 俺は自分のため息に 微笑み おまえの笑顔を 捜している

傷をなめあう ハイエナの道の脇で 転がって いったい俺は何を主張しかかげるのか もう自分では 愚かさにすら気付き 論す事もなく 欲に意地はりあうことから 降りられない

疲れにむくんだ 顔で笑ってみせる おまえ抱きしめるには 互い失ってしまうものの方が 多いみたいだけれど

街の明りの下では 誰もが目を閉じ 闇さまよってる あくせく流す汗と 音楽だけは 止むことがなかった 今夜もともる 街の明りに 俺は自分のため息に 微笑み おまえの笑顔を捜している

河のほとりに とり残された俺は 街の明りを 同のはとりに こり次された底は 歯の切りを 見つめてた 思い出か俺の心を 縛るんだ 目にくるまり 関に眩き 僧いが飾を 月にくるまり 闇に吠え 償いが俺を とらえて縛る そいつに向って歌った

俺がはいつくばるのを待ってる 全ての勝敗のために 星はやさしく 風に吹かれて 俺は少しだけ笑った

街の明りの下では 誰もが目を閉じ 闇さまよってる あくせく流す汗と 音楽だけは 止むことがなかった 今夜もともる 街の明りに 俺は自分のため息に 微笑み おまえの笑顔を 捜している

おまえの笑顔を 捜している



失くした½

Words and Music by Yutaka Ozaki

ひとりぼっちの夜の闇が やがて静かに明けてゆくよ 色褪せそうな自由な夢に 追いたてられてしまう時も 幻の中 答はいつも 朝の風に空しく響き つらい思いに 愛することの色さえ 忘れてしまいそうだけど あきらめてしまわないでね しゅん こうしゅん

ひとりぼっち感じても はっこう ログロール さあ心を開く鍵で 自由描いておくれ

安らかな君の愛に 真実はやがて訪れる

信じてごらん笑顔から すべてがはじまるから

ついてない時には 何もかもから目をそらすけれど 僕は壊れそうな愛の姿を 君の心に確かめたいだけ いつまでも見つからぬもの 捜すことも必要だけれど ひとつひとつを暖めながら 解ってゆくことが大切さ

ひとりぼっち感じても 誰もがみな 愛求めて 世界はほら 回るよ

安らかな君の愛に 真実はやがて訪れる 信じてごらん 笑顔からすべてが はじまるから

あきらめてしまわないでね ひとりぼっち感じても、アースのようでは、「おおからの人」という さあ心を開く鍵で 自由描いておくれ

安らかな君の愛に 真実はやがて訪れる 信じてごらん 笑顔からすべてが はじまるから あきらめてしまわないで 真実はやがて訪れる 信じてごらん 笑顔からすべてがはじまるから

Forget-me-not

Words and Music by Yutaka Ozaki

小さな朝の光は 疲れて眠る愛にこぼれて 流れた時の多さに うなずく様に よりそう二人 窓をたたく風に目覚めて 君に頰をよせてみた

幸せかい 昨晩のぬくもりに コーラン ※ ②素のみぐ そっとささやいて 強く君を抱きしめた はる はる はなる

初めて君と出会った日 僕はビルのむこうの 空をいつまでも さがしてた

君がおしえてくれた 花の名前は 街にうもれそうな 小さなわすれな草 ペングラ のじょうか

時々愛の終りの悲しい夢を 君は見るけど 僕の胸でおやすみよ 二人の人生 わけあい生きるんだ 愛の行く方に答はなくて いつでもひとりぼっちだけど

幸せかい ささやかな暮した 単位は コリック 100 を 100 を

時はためらいさえも ごらん愛の強さに変えた

時々僕は無理に君を 僕の形に はめてしまいそうになるけれど 二人が育くむ 愛の名前は 一点 ははするものもあるから 街にうもれそうな 小さなわすれな草

行くあてのない街角にたたずみ 君に口づけても

幸せかい 狂った街では 二人のこの愛さえ うつろい踏みにじられる 初めて君と出会った日 僕はビルのむこうの 空をいつまでもさがしてた 君がおしえてくれた 花の名前は 街にうもれそうな 小さなわすれな草

米軍キャンプ

Words and Music by Yutaka Ozaki

行き場のない街を 俺は一人ふらついてた 店も終わり 仲間も消えた 吸殻の道で 街頭の小さなノイズにさえ 心震えてた夜 初めて おまえの胸で 眠った

おまえはあんまり 上品に笑わなかった はんしょう はんしん 人込みの中では 一言もしゃべらなかった がん ままま ボめ合う夜は 傷をなめるように 愛を探しては こんで毛布にくるまって 眠った

夜の街 小さな店で働く おまえのこと (1980年) かいます 朝が来て ネオンに解き放たれるまで (1980年) 作は待っていた (1980年) 1980年 (1980年) (1

Oh おまえはこの街を呪い かたくなに夢を買い占め さまよってるだろう Oh こんな夜は 報われぬ愛に 失ったおまえを 抱きしめたい

昨夜は店の客にせがまれて 海へ行った ケンカばかりしてて つまらなかったと笑う 知らない男の名前を おまえが口にする夜 涙ではらました男の リングが光ってた

米軍キャンプ跡の崩れかけた工場 凍りつく闇にとけ 震えてる車の中 力なく伸ばした手で抱きつく おまえの髪を 撫でると 放さないでとつぶやき しがみついた 時には二人の生活が 夢さえ育んでいた

時には二人の生活が 夢さえ育んでいた 大切な物を 引き裂く何かに 二人が気付くまで

Oh おまえは この街を呪い かたくなに夢を買い占め さまよってるだろう Oh こんな夜は 報われぬ愛に 失ったおまえを 抱きしめたい

彼

Words and Music by Yutaka Ozaki

もろい暮し しみついたコンクリート おきざられた公園 ちぎれた夢 ひろい集め 彼は育った

そこでは何もかもが 彼へとつながった 弱い陽ざしの窓辺から 彼はいつも夢見てた どこへ行くと言うのだろう いつまでも乾いていた

やがて遠く 街をたどると 水たまりのぞきこみ 闇をなげた 無口にならべた Drug

夢に泣きはらした目 静かに迷いこみ 時のペッドをたどって 形の中でさまよう 散らばる空にさがした あの詩の続きを

ばやけた瞳で 彼はあの日をのばった
アスファルトを抱きしめて ぬくもりを失くしていた
ほら 上も下もないさ 求めるとは失くすこと
つながるもの否定すれば 過ちに傷つくだけ
彼は最後に祈った すべて許されることを

Driving All Night

Words and Music by Yutaka Ozaki Andre Cod Struck transmission in

さまようように 家路をたどり 冷たい部屋にころがりこむ 脱ぎすてたコートを押しのけ ヒーターにしがみついた この部屋にいることすら 俺をいらつかせたけど 疲れをまとい 床にへばりつき 眠った

ちっぽけな日々が ありあまる壁から逃れるように 街へ飛び出すと 冷えきった風に とり残されちまった 街角の白い街燈が とても優しかった 敗けないでってささやく あの娘のように見えた

街までのハーフ・マイル アクセル踏み込む
スピードに目をやられ 退屈が見えなくなるまで
少しぐらいの時を 無駄にしてもいいさ
色褪せた 日常につぶやく
俺にとって俺だけが すべてというわけじゃないけど
今夜俺誰のために 生きてるわけじゃないだろう

Wow wow 行くあてのない Driving all night Wow wow 慰めのない Driving all night

見あきた街を通りぬけて 寂しい川の上を走った 追い抜いたトラックの向うに 闇に埋もれた日常が見える あの頃 わけもなく笑えた 俺の友達は みんなこの橋を 死物狂いで走った

Honey 俺は何処へ走って行くのか 街のドラッグにいかれて 俺の体はぶくぶく太りはじめた それでもまだこんなところに のさばっているのか あの頃みたいに 生きる気力もなくして

街までのハーフ・マイル アクセル踏み込む スピードに目をやられ 退屈が見えなくなるまで 少しぐらいの時は 無駄にしてもいいさ 色褪せた 日常につぶやく 俺はまだまだ だめになりゃしないさ

今夜俺 誰のために 生きてるわけじゃないだろ

Wow wow 行くあてのない Driving all night
Wow wow 慰めのない Driving all night

俺にとって 俺だけが すべてというわけじゃないけど 今夜俺 誰のために 生きてるわけじゃないだろ

Wow wow 行くあてのない Driving all night
Wow wow 慰めのない Driving all night
Wow wow ではい ではいる Brown all night
Wow wow 慰めのない Driving all night

ドーナツ・ショップ

Words and Music by Yutaka Ozaki

あの頃僕が見ていた ガード・レール越しの黄昏君の言う どうでもいいことに 心奪われてた 空の色を すこしだけ口にしても 本当は コンクリートの街並が さみしいんだよって うつむいた

僕は探しつづけてる

ドーナツ・ショップに流れる 音楽に足を止め 今日の君は 泣きたい気分なのと 目をふせてた 人や車の流れを 自分のさみしさの様に見ていた ねえ 僕らの感じることは これだけのことなの

君は探しつづけてる

スタンドの油だらけの壁と 同じくらい黄昏た街 僕は何度も つぶやいた 本当は 何もかも違うんだ わかってよ

僕は探しつづけてる

誰かのクラクション

Words and Music by Yutaka Ozaki

毎日はあまりにも さらけ出されていて 街の素顔はこんなにも 悲しみに満ちてる 誰かと交した 言葉のひとつひとつが 紛れゆく通り 見つめる僕の心 しめつける 街のどこかで 誰かのクラクションが泣いている 現実という名の壁に はねかえり 心つきささる 形の裏側を 君が知るまでは

誰もが心のポケットに 行くあて捜し歩く 何故だろう 何を捜して ビルの合間 街の影がやさしく心に語りかける "何を手にしただろう" ぬくもりの明りが やさしくゆれてる

少し聞いて 君は急ぐの ピアノの指先の様な 街の明りの中 ほら街に生まれよう

さがし続けてる 素顔のままの愛を かざらない君の素顔の愛を 本物の愛を

毎日は君のせいじゃなく 汚れていても 落書さえ雨にうたれて 時に流される 正確に時を刻むものが あるとするならば 心やすらぐ君のリズムは かみあいはしない 街のどこかで 誰かのクラクションが泣いている 間違いが君の心を 孤独の世界にしても ほらごらん 全てが君のものなんだ

街の暮しは ささやかな愛につつまれて こんなにも 君か守る愛さえ たたずむ時には 地下鉄の乾いた風の中で

"誰のために泣けるだろう" 大切なもの どこかに忘れた気がする

どこへ行くの わからぬまま ピアノの指先の様な 街の明りの中 ほら 街に生まれよう

さがし続けてる 素顔のままの愛を かざらない君の 素顔の愛を 本物の愛を

押し流され 通り抜ける 街の改札に 照れながら 愛を口にする あの日の恋人 心から愛された事が あるかって聞かれた 一緒に捜してたものなら あった気がする かざらぬ愛を 素顔の愛を 本物の愛を かざらない君の 素顔の愛を 本物の愛を



Freeze Moon

Words and Music by Yutaka Ozaki

キャデラック・メイン・アベニューでは 今ウブなあの娘の hip bang で 俺達はメロメロになる そして腹ペコをかかえた俺達は バーガー・ショップに駆けこんで ポテトをコーラで流しこむ みんないい気持ちになりたくて 何度も息を止めてみるけど そのたび 金網にへばりついては 転げ落ち いつでもさみしい思いをしている

俺は風を感じる 風を求めて wow oh 風がどこへ行こうとしてるか 俺は知りたい 胸をはるんだ

今夜は朝が来るまで 走り続けているから 君はエンジンの音の中で 眠ればいい

oh oh………選をひろげ oh oh………風を求めて 俺達の真夜中の翼は ボロボロになっちまう どうしようもなく また街に敷る 俺達の終りなき dance

フェンスに腰かけ ビクビクしていた あの頃と似たような顔つきで みんなだまりこくっちょう 彼女は今夜も ドラッグにいかれて 昔みたいな ドラッグ・クィーンになろうとしている もうガラスをひっかく音は 聞こえないけれど 今でもストリートには ガラスの破片が星のようにちらばっている それはまるで まるであの頃の俺達の夢みたいに

みんな風を感じる 風を求めて wow oh 風がどこへ行こうとしてるか みんな知りたくないかい 胸をはるんだ

まだ まだ 何か足りないなら 通りに出て 夜を買えばいい 誰も"どうして?"なんて聞かないから

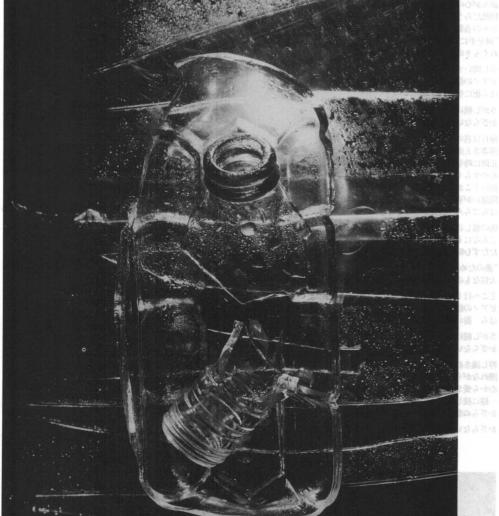
oh oh……翼をひろげ oh oh……風を求めて 俺達の真夜中の翼は ボロボロになっちまう どうしようもなく また街に戯れる 俺達の終りなき dance

夜はいつでも 凍りついていて 置きっぱなしのバイクにまたがると 昔みたいな気持になっちまう ボンネットに寝転んだやつらは この街で一番さみしい 星をみつけ 誰にもわからないような 一人言をつぶやいている

いったいなんだったんだ こんな暮し こんなリズム いったいなんだったんだ きっと 何もかもがちがう 何もかもがちがう 何もかもがちがう

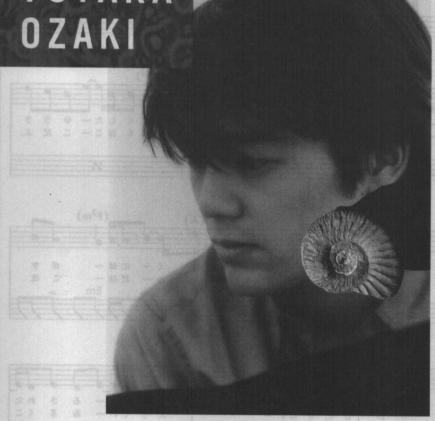
oh oh……翼をひろげ oh oh……風を求めて

のでのでは、またのに関わても、またのに何かでも 素がとなりませ、高額のひとつひとつが、 続かけなくます。美でかるも限の心 しいつける 作のことがで、美でのマラクションをだいている 現実という名の様に、は近かまり、そのきささる 作の高額を、着か観るまでは、



Yutaka Ozaki Complete Song Book

CORE YUTAKA OZAKI



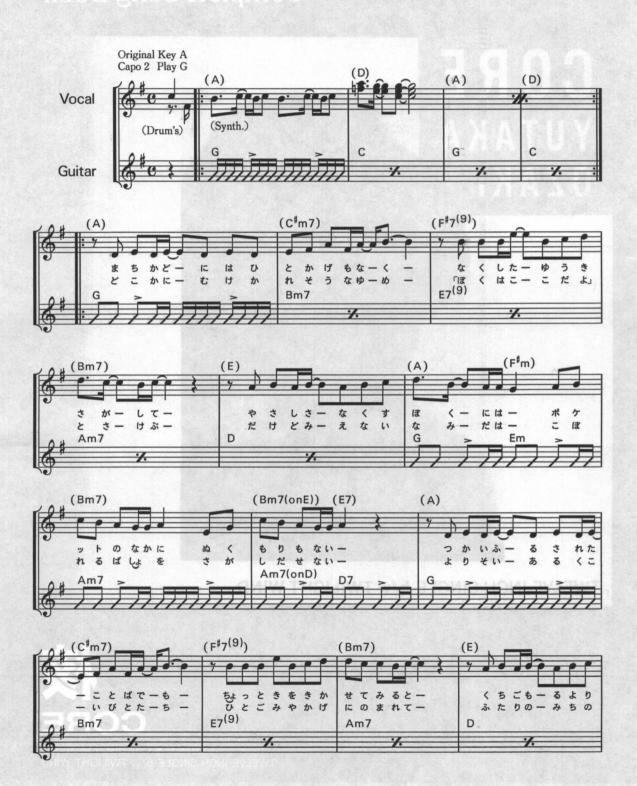
TWELVE-INCH SINGLE b/w TWILIGHT WIND

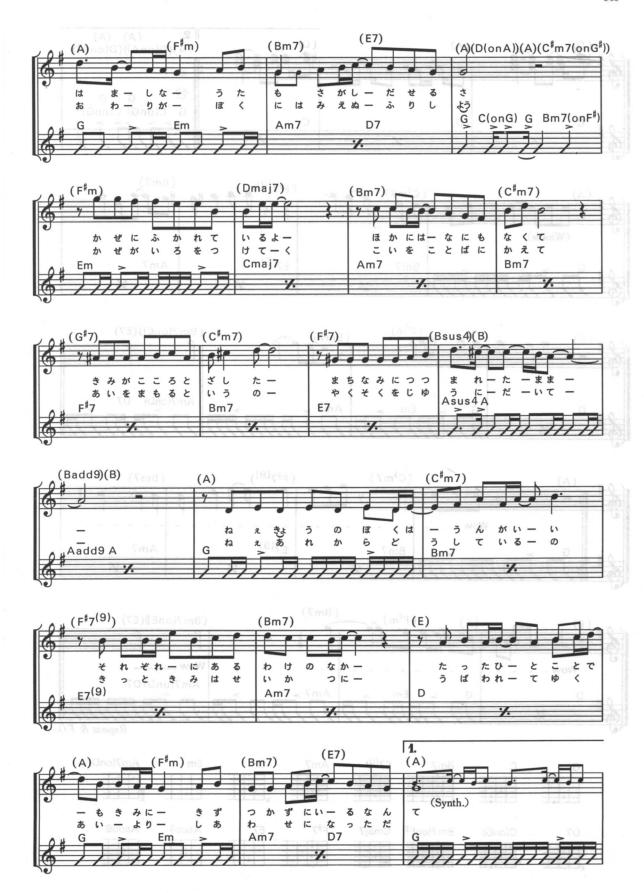


MOTHER & CHILDREN MCR-502 TWELVE-INCH SINGLE b/w TWILIGHT WIND

街角の風の中 TWILIGHT WIND 作詩/作曲:尾崎 豊

© 1987 by Grand Mother Music Vision Inc.







街角の風の中

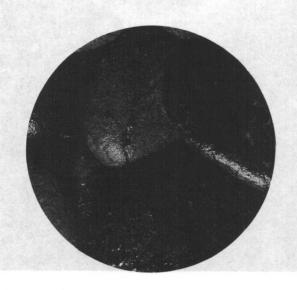
Words and Music by Yutaka Ozaki

街角には 人影もなく 失くした勇気捜して 優しさ失くす僕には ポケットの中に温もりもない 使い古された言葉でも ちょっと気を利かせてみると 口ごもるよりはましな 歌も探し出せるさ 風に吹かれているよ 他には何もなくて 君が心閉ざした 街並に包まれたまま ねぇ 今日の僕は運がいい それぞれにあるわけの中たった一言でも君に 傷つかずにいるなんて どこかに向け 枯れそうな夢「僕はここだよ」と叫ぶ だけどほったい ジャン・アルト これをおる地所を地し出せたい。

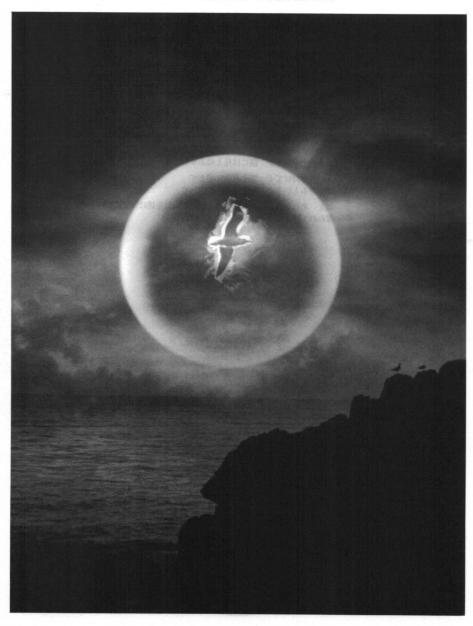
だけど見えない涙は こぼれる場所を捜し出せない よりそい歩く恋人達 人混みや影にのまれて 二人の道の終りが 僕には見えぬふりしよう

風が色を付けてく 恋を言葉に変えて 愛を守るというの 約束を自由に抱いて

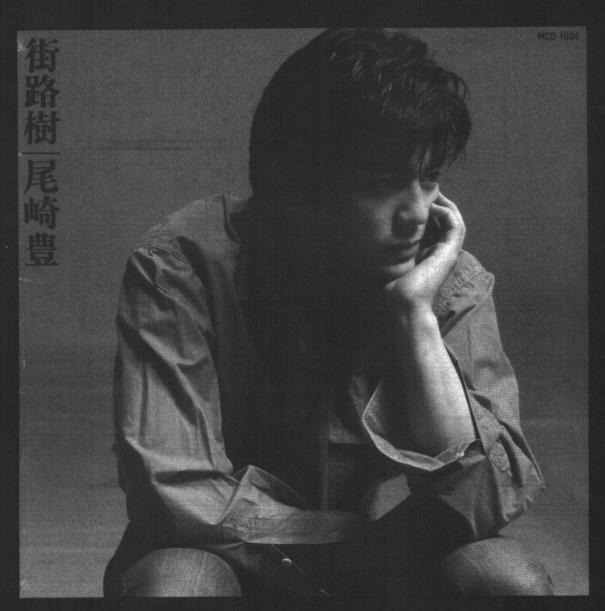
ねぇ あれからどうしているの きっと君は生活に 奪われてゆく愛より 幸せになっただろう



街角の風の中



Yutaka Ozaki Complete Song Book



街路樹

MOTHER & CHILDREN MCD-1004

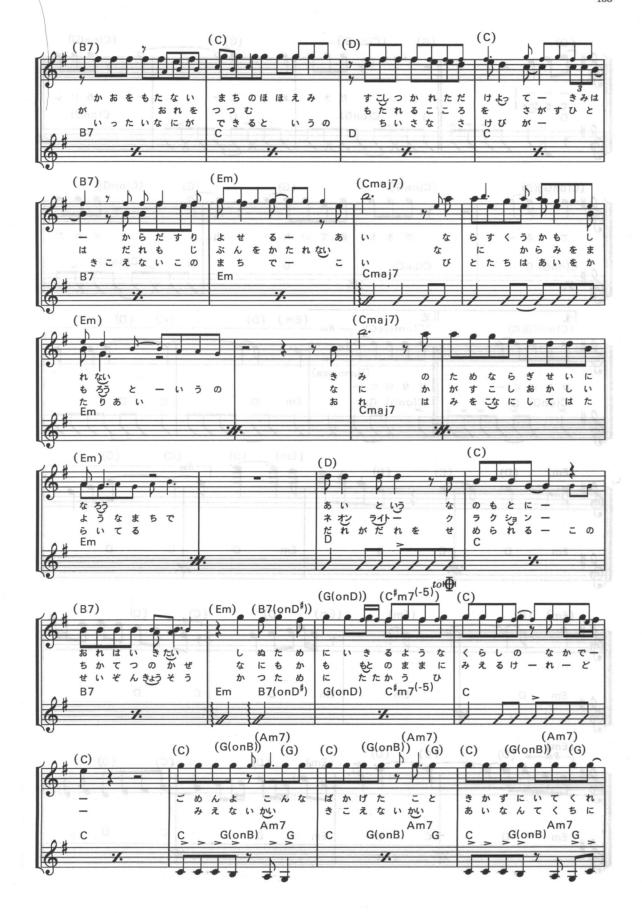
核 CORE

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1987 by Grand Mother Music Vision Inc.













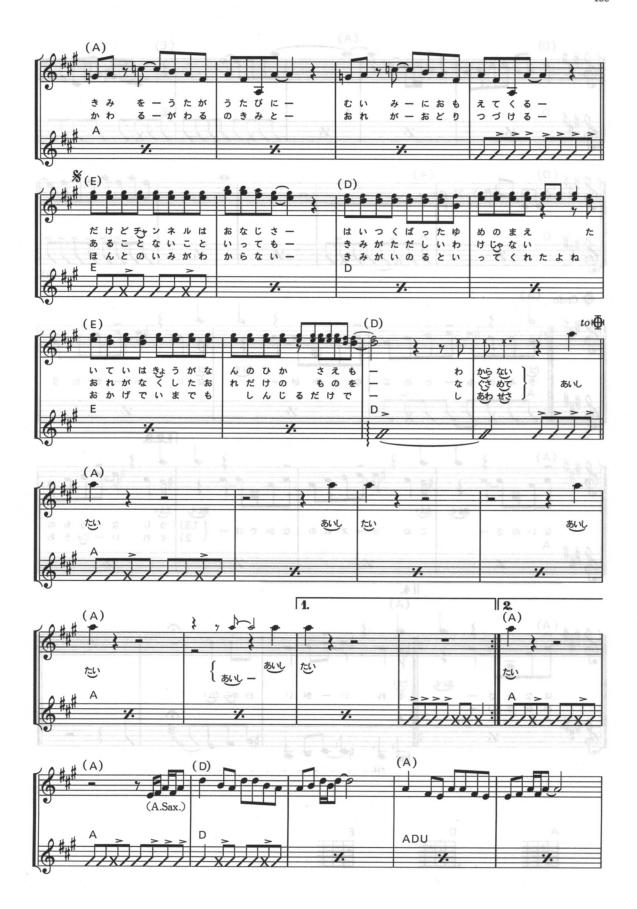




·ISM

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1987 by Grand Mother Music Vision Inc.



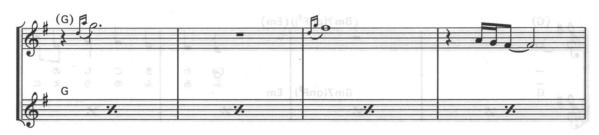


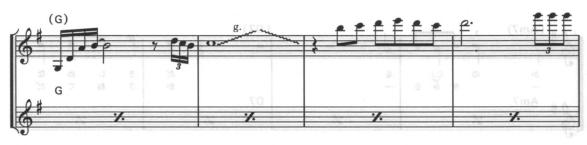


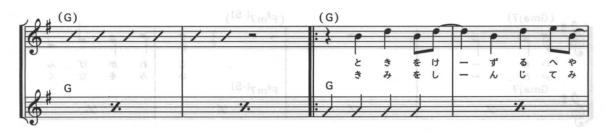


















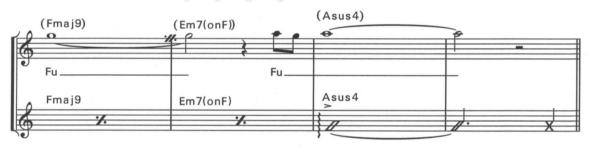




作詩/作曲:尾崎 豊 © 1988 by Grand Mother Music Vision Inc.

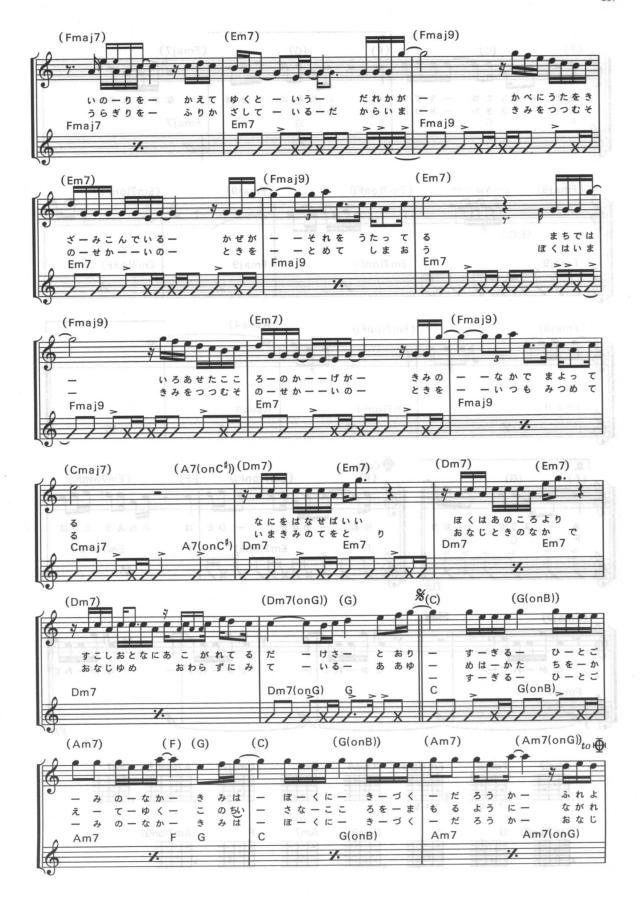














COLD WIND

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1988 by Grand Mother Music Vision Inc.











紙切れとバイブル

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1987 by Grand Mother Music Vision Inc.











遠い空

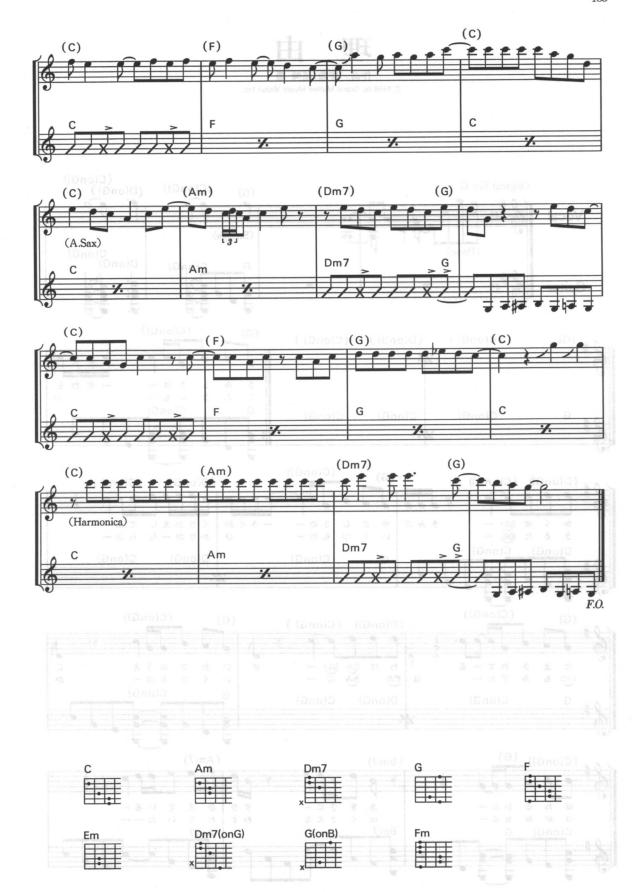
作詩/作曲:尾崎 豊 © 1988 by Grand Mother Music Vision Inc.











理由

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1988 by Grand Mother Music Vision Inc.



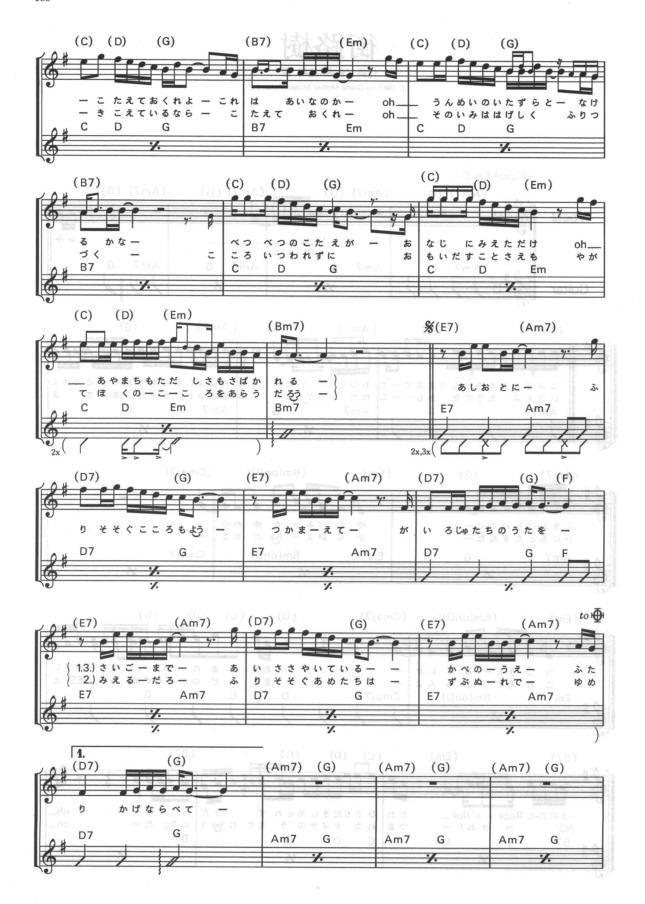






作詩/作冊·尾崎 豊 © 1987 by Grand Mother Music Vision Inc.







核(CORE)

Words and Music by Yutaka Ozaki

何か話をしよう 何だかわからないけど 他はひどく怯えてる 今夜は泊めてくれ テレビは消してくれないか 明かりもひとつにしてよこんなに愛してるから 俺から離れないで 独りぼっちで路地裏 俺の背中の人影に怯えて 気持ちを尖らせて 今まで街灯にもたれてた

抱きしめて 愛してる 抱きしめていたい それだけなのに

何かが俺と社会を不調和にしていく 前から少しずつ 感じていた事なんだ いつからかそれをさえぎる 顔を持たない街の微笑み 少し疲れただけよって 君は身体すり寄せる

愛なら救うかもしれない 君の為なら犠牲になろう 愛という名のもとに 俺は生きたい 死ぬ為に生きる様な暮らしの中で ごめんよ こんな馬鹿げたこと聞かずにいてくれ

抱きしめて 愛してる 抱きしめていたい それだけなのに

真夜中 盛り場 人ごみを歩いていると 日常がすりかえた叫びに 誰もが気を失う 殺意に満ちた視線が 俺を包む 持たれる心を探す人は 誰も自分を語れない 何から身を守ろうというの 何かが少しおかしい様な街で ネオンライト クラクション 地下鉄の風 何もかも 元のままに見えるけれど 見えないかい 聞こえないかい 愛なんて口にできない わきしかす 悪してる

抱きしめて 愛してる 抱きしめていたい それだけなのに

ねぇ もしかしたら 俺の方が正しいかもしれないだろう 俺がこんな平和の中で 怯えているけれど 反戦 反核 いったい何が出来るというの 小さな叫びが 聞こえないこの街で

恋人達は 愛を語りあい 俺は身を粉にして働いている 誰が誰を責められる この生存競争 勝つ為に戦う人々を

俺の目を見てくれ いったい何が出来る

抱きしめて 愛してる 抱きしめていたい それだけなのに 抱きしめて 愛してる 抱きしめていたい それだけなのに



Words and Music by Yutaka Ozaki

だいぶ話をそれて 街明かり 照らされて 音のないTVの前 完璧さを求めて 君を疑うたびに 無意味に思えてくる だけどチャンネルは同じさ はいつくばった夢の前 大低は今日が何の日かさえも わからない 愛したい 愛したい 愛したい 愛したい

腹が満たされている 熱でうなされている 賃欲のボリュームを 上げたり下げたりして かわるがわるの君と俺が踊り続ける ある事無い事言っても 君が正しい訳じゃない 俺がなくした俺だけのものを…… なぐさめて 愛したい 愛したい 愛したい 愛したい

本当の意味がわからない 君が祈ると言ってくれたよね おかげで今でも信じるだけで…… 幸せさ 愛したい 愛したい 愛したい

君の求める何かが 何かが足りないのさこのリズムの中では 失うものはないさ

君の求める何かが 何かが足りないのさこのリズムの中では それ以上解らない

君の求める何かが 何かが足りないのさ このリズムの中では 失うものはないさ

君の求める何かが 何かが足りないのさこのリズムの中では それ以外解らない

LIFE

Words and Music by Yutaka Ozaki

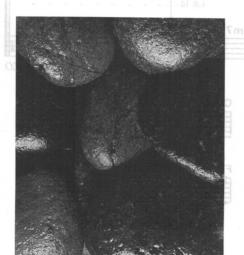
時を削る部屋で 心を溶かした 渇いていたけれど TVと話せた 受話器越しの彼女を 抱きしめ泣いた これが現実なら 僕は何を奪い 奪われるのだろう もう理解らない

答などなくていい その理由は 誰も皆 安らぎの始まりに 生きること

君を信じてみた 夢を見るために 耳をすましてみた 嘘を消すために 不安の上に君を 重ねて抱いた 意味をなくした僕の思い かき消し 僕に背負わせる愛 その罪を

裁くのが君という 神ならば 何を捨て何のため 愛すのが (生きること

答えなどなくていい その理由は 誰も皆 安らぎの始まりに 生きること 生きること…… 生きること……



時

Words and Music by Yutaka Ozaki

流れて…… 流れて……

一日が街に恵む 日射しに呟いている君終わりと始まりとが 祈りを変えてゆくという誰かが壁に歌を刻み込んでいる 風がそれを歌ってる 街では 色あせた心の影が 君の中で迷ってる 何を話せばいい 僕はあの頃より 少し大人に 憧れてるだけさ

通り過ぎる人混みの中 君は僕に気付くだろうか 触れようとしては傷つく痛みに 時は流れて

誰もか隠してる 自分に言い聞かせている 誰かが明日の君に 裏切りを振りかざしている だから今 君を包むその世界の 時を 止めてしまおう 僕は今 君を包むその世界の 時を いつも見つめてる 今君の手をとり 同じ時の中で 同じ夢 終わらずに見ている

ああ夢は形を変えてゆく この小さな心を守る様に 流れゆく先が 見つかる様に

通り過ぎる人混みの中 君は僕に気付くだろうか 同じ夢の中で人は触れあう 時は流れて

流れて…… 流れて……

COLD WIND

Words and Music by Yutaka Ozaki

風のうわさもあてにならないさと 冷たい街に吹き出す 熱の中まぎれ込む 空を見上げて 今日のにおいをかぐ 遠くを見つめると 泣き出してしまいそう

風の止む所で 始まりを待ってる いつもの顔ぶれが 口々にいう 今日の COLD WIND

色んなものを売りつけられる通りでは サギ師と音楽に チップインする ヤッピーにまぎれこんだ 旅人は 瞳の中 捜してた 流れる道の上では 光と闇と時を示す 暮らしは路上にたわむれ 石の中うめこまれてる

アスファルトのキラキラを 追いかけてゆく午前0時 恋人が口づけする あいかわらずの 今日の COLD WIND

地下鉄の扉が 開くたびの痛みに タフになれと 今日の COLD WIND 神様を信じるから なんだかひとつひとつに祈りたくなる ごらん ひとつひとつは あんたや俺の事みたいだろ

信じろと言ったり 信じるなと言ったり すれちがいざま たずねる 理由もないのに 今日の COLD WIND

洒場の前のナイフ おしゃべりにふかすタバコ 落ち着かない連中が 吹かれているよ 今日の COLD WIND

紙切れとバイブル

Words and Music by Yutaka Ozaki

土曜日の夜 口に頰ばる UP and DOWN 他はいつもの通りに 顔を出せない BLUE のジャケット ならべられてる Falling in Love 抱きしめたい今夜 ビルの影にかくれて「愛してる」なんて素直なだけ 無駄な JOKE に KISS 後悔なんかさせない 時は急いで夜にそそぐよ

全てはここにあり今はもう 全ては立ち去ろうとしてる 全てはここにあり俺はもう 夜を全て手にしてる 全てはここにあり今はもう 全ては立ち去ろうとしてる 全てをきれいに仕上げた あやふやなサヨナラもない

はじけるグラス 飲みほすための DANCE!

びしょ濡れになる 全てのさまよう Boys and Girls さっきから見ているのは あせらず Break Your Heart さまになるため 口にしてみる Poor My Heart 言葉もない 渇いているのは Period Love 彼女に影をかたむけても つまづく恋だけじゃ もう優しくなれない 痛みにゆれる 口づけ唱え 君の涙がこぼす Smile and Yeah!

全てはここにあり今はもう 全ては立ち去ろうとしてる 全てはここにあり君はもう 夜を全て手にしてる 全てはここにあり今はもう 全ては立ち去ろうとしてる 全てをキレイに仕上げた あやふやなサヨナラもない

むかい風にほえる 身をかがめた夜明け (今夜 風に吹かれた俺達は いつものように 目に映るもの全てを無視しはがら歩いてゆく) やぶれたドレスに舞う (彼女達の胸の上でやさしさを) 売り買う心抱きしめた (そのままずっと 抱きしめた) 紙切れとバイブル

全てはここにあり今はもう 全ては立ち去ろうとしてる 全てはここにあり俺はもう 夜を全て手にしてる 全てはここにあり今はもう 全ては立ち去ろうとしてる 全てをきれいに仕上げた あやふやなサヨナラもない

遠い空

Words and Music by Yutaka Ozaki

世間知らずの俺だから 体を張って覚えこむ バカを気にして生きる程 世間は狭かないだろう 彼女の肩を抱き寄せて 約束と愛の重さを 遠くを見つめる二人は やがて静かに消えていくのだろう

風に吹かれて 歩き続けて かすかな明日の光りに 触れようとしている 風に吹かれて 歩き続けて 心を重ねた 遠い空

なれない仕事をかかえて 言葉より心信じた かばいあう様に見つめても 人は先を急ぐだけ 裏切りを知ったその日は 人目も気にせずに泣いた 情熱を明日の糧に 不器用な心を抱きしめた

風に吹かれて 歩き続けて 立ちつくす人の間を 失いそうな心を 風に吹かれて 歩き続けて 信じて見つめた 遠い空

風に吹かれて 歩き続けて 立ちつくす人の間を 失いそうな心を 風に吹かれて 歩き続けて 信じて見つめた 遠い空

Words and Music by Yutaka Ozaki

さみしさは 誰もかくせない は は は は は 第四日線は 君のやさしさの 嘘が繰り返してる だまされてる 訳じゃない 生活の上 こばれるから

甘さにすりかえている
互いの言い訳すら

ユン・ロック 1ファルカック 1ファルカカック 単い こんなにも 生きる為に Act was the same アン・マン・ローロ は こんなにも 生きる命に いくつもの 光りが並ぶ いつも見てたはずの君に いくつもの 影がおちる 僕さえも 忘れていた すりかえてる 足りない暮らし

君の優しさが バランスにかくれて 涙はこぼれて 愛に溺れてく

この傷の上に 生きて欲しい。 ヨロロる・ココロ器 ・ココル 業性 傷を癒すように あずれまたりのを細には数

僕は君を 守るのに でながなう 日報さる かけいとなったる 僕は君の 理由を奪う

街路樹

Words and Music by Yutaka Ozaki

踏み潰された空缶の前で 立ちつくしていた 徳は4時間も地下鉄の 風に吹き上げられていた 昨夜見た夢の 続きを見ていた 甘えるのが下手な 優しさに似た Rock'n'Roll 誰ひとり抱きしめられず 歌ってる

Oh …… 答えておくれよ これは愛なのか

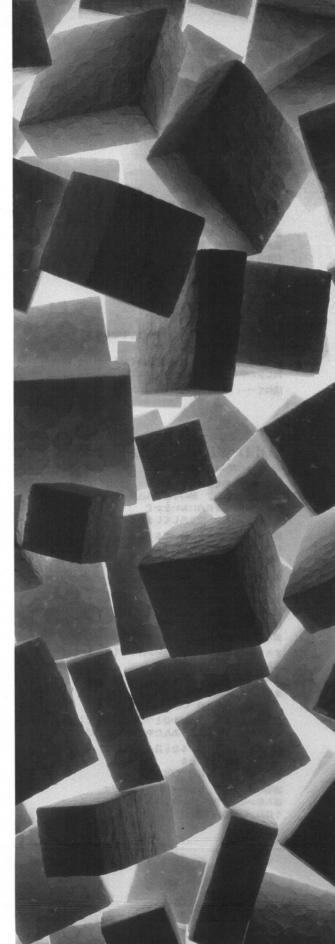
足音に降りそそぐ心もよう つかまえて 街路樹たちの歌を

最後まで愛ささやいている 壁の上 二人影ならべて

随分二人の仲も 知れた頃だった おまえはドアを蹴り開けて 毎日と尋ねた 考えちゃだめさ 答えてごらんよ 街角の紙くずの上 YES と NO を重ねた 積まれたタイヤの上で 夢中になった から 入事の と かい Oh…… 聞こえているなら 答えておくれ Oh…… その意味は激しく 降り続く 心偽れずに 思い出すことさえも やがて僕の心を 洗うだろう エロスタース

足音に降りそそぐ心もよう コラー 上は際 コーカスの日間のかってする つかまえて 街路樹たちの歌を 見えるだろ 降りそそぐ雨たもは 見えるだろ 降りそそぐ雨たちは ずぶ濡れで 夢抱きしめている君さ

足音に降りそそぐ心もよう つかまえて 街路樹たちの歌を 最後まで愛ささやいている。高い多いな世界が、二部の日本の名前の 壁の上 二人影ならべて



Yutaka Ozaki
Complete Song Book

YUTAKA OZAKI



SONY RECORDS CSCL 1560~1

LOVE WAY 作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki

omplete Song Book



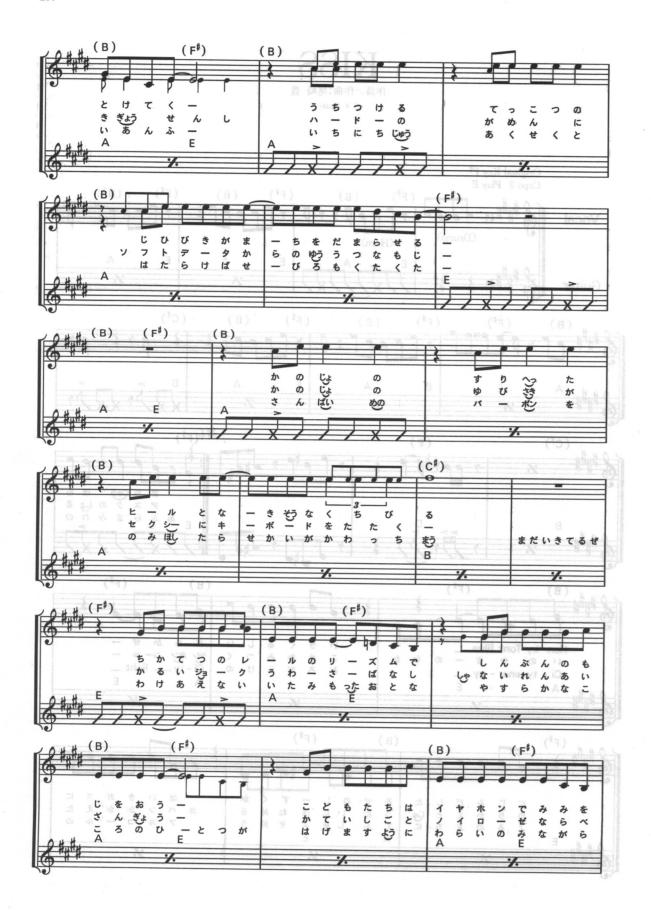




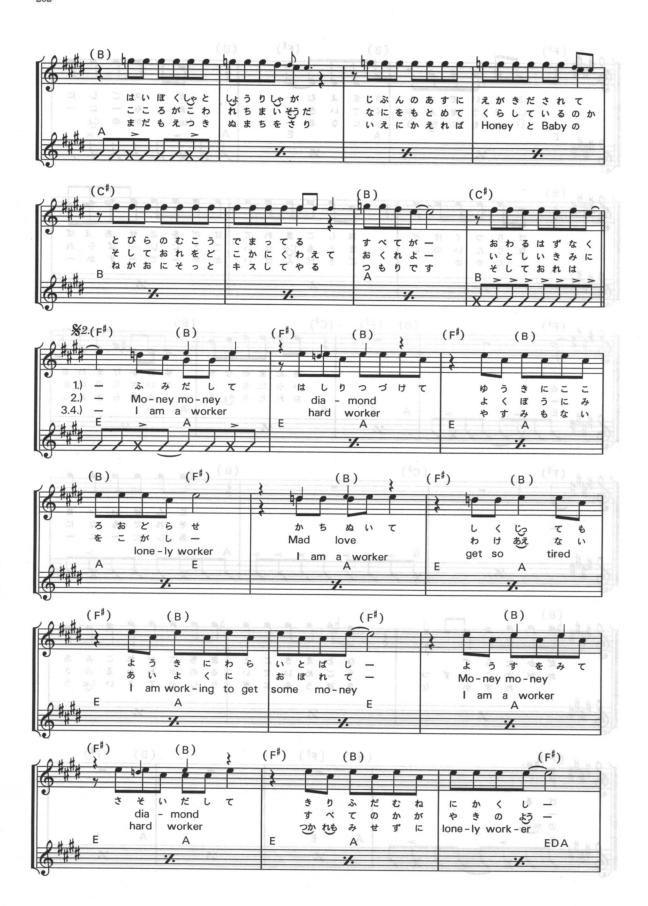
















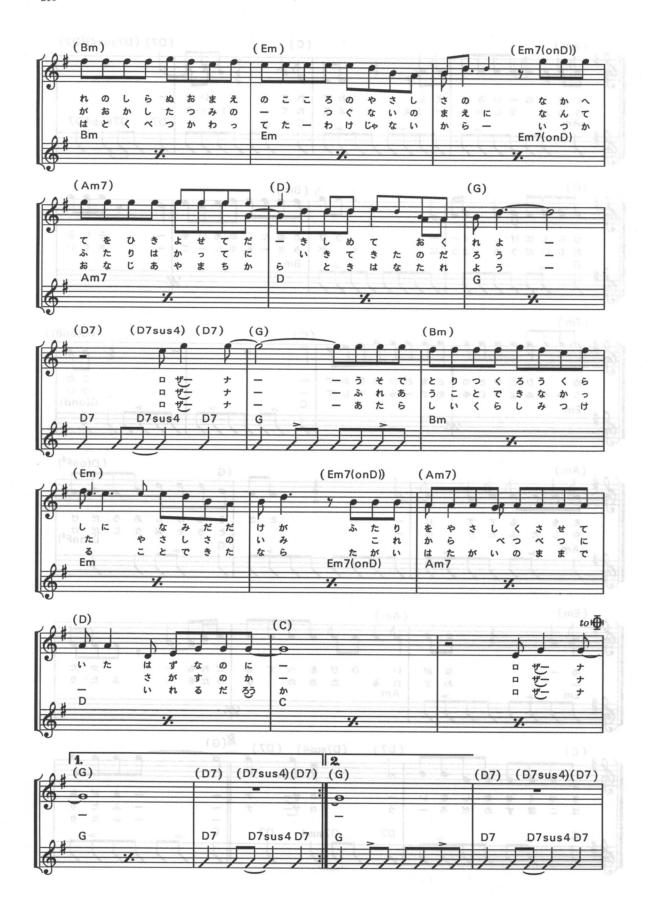












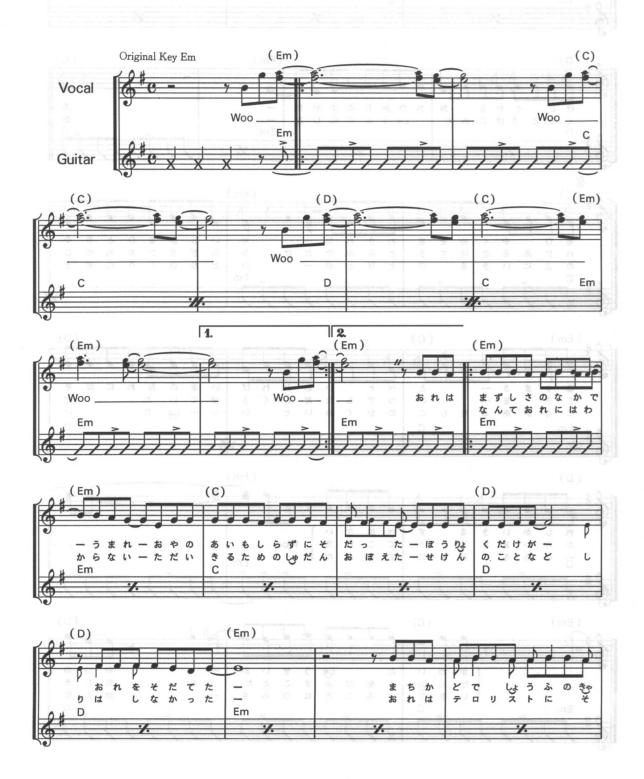


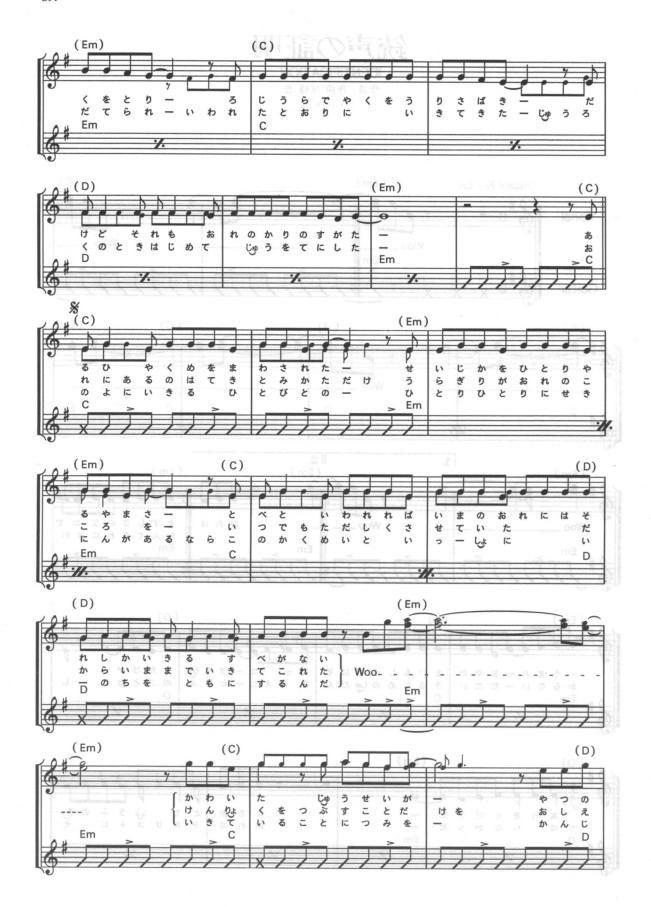


銃声の証明

IDENTIFICATION

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki

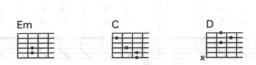












RED SHOES STORY







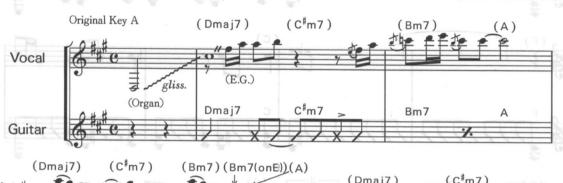


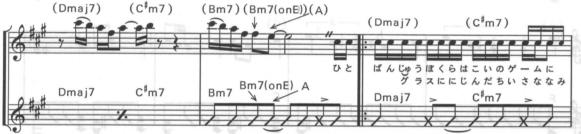








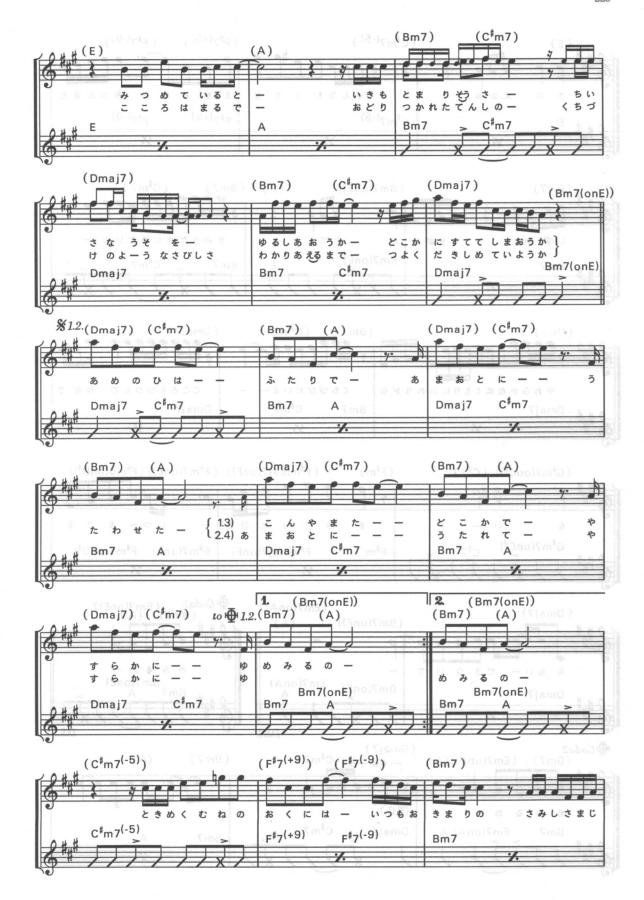






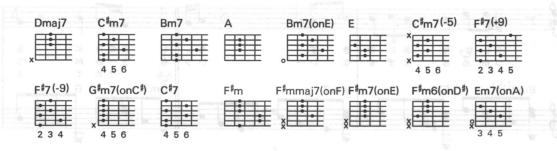












置き去りの愛

I LEFT MY LOVE IN YOU

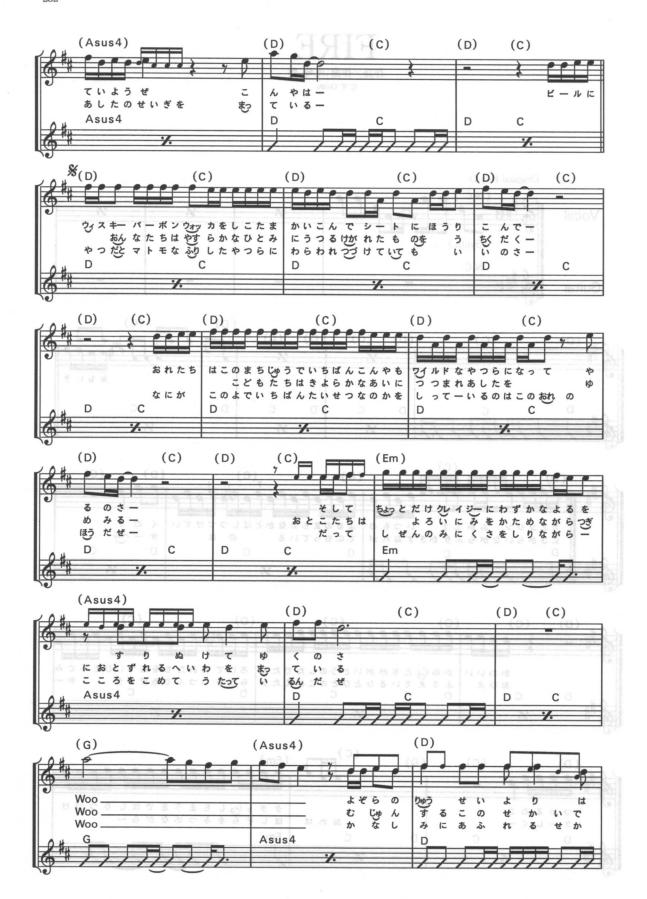






FIRE 作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki







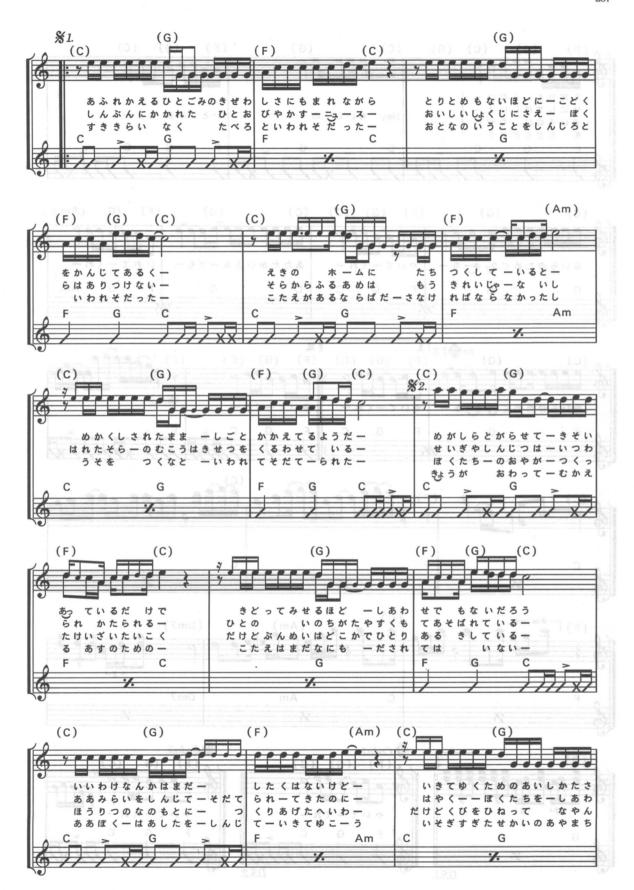




Asus4

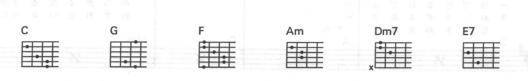
COOKIE







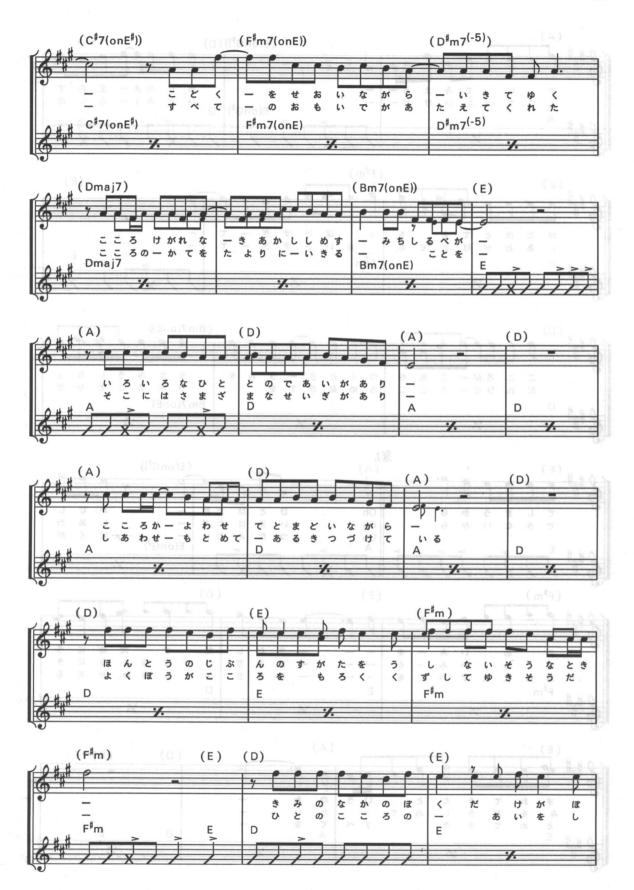


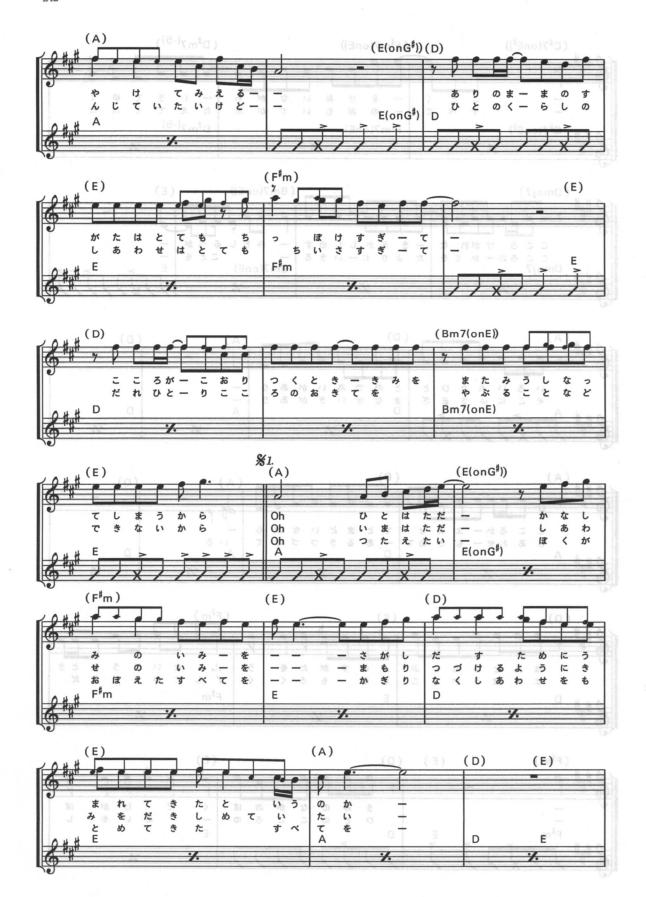


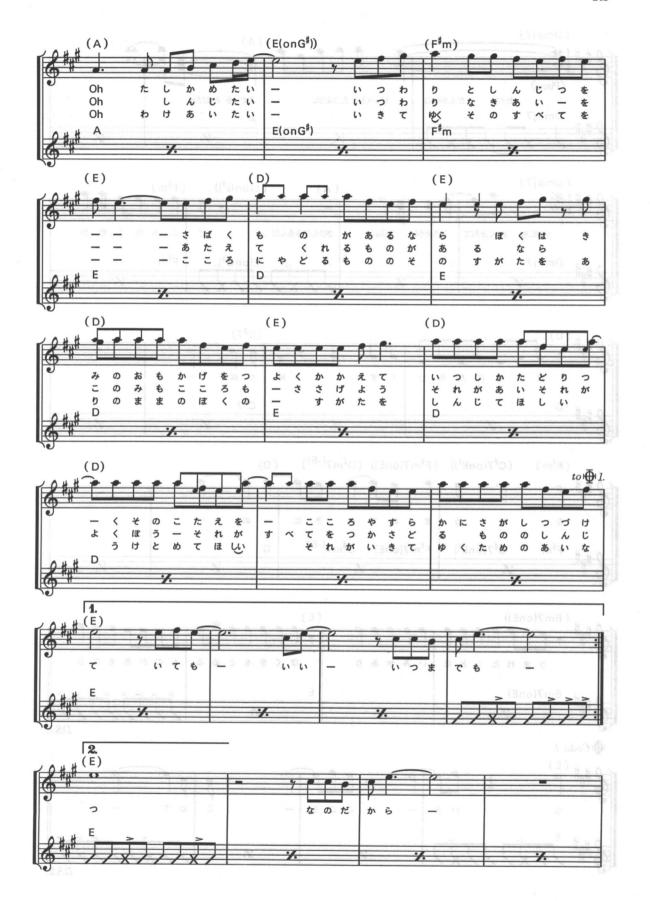
永遠の胸

ETERNAL HEART





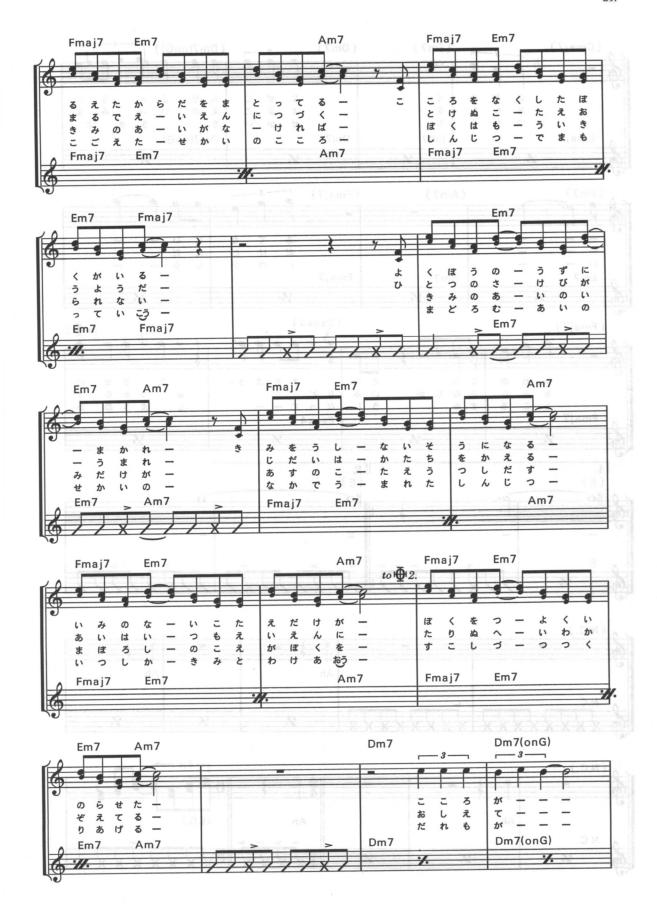






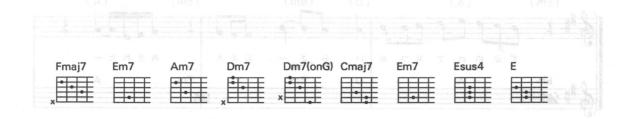


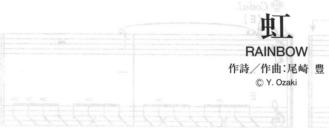
















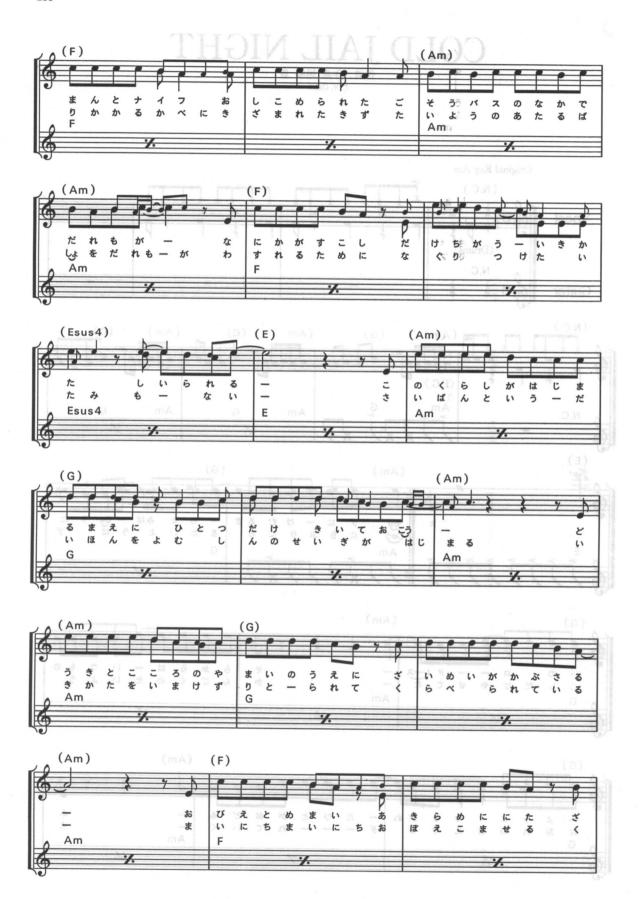






COLD JAIL NIGHT







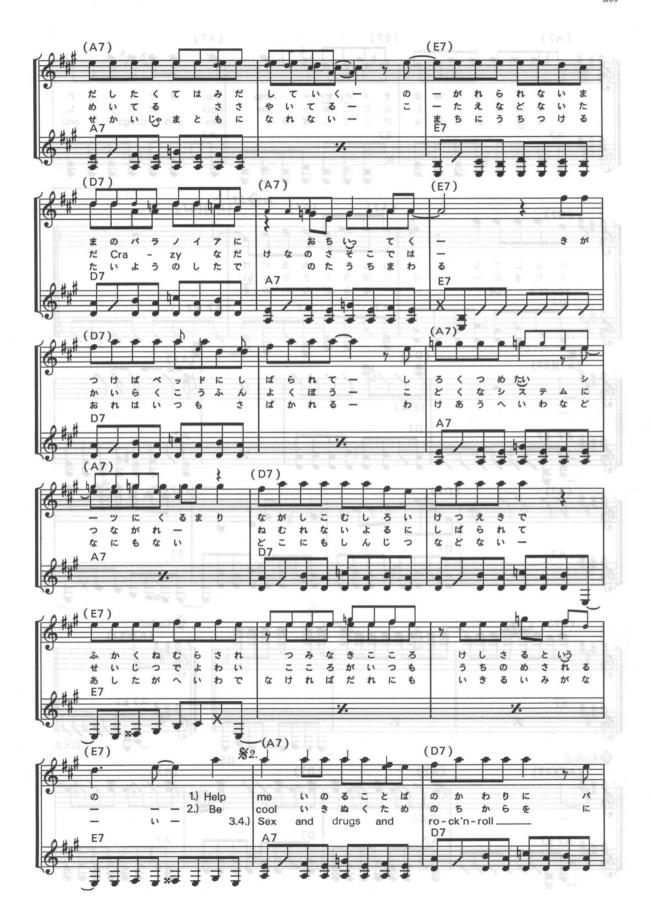




禁猟区

DON'T TOUCH THIS









音のない部屋

QUIET ROOM



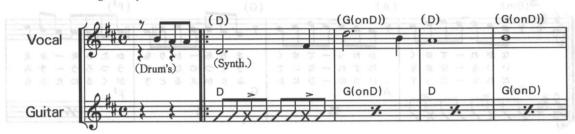


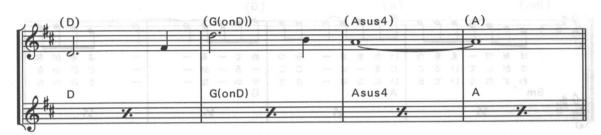


きっと忘れない

HAPPY BIRTHDAY



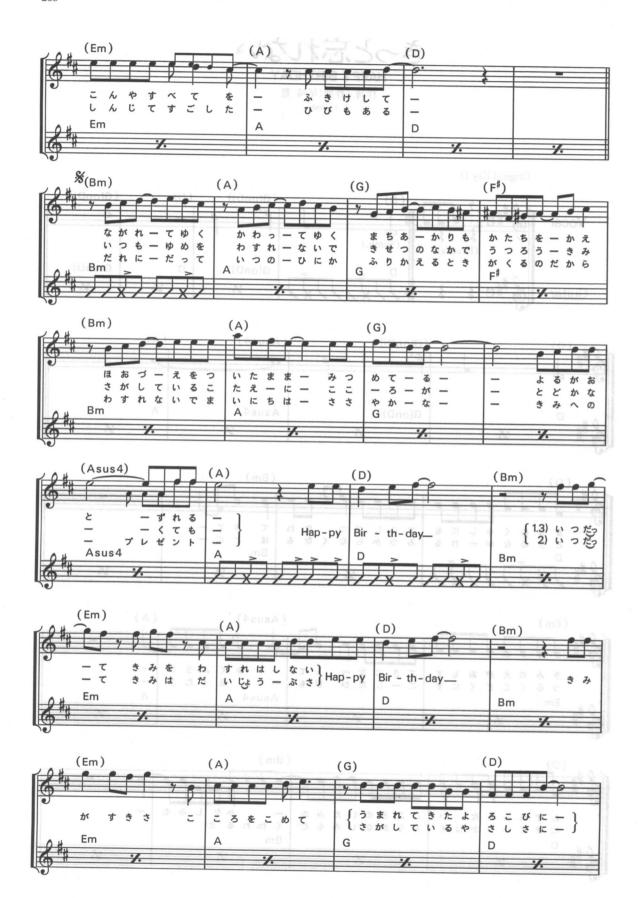










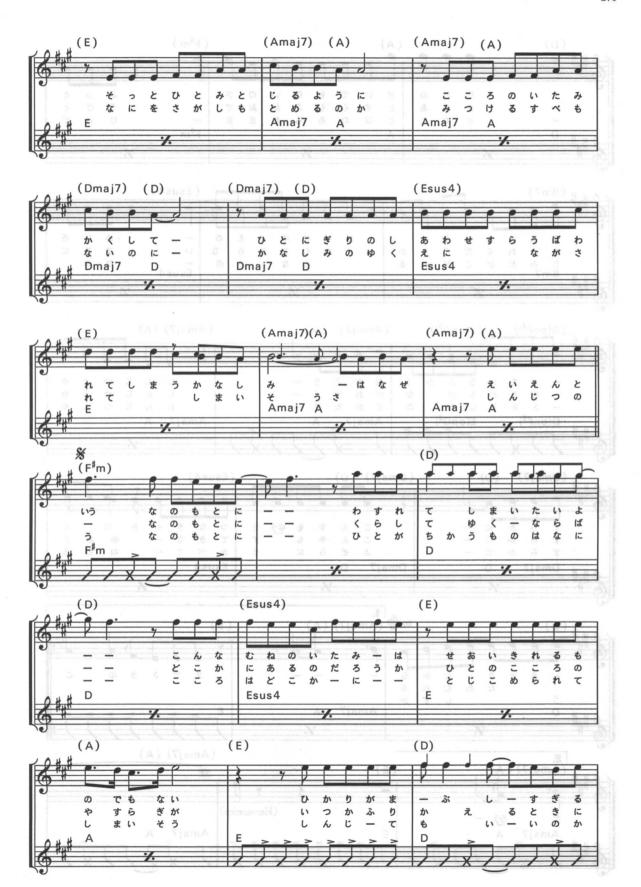


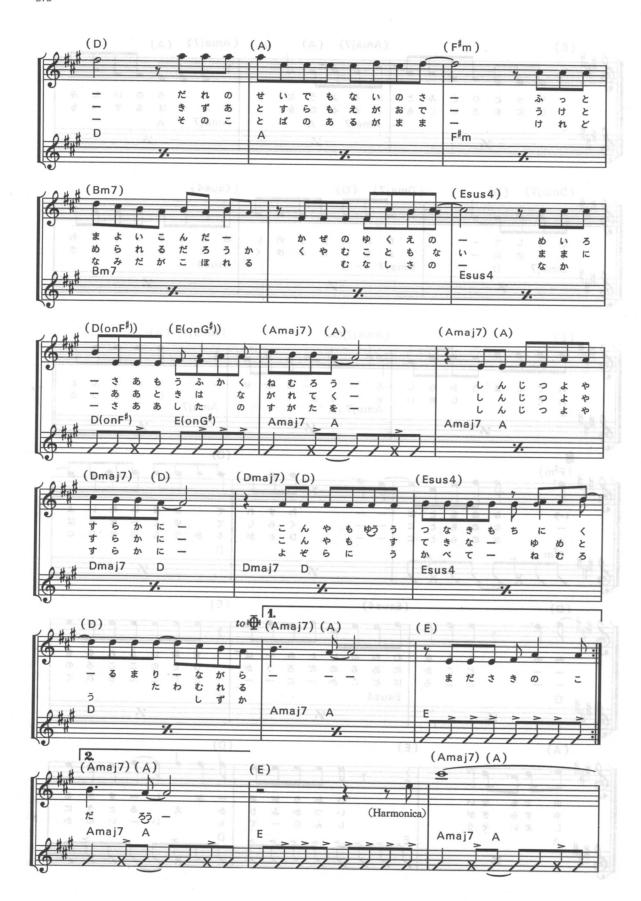


風の迷路

WHAT IS LOVE 作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki



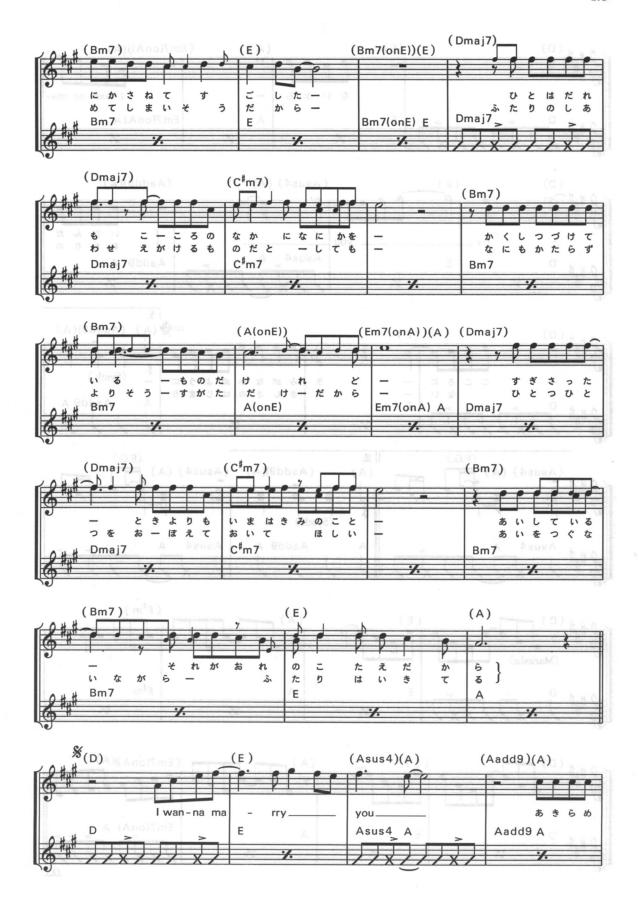






MARRIAGE



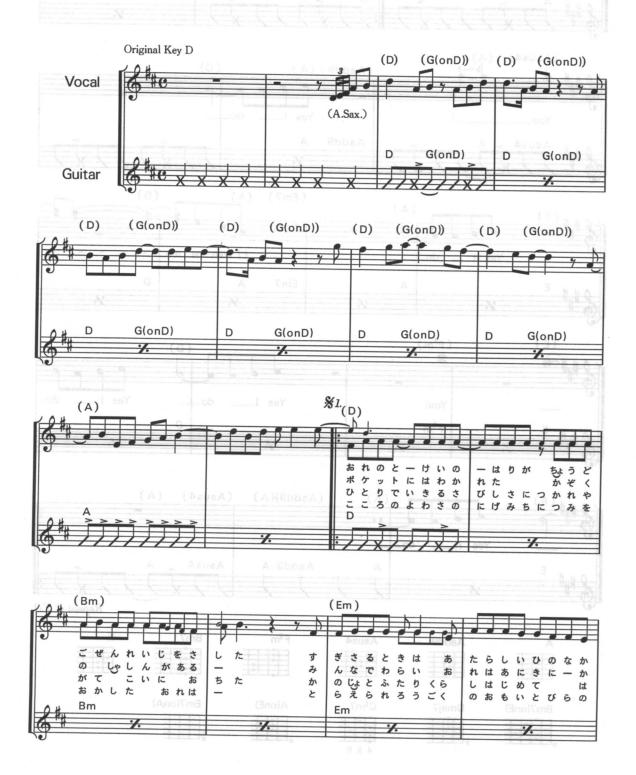


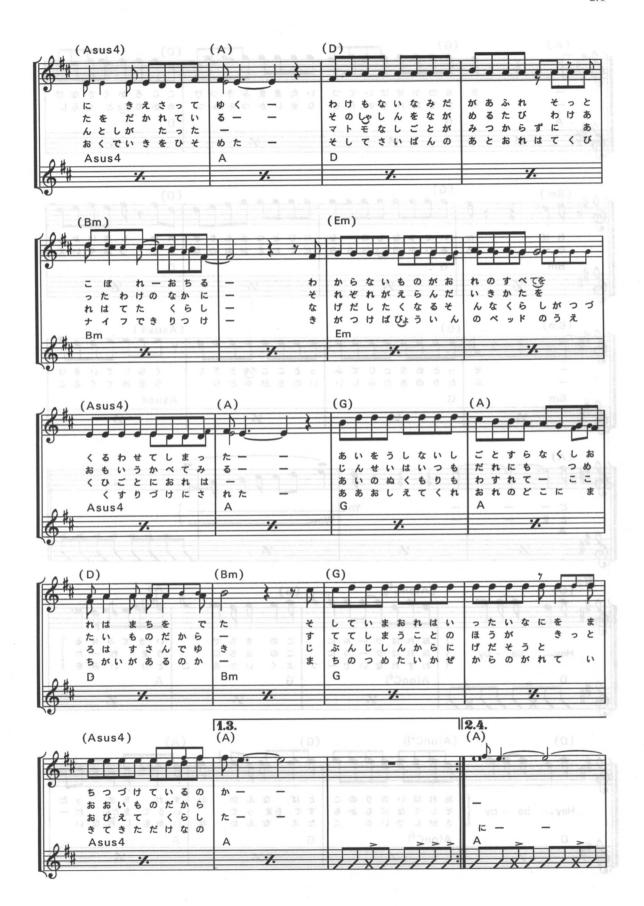




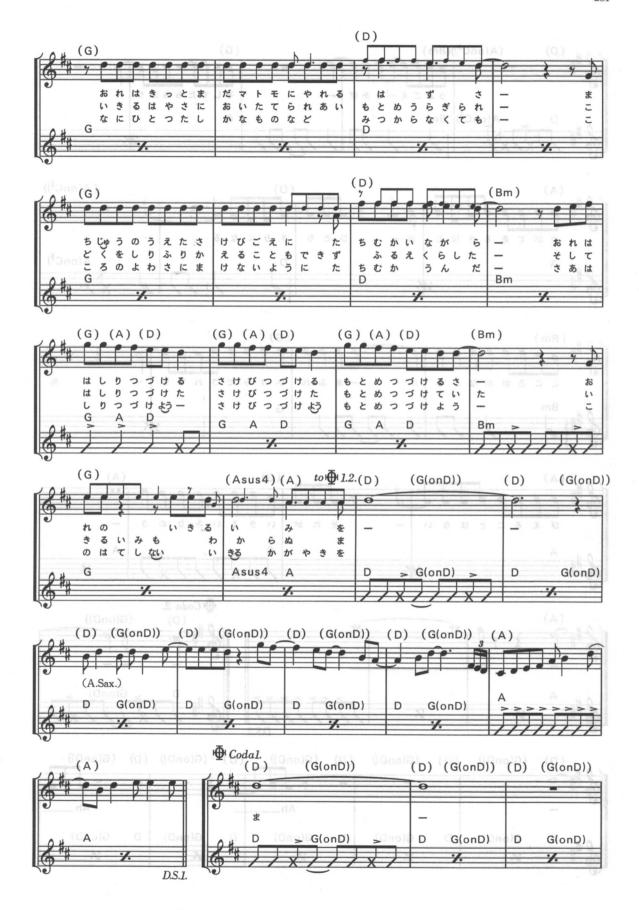
誕生

BIRTH















LOVE WAY

Words and Music by Yutaka Ozaki

ひどく煙たい朝に目覚めると俺は 何時しか何かに心が殺されそうだ 俺を捕らえる 不可能な夢 偽善に染まる 答えはすぐに打ち消されて矛盾になる Love Way Love Way 静寂の中の響きに体休み無く 心の傷みを蹴飛ばしながら暮らしてる Love Way Love Way 貧しさの憧れに 狂い出した太陽が 欲望の名を借りて何処までも果てし無い 貧しさの憧れに 狂い出した太陽が

Love Way 言葉も感じるままにやがて意味を変える Love Way 真実なんてそれは共同条理の原理の嘘 Love Way 生きる為に与えられてきたもの全ては

戦い 争い 奪って愛し合う Love Way

全てのものが置き換えられた幻想の中で 犯してしまっている気付けない過ちに 清らかに安らかに生まれて来るもの 全ての存在は罪を背負わされるだろう Love Way Love Way 生き残る為だけの愛ならば安らかに 祈り続けても心は脆く崩されてく Love Way Love Way

真夜中の街並みに 狂い出した太陽が 欲望の形を変えて 素肌から心を奪ってく

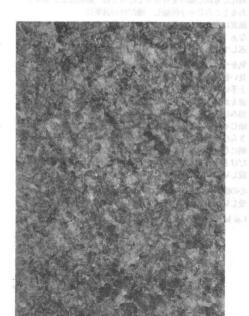
Love Way 何ひとつ確かなものなどないと叫ぶ Love Way 足りないものがあるそれが俺の心 Love Way 満たされないものがあるそれが人の心 押されて 流され 愛は計られる Love Way 何時も何かが違う 生きて行くだけの為に こんなに犯した罪を一誰も背負いきれない

Love Way 何かに裁かれている様な気がする Love Way 何かが全てを罪に陥れていく様だ Love Way 何かを償う事すら出来ないとしても Love Way 生き残る為に愛し合う事は出来るだろうよ

欲望の暗闇に 狂い出した太陽が この狂った街の中で 慰安に身を隠す人々を照らし出してる

Love Way 心と体を支えている炎の欲望 Love Way 全ての終わりを感じてしまう時にさえ俺は

Love Way 生きる為に汚れていく全てが變しい 人間なんて愛に跪く Love Way



KISS

Words and Music by Yutaka Ozaki

街中ほら Honky-Tonk Blue 息苦しい街風 滲み出した汗の雫が 排気ガスに解けてく 打ちつける 鉄骨の 地響きが街を黙らせる 彼女の擦り減ったヒールと泣きそうな唇 地下鉄のレールのリズムで新聞の文字を追う 子供達はイヤーホンで耳を 塞いで漫画を読む ガラス越しに 張り付く程 押し込まれて 肌を寄せ合えば 頭の中夢駆け回る

現の中参配の凹る 人生未だ語らず ひと駅毎待ち焦がれこみ上げる 敗北者と勝利者が自分の明日に描き出されて 扉の向こうで待ってる 全てが 終わるはずなく

踏み出して 走り続けて 勇気に心踊らせ 勝ち抜いて しくじっても 陽気に笑い飛ばし 様子を見て 誘い出して 切り札胸に隠し 調子合わせ 紛れ込んで 裏も表も感じるまま

デスクの書類の山の中 こめかみ突くテレホーンコール 乗換えと渋滞に骨折る カバン抱えた企業戦士 ハードの画面に ソフトデータからの憂鬱な文字 彼女の指先が セクシーにキーボードを叩く 家庭 仕事 ノイローゼ並べ (カラドアパス まな) 〉間でこ 処方せん薬で生きる まともになりたいのに まともじゃない事に縛られる 苛立ちと吸殻の中 それでも何かが少しずつ蠢いているのが分かるのさ 心が壊れちまいそうだ 何を求めて暮らしているのか そして俺を何処かに加えておくれよ 愛しい君に

Money money diamond 欲望に身を焦がし Mad love 分けあえない 愛欲に溺れて Money money diamond 全ての輝きの様 Pure love sweet home カバンの隅に子供の写真 油まみれの City energy 形だらけの City light である。 夜の街に天使を装うアルコールの慰安婦 夜の街に大阪でなノバハー日中 あくせくと働けば背広もくたくた 三杯目のバーボンを飲み干したら 世界が変わっちまう まだ生きてるぜ 分け合えない傷み持った大人 安らかな心の一つが 励ますよに笑い飲みながら いつもの調子になる Hey 彼女 今夜のご機嫌は如何ですか

俺たち今日も働きました。 1300人 フム州フリッテリティスタ 明日に僅かな希望を握り締めて最終のホーム まだ燃え尽きぬ街を去り家に帰れば リスクト という Honey と Baby の寝顔にそっとキスしてやるつもりです そして俺は

I am a worker, hard worker 休みもない lonely worker I am a worker, get so tired I am working to get some money I am a worker, hard worker 疲れも見せずに lonely worker 「本の人物を読みできた」にあって、 I am a worker, get so tired Wasted time leaves little money

Any way....

黄昏ゆく街で

Words and Music by Yutaka Ozaki

57番街に吹く小さな風に 二人肩をすぼめて歩き続けた 待つ人もなくただ二人手をつなぎながら 僕は煙草に火を点けて 街は悲しくうつろう 壁の落書きには 思い出すものもない 何時誰が書いたのかすら 僕らは知らないけれど 雨に打たれ風にさらされ 時の過ぎゆくままに愛を 育んでいる二人に何処か似ていると 君の温もりの中 見つめていて 僕だけのこと

街には花がない 灰色の空が 上目づかいで歩く二人には見える 触れ合えば何時もきっと悲しみの傷みも 一筋の光の瞬きに救われればいい 枯れた噴水の淵に(僕らは腰掛けて 夢見る訳でもなくただ無口になっている 誰かが奏でる題名のない音楽に耳を傾けていると 君を見失いそうさ 肩を抱き寄せてみるけど 遠くに感じる 見つめていて(僕だけのこと)

ベットの中で夢見る 何時しか二人の心 優しくなれると胸の傷みをこらえながら 寝息をたてて眠る君の頬に優しく愛しくくちづけて 髪を撫でるとぼんやりと僕を見つめて こう聞く「ねぇこれでいいの……」 見つめていて 僕だけのこと

ロザーナ

Words and Music by Yutaka Ozaki

心傷む理由のそのひとつひとつを 何度も嚙み締めてみたけれど おまえは弱さを憎む様になり 優しさの意味さえも忘れていた 辛く激しく受け止めたこの愛や 見知らぬ人々の戸惑いの中で 答えを持てずにただ打ち消し合うだけの 長い日々を経ても誰も語り尽くせやしない ロザーナまだ俺の知らぬおまえの心の優しさの中へ 手を引き寄せて抱きしめておくれよ ロザーナ 嘘で取り繕う暮らしに涙だけが 二人を優しくさせていたはずなのに ロザーナ

さよならを言おうと何度も試したけれど 愛はまるでシーソーゲームの様に おまえを愛してそして憎んで 二人の悲しみさえ汚れていった 思い出さぬ様に手紙も燃やして 思い浮かべぬ様に夢すら消して 費やした二人の時間と同じだけ 忘れる為の涙を二人はこぼすのだろう ロザーナ 二人が犯した罪の償いの前に なんて二人は勝手に生きてきたのだろう ロザーナ 触れ合うこと出来なかった優しさの意味 これから別々に探すのか ロザーナ

ロザーナ 二人は特別変わってた訳じゃないから いつか同じ過ちから解き放たれよう ロザーナ 新しいくらしみつけることできたなら 互いは互いのままでいれるだろうか



銃声の証明

Words and Music by Yutaka Ozaki

俺は貧しさの中で生まれ 親の愛も知らずに育った 暴力だけが俺を育てた 街角で娼婦の客をとり 路地裏で薬を売りさばき だけどそれも俺の仮の姿 ある日 役目をまわされた 政治家を一人殺るやまさ 跳べと言われれば今の俺には それしか生きる術がない

Woo 渇いた銃声が 奴の頭をぶち抜いた Woo 次は俺が殺られる番だ 何も訳など知らないままに 政治なんて俺には分からない ただ生きるための手段覚えた 世間のことなど知りはしなかった 俺はテロリストに育てられ 言われた通りに生きてきた 十六の時初めて銃を手にした

俺にあるのは敵と味方だけ 裏切りが俺の心を いつでも正しくさせていただから今まで生きてこれた

Woo 権力を潰すことだけを 教えられてきた 俺はテロリスト Woo 平和など生み出せやしない 俺の命はテロリスト

この世に生きる人々の一人一人に責任があるなら この革命と一緒に命を共にするんだ

Woo 生きていることに罪を 感じることなく生きる人々よ Woo おまえはこの世のテロリスト 俺を育てたテロリスト

RED SHOES STORY

Words and Music by Yutaka Ozaki

昔の事なんかもう忘れちまいたいよ これでも昔は随分気取ってたのさ 慰めた女 慰められた男 酔いどれて演じては 逃れようもない様な ダンスに明け暮れて 行き着けの店には毎晩顔出してさ くどかれたりくどいたり 何時もの曲に合わせてさ でも本当は酔ってるから顔もはっきり覚えちゃいねぇ 夢心地 幻 夢中で愛してた 自慢にもならねえのによ 朝日はアスファルトに寝ころぶ俺をつつきながら ベットに辿り着く俺は旅に出る夢を見てた

儲け合ったやつらとも今じゃ遠い縁になってさ 色々覚えたよ 上手くはめられたのは誰 ヤキが回ったぜ おまえも俺も どうなって行くのか どうすりゃいいのか ああ 用心にこした事はねぇ もう誰も信じやしないと よくある事さ あんたも同じ傷みを背負ってたってね 結局はビジネスさ あるところじゃ子供騙し 嘘だけの言葉に 誠実に答えても 互いに疲れちまうのさ なあ 俺の置き忘れてきたギターはまだあるかい 返してくれねぇかい もう貸し借りはねぇぜ 気をつけた方がいいぜ若者よ

負い目を背負って生きてくなんてまっぴらだぜ 上手い話なんてあるもんじゃないさ 誰もかれも責任逃れ 知り尽くした顔して 弱みに付け込んで笑ってら笑ってら 頭じゃ分かってる事も体が付いてかなくてよ きらびやかな夜の街にのこのこと出かけて 朝になればうらぶれた 裏通りの街の被害者 だけど俺は知ってるぜ 次の仕事に間に合うまでの 寂しいゲームだと

心の傷アルコールで癒して 何処から何処まで行けばいい 愛しいおまえ 受け止めるまで この旅は続くのさ

Lai la lai la la la la la·····

LONELY ROSE

Words and Music by Yutaka Ozaki

一晩中僕らは 恋のゲームに酔いしれて 次の朝には甘いコーヒーで目を覚ます ねぇ覚えているかい 昨夜の約束 そうだね今夜また君に会えそうさ 過ぎ行くままに 見つめていると 息も止まりそうさ小さな嘘を 許し合おうか 何処かに捨ててしまおうか 雨の日は二人で 雨音に歌わせた 今夜また何処かで 安らかに夢見るの

グラスににじんだ小さな涙を飲み干して 二人の夜には甘い歌を分け合うように ねえ優しさだけじゃ二人を包めないから 信じているとだけ答えてよ 自由になれた 心はまるで 踊り疲れた天使のくちづけのような寂しさ 分かり合えるまで 強く抱きしめていようか 雨の日は二人で 雨音に歌わせた 雨音に打たれて 安らかに夢見るの

ときめく胸の奥には 何時もおきまりの寂しさまじりの笑顔 そんな無口な笑顔を見つめると 静かに時が流れてく 君を抱きしめたいよ柔かな温もりに触れながら くちづけたいよ 心を包んで離さない 過ぎ去った日々 何時までも思い出さないで 雨の日は二人で 雨音に歌わせた 今夜また何処かで 安らかに夢見るの 雨の日は二人で 雨音に歌わせた 雨音に打たれて 安らかに夢見るの

置き去りの愛

Words and Music by Yutaka Ozaki

夕暮れが落とす影 枯木を揺らす風 遠く離れた君の事 失った愛の傷 もしもあの日に戻れるならば もう一度やり直せたら 探していたもの それが愛だと 伝えられるのに もう場とない

心を体の 温もりで確かめてた だけどそれはただの愛の影 つかめるはずもない いつも君が包んでくれた 僕の心の傷みを 背伸びもせずに見ていた夢も あの頃の二人は もう戻らない

自分を責めて 暮らしていると 風の便りに聞いたけれど 二人が費やした汚れのない 愛に今ひざまずく もう帰らない

COOKIE

Words and Music by Yutaka Ozaki

Hey おいらの愛しい人よおいらのためにクッキーを焼いてくれ温かいミルクもいれてくれおいらのためにクッキーを焼いてくれおいらのためにクッキーを焼いてくれ浴れかえる人混みの気忙しさにもまれながらとりとめもないほどに孤独を感じて歩く駅のホームに立ち尽くしていると目隠しされたまま仕事抱えてるようだ目頭とがらせて競い合っているだけで気取って見せる程幸せでもないだろ言い訳なんかはまだしたくはないけど生きてゆくための愛し方とえ誰も知らないHey おいらの愛しい人よ

Hey おいらの愛しい人よ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 温かいミルクもいれてくれ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 空から降る雨はもう綺麗じゃないし 晴れた空の向こうは季節を狂わせている 正義や真実は偽られ語られる 人の命がたやすくもて遊ばれている 未来を信じて育てられて来たのに 早く僕たちを幸せにしてほしいよ Hey おいらの愛しい人よ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 温かいミルクもいれてくれ おいらのためにクッキーを焼いてくれ

新聞に書かれた人脅かすニュース

美味しい食事にさえばくらはありつけない

おいらのためにクッキーを焼いてくれ 好き嫌いなく食べろと言われ育った 大人の言うことを信じろと言われ育った 答えがあるならば出さなければならなかったし 嘘をつくなと言われて育てられた

FIRE

Words and Music by Yutaka Ozaki

思い切りエンジン吹かしていつもの夜の街の中 飛ばし続けて行くのさ 可愛い彼女達が 街灯の下で たむろして 俺たちを 熱い臓で見つめるのさ クラッシュしちまうまで 走り続けていようぜ 今夜は ビールにウイスキー バーボン ウオッカを しこたま買い込んで シートに放り込んで 俺達は この街中で 一番今夜も ワイルドなやつらになって やるのさ

そして ちょっとだけ クレイジーにわずかな夜をすり抜けて行くのさ Woo 夜空の流星より早く Woo 滅びて行きそうな愛が

この胸に 熱く 燃え出しそうな Fire

体制に逆いながら振りかざす 俺が手に持っているのは サーベル 脅え震えている人々の凍えた体を包んであげよう 優しく 俺は星空を見つめながら 明日の正義を待っている

女達は 安らかな瞳に映る 汚れたものを 打ち砕く 子供達は 清らかな愛に包まれ 明日を夢見る 男達は 鎧に身をかためながら 次に訪れる平和を 待っている

Woo 矛盾するこの世界で Woo 一番大切なものがある この燃え尽きることのない愛は Fire

素直な気持ちでさえも 語り尽くせぬこの世界

素直な気持ちでさえも 語り尽くせぬこの世界 何が人の心を支配してるの 訳もないのに こぼれ落ちる涙を拭おう

抱きしめておくれ

おかしな奴だと マトモな振りした奴らに 笑われ続けていても いいのさ 何がこの世で一番大切なのかを 知っているのは この俺の方だぜ だって 自然の醜さを知りながら 心をこめて歌って いるんだぜ Woo 悲しみに溢れる世界で

woo 恋しみに確れる世界で Woo 孤独に打ちのめされても 熱い気持ちを燃やし続けようぜ Fire

> 僕たちの親が作った経済大国 だけど文明はどこかで一人歩きしている 法律の名のもとに作り上げた平和 だけど首をひねって悩んでいるのは何故

Hey おいらの愛しい人よおいらのためにクッキーを焼いてくれ温かいミルクもいれてくれおいらのためにクッキーを焼いてくれ今日が終わって迎える明日のための答えはまだ何も出されてはいないああ僕は明日を信じて生きてゆこう

Hey おいらの愛しい人よ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 温かいミルクもいれてくれ おいらのためにクッギーを焼いてくれ

急ぎ過ぎた世界の過ちを取り戻そう

永遠の胸

Words and Music by Yutaka Ozaki

一人きりの寂しさの意味を 抱きしめて暮らし続ける日々よ 見つかるだろうか 孤独を背負いながら生きていく 心汚れなき証示す道しるべが、これは、 色々な人との出会いがあり 心かよわせて戸惑いながら 本当の自分の姿を失いそうな時 君の中の僕だけがぼやけて見える ありのままの姿はとてもちっぽけすぎて 心が凍り付く時君を また見失ってしまうから 人はただ悲しみの意味を 探し出すために生まれてきたというのか 確かめたい 偽りと真実を 裁くものがあるなら僕は 君の面影を強く抱えて 何時しか辿り着くその答えを 心安らかに探し続けていてもいい いつまでも 受け止める術のない愛がある 消し去ること出来ぬ傷もある 忘れないように 全ての思い出が与えてくれた 心の糧を頼りに生きることを そこには様々な正義があり 幸せ求めて歩き続けている そこには深々な上級かのり ギモボのし歩き初けている 欲望が心をもろく崩してゆきそうだ 人の心の愛を信じていたいけど 人の暮らしの幸せはとても小さすぎて 誰一人 心の掟を破ることなど出来ないから 今はただ幸せの意味を 守り続けるように君を抱きしめていたい 信じたい 偽りなき愛を 与えてくれるものがあるなら この身も心も捧げよう それが愛それが欲望 それが全てを司るものの真実 なのだから 断崖の絶壁に立つ様に夜空を見上げる 今にも吸い込まれてゆきそうな空に叫んでみるんだ。 何処へ行くのか 大地に立ち尽くす僕は 何故生まれてきたの 生まれたことに意味があり 僕を求めるものがあるなら 伝えたい 僕が覚えた全てを 限り無く幸せを求めて来た全てを 分け合いたい 生きてゆくその全てを 心に宿るもののその姿を ありのままの僕の姿を 信じてほしい 受け止めてほしい 信じてほしい 受け止めてほしい それが生きてゆくための愛なら 今 心こめて 僕はいつでもここにいるから 涙溢れて何も見えなくても 僕はいつでもここにいるから

レガリテート

Words and Music by Yutaka Ozaki

暗闇の中ひと粒の 光の様にたたずんだ 震えた体を纏ってる 心を無くした僕がいる 欲望の渦に巻かれ 君を失いそうになる 意味のない答えだけが 僕を強く祈らせた 心がざわめく何故こんな風に あてもない夢の中 ただ彷徨うだけなの

激しくなびく風が 僕の体殴りつけ まるで永遠に続く 解けぬ答え追うようだ ひとつの叫びが生まれ 時代は形を変える 愛は何時も永遠に足りぬ平和数えてる 教えて明日を呼ぶ声の意味を だけどたた眩しさの中 意味など見つからずに

君を愛と呼べるのか 愛は何处へ行くのか 君の愛がなければ僕はもう生きられない 君の愛の意味だけが明日の答え映し出す 幻の声が僕を少しずつ作り上げる 誰もが偽りの世界を彷徨い 何時かしら、心すら失ってしまうのか 心を暖めて欲しい 愛と神秘の力で 凍えた世界の心 真実で守っていこう

まどろむ愛の世界の中で生まれた真実 何時しか君と分け合おう。自由な愛の姿を 虹

Words and Music by Yutaka Ozaki

だから今日も雨が上がるのを ずぶ灩れで待つおいらさ おまえ呆れた顔をしないで 心のドアを開けて

街中を銀色に染めてゆくこの雨の 小さな雫が鯔の中に落ちてくる 閉じた傘からはこぼれた雨が流れてく 水たまりに映った 君の影が 僕の心を開く

だから今日も雨が上がるのを ずぶ濡れで待つおいらさ おまえ呆れた顔をしないで 心のドアを開けて

優しさだけなら 素直にもなれるのに 嘘の傷みが僕の心を冷たくする 灰色の空の様な冷たさに震えてる 人波に心許せず 君を思う心だけが暖かい

だから今日も雨が上がるのを ずぶ濡れで待つおいらさ おまえ呆れた顔をしないで 心のドアを開けて 心を開いて

COLD JAIL NIGHT

Words and Music by Yutaka Ozaki

スモッグに煙る街並みは渋滞のロードレース 空からはいつものように繋がれた人が踊る 不満とナイフ 押し込められた護送バスの中で誰もが 何かが少しだけ違う生き方強いられる この暮らしが始まる前に一つだけ聞いておこう 動機と心の病の上に罪名が被さる 脅えと目眩 諦めに似た雑居房の中で誰もが 跪いて一滴の水を乞うだろう

Cold jail night 都会の夜空は紅く燃えてる 罪を抱いて Cold jail night 吐く息は白く 脅え切った瞳の中 夢を見る

五十日振りに見る太陽は少しだけ痩せてた 監獄の太陽は俺の前でちぎれてゆく 寄りかかる壁に刻まれた傷 太陽のあたる場所を誰もが 忘れるために殴りつけた傷みもない 裁判という台本を読む真の正義が始まる 生き方を今削り取られて比べられている 毎日毎日覚え込ませる繰り返す仕事に誰もが 先を争い真実さえ口にする余裕などない

Cold jail night 都会の夜空は紅く燃えてる 罪を抱いて Cold jail night 吐く息は白く 脅え切った瞳の中 夢を見る



禁淄区

Words and Music by Yutaka Ozaki

Alcohlic, Druggist, Evil thoughts, Pornographic magazine 上手くやれない日常から 逃げ出したくて はみ出してゆく 逃れられないままのパラノイアに陥ってく 気がつけばベッドに縛られて 白く冷たいシーツにくるまり 流し込む白い血液で 深く眠らされ 罪無き心 消し去ると言うの Help me 析る言葉の代わりに バランスよく飲み干すメディセン Help me まともになれたとしても 連れ戻されるだけ

Cocaine, Marijuana, L.S.D., Amphetamine, Heroine 公党 幻聴 誰かが うごめいてる 囁いてる 答えなど無い ただ crazy なだけなのさそこでは 快楽 興奮 欲望 孤独なシステムに繋がれ 眠れない夜に縛られて 誠実で弱い心がいつも打ちのめされる Be cool 生き抜くための力を 握りしめ 信じこめ Be cool 誰も信じるな 欲望にきりはない

他は背中に感じる 本当の心ってやつを 他は誰も愛せない こんな世界じゃまともになれない 街に打ちつける太陽の下で のたうちまわる 他はいつも裁かれる 分け合う平和など何もない どこにも真実などない 明日が平和でなければ誰にも生きる意味がない Sex and drugs and rock'n'roll 日常からはみだしてしまう Sex and drugs and rock'n'roll 意味などないのさ

Sex and drugs and rock'n'roll 日常からはみだしてしまう Sex and drugs and rock'n'roll 意味などないのさ

音のない部屋

どんな風に心重ねよう

笑顔を絶やしたくないから

Words and Music by Yutaka Ozaki

風をかばい二人がくるまるジャケット 路地裏で見えない星の数かぞえ 触れ合うと壊れてしまいそうな二人の唇は震えて 思い出ばかりに微笑む様な君 優しさに口ごもりうつむいてる僕 音のない部屋のドアを開けると 小さなテーブルがある 今は僕だけを見つめておくれ 君の幻を抱きしめていたい 強く二人が育んでいる暮らしの何時もの口癖 鏡の中僕の知らない君 君の背中抱きしめ目を伏せてる僕 手探りで振り返るといつもの君が僕に甘える 二人だけの暮らし数えてみるたび 口を寒ぐ様な接吻をかわす

今は君だけを見つめていたい 時は悪戯に過ぎて行くだけ 通り過ぎて行く日々に愛が 優しさだけを残せるなら

優しさをひとつ部屋に残す 寂しさは同じ様に色あせる 部屋明かりがおとす光と影 それは二人の暮らし 二人の心はひとつ

きっと忘れない。 ヨコムコススススス

Words and Music by Yutaka Ozaki

街の暮らしにもすこしずつ慣れてきて 君の笑顔も素敵になってゆくようさ 忘れられない心の傷みの悲しみも 今夜全てを吹き消して 流れてゆく 変わってゆく 街灯りも形を変え 類杖をついたまま 見つめてる 夜が訪れる Happy Birthday いつだって君を忘れはしない Happy Birthday 君が好きさ 心をこめて 生まれてきた喜びに 君が包まれるように 今日という日を祝うよ Happy Birthday to You 時の流れも見つからなくなるほどに 辛く孤独に過ごした日々もあったさ だけどいつかはそんな悲しみも報われると 信じて過ごした日々もある いつも夢を忘れないで 季節の中でうつろう君 探している答えに心が 届かなくても Happy Birthday いつだって君は大丈夫さ Happy Birthday 君が好きさ 心をこめて 探している優しさに 君が包まれるように 今日という日を祝おう Happy Birthday to You 誰だって いつの日にか 振り返る時が来るのだから 忘れないで 毎日は ささやかな 君へのプレゼント Happy Birthday いつだって君を忘れはしない Happy Birthday 君が好きさ 心をこめて 生まれてきた喜びに 君が包まれるように 今日という日を祝うよ Happy Birthday to You

風の迷路

Words and Music by Yutaka Ozaki

行き交う人波の中 思い描く全てに 壊れそうな心を 抱いてしまうのは何故だろう そっと瞳閉じるように 心の傷み隠して ひとにぎりの幸せすら 奪われてしまう悲しみは何故 永遠という名のもとに忘れてしまいたいよ こんな胸の傷みは背負いきれるものでもない 光りが眩しすぎる 誰のせいでもないのさ ふっと迷い込んだ 風の行方の迷路 さあもう深く眠ろう 真実よ 安らかに 今夜も憂鬱な気持ちにくるまりながら まだ先のことなんか 何も見えやしないから やっぱり今日も同じこと 繰り返してしまうのだろう 何を探し求めるのか 見つける術もないのに 悲しみの行方に 流されてしまいそうさ 真実の名のもとに暮らして行くならば どこかにあるのだろうか 人の心の安らぎが いつか振り返る時に 傷跡すらも笑顔で 受け止められるだろうか 悔やむこともないままに ああ時は流れてく 真実よ安らかに 今夜も素敵な夢と戯れるだろう 愛という名のもとに 人が誓うものは何

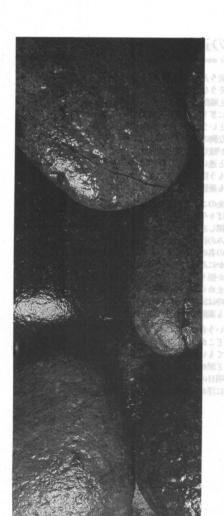
愛という名のもとに 人が誓うものは何 心はどこかに閉じ込められてしまいそう 信じてもいいのか その言葉のあるがまま けれど涙がこばれる 虚しさの中 さあ明日の姿を 真実よ安らかに 夜空に浮かべて眠ろう静かに

MARRIAGE

Words and Music by Yutaka Ozaki

埃まみれの都会の空 独りきりの寂しさの訳 探しながら二人は出会った 背負い切れぬ悲しみの数 互いの笑顔の作り方 積木のように重ねて過ごした 人は誰も 心の中に何かを 隠し続けているものだけれど 過ぎ去った時よりも 今は君のこと 愛している それが俺の答えだから I wanna marry you 諦めないから I wanna marry you 傷んだ心に 君が泣かぬように 壊れた愛の傷跡が 二人を悲しく包む 愛はとてももろいものだと 手探りの優しささえも 見つけられなくなる時に 愛か合めてしまいそうだから 二人の幸せ 描けるものだとしても 何も語らず寄り添う姿だけだから ひとつひとつを 覚えておいてほしい 愛を慣いながら二人は生きてる I wanna marry you 諦めないから I wanna marry you 終わりのない 優しさの始まり I wanna marry you 諦めないから I wanna marry you 傷んだ心に 君が泣かぬように

AHALAHARS L Happy Birthday to



誕生

Words and Music by Yutaka Ozaki

俺の時計の針がちょうど午前零時を指した 過ぎ去る時は新しい日の中に消え去ってゆく 訳もない涙が溢れ そっとこぼれ落ちる 分からないものが俺の全てを狂わせてしまった 愛を失い 仕事すらなくし 俺は街を出た そして今俺は一体何を待ち続けているのか ポケットには別れた家族の写真がある 皆で笑い俺は兄貴に肩を抱かれてる その写真をながめる度 分けあった訳の中に それぞれが選んだ生き方を思い浮かべてみる 人生はいつも誰にも冷たいものだから 捨ててしまうことの方がきっと多いものだから 街の風は凍ついたまま吹きつけ心隠さなければ 大切なもの何ひとつ守りきれやしないから そっと目を閉じて ふっと心を閉ざし 暮らしているけど Hey baby 俺はクールにこの街で生きてみせる Hey baby 俺は祈りの言葉なんか忘れちまった 俺はきっとまだ マトモにやれるはずさ 街中の飢えた叫び声に 立ち向かいながら 俺は走り続ける 叫び続ける 求め続けるさ 俺の生きる意味を

一人で生きる寂しさに疲れ やがて恋に落ちた 彼女と二人暮らし始めて半年が経った マトモな仕事が見つからずに 荒れ果てた暮らし 投げ出したくなる そんな暮らしが続く日毎に俺は 愛の温もりも忘れて 心はすさんでゆき 自分自身から逃げ出そうと 脅えて暮らした

心の弱さの逃げ道に罪を犯した俺は 捕えられ 牢獄の重い扉の奥で息をひそめた そして裁判の後 俺は手首ナイフで切り付け 気がつけば病院のベッドの上薬漬にされた ああ教えてくれ 俺のどこに間違いがあるのか 街の冷たい風から逃れて生きてきただけなのに

やがて俺もマトモな生活を見つめ彼女と暮した ある日彼女は 涙ぐむ笑顔の中でつぶやいた 二人の新しい命が宿り 生まれてくることを

Hey Baby 俺はクールにこの街に生まれた
Hey Baby そして何もかも捨てちまって生きてきたんだ
生きる早さに追いたてられ 愛求め 裏切られ 孤独を知り振り返ることも出来ず 震え暮らした
そして走り続けた 叫び続けた
求め続けていた 生きる意味も分からぬまま

産声を上げ そして立ち上がり
やがて歩き始め 一人きりになる
心が悲しみに 溢れかき乱されても
脅えることはない それが生きる意味なのさ

Hey Baby 忘れないで強く生きることの意味を
Hey Baby 探している 答えなんかないかもしれない
何ひとつ確かなものなど見つからなくても
心の弱さに負けないように立ち向かうんだ
さぁ走り続けよう 叫び続けよう
求め続けよう この果てしない 生きる輝きを

新しく生まれてくるものよ おまえは間違ってはいない 誰も一人にはなりたくないんだ それが人生だ 分かるか

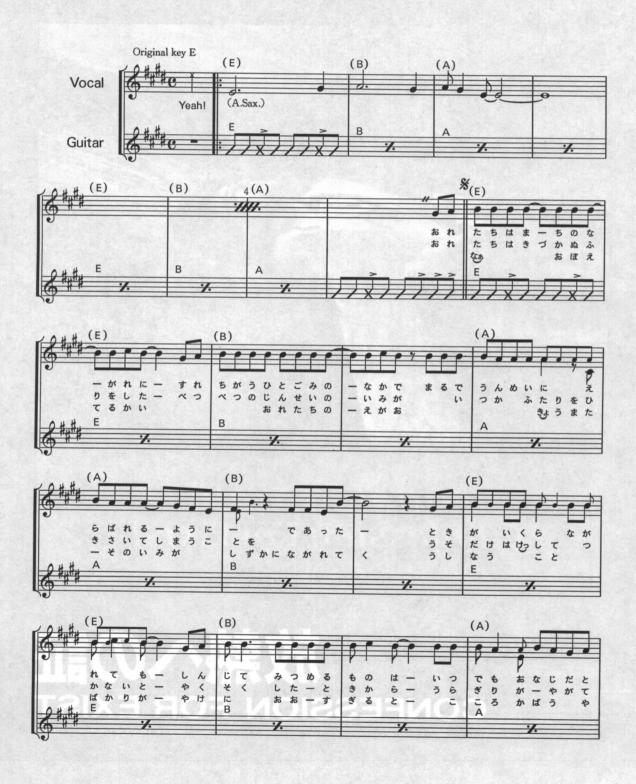
Yutaka Ozaki Complete Song Book



放熱への証 CONFESSION FOR EXIST

SONY RECORDS SRCL 2394

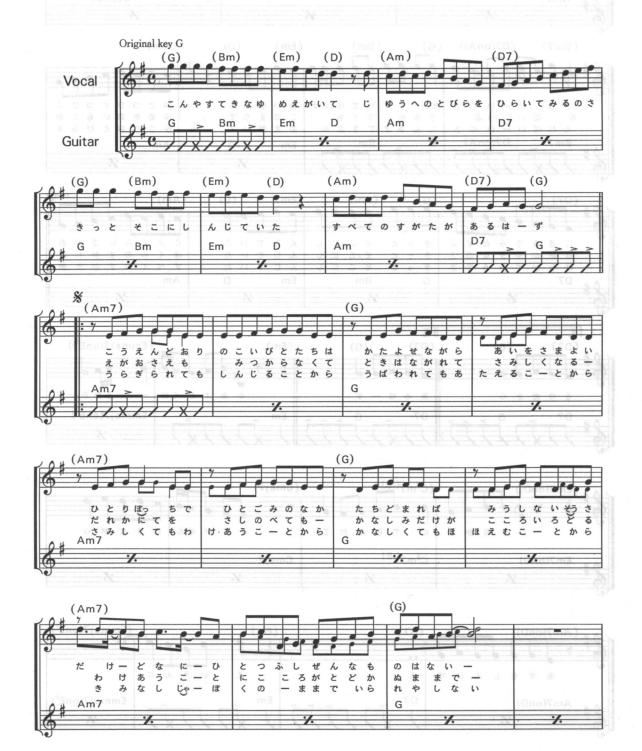
汚れた絆 作詩/作曲:尾崎 豊 ⑥ Y. Ozaki





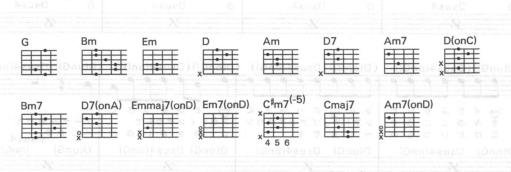


自由への扉



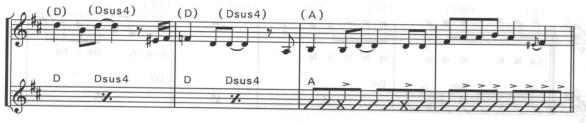






Get it down

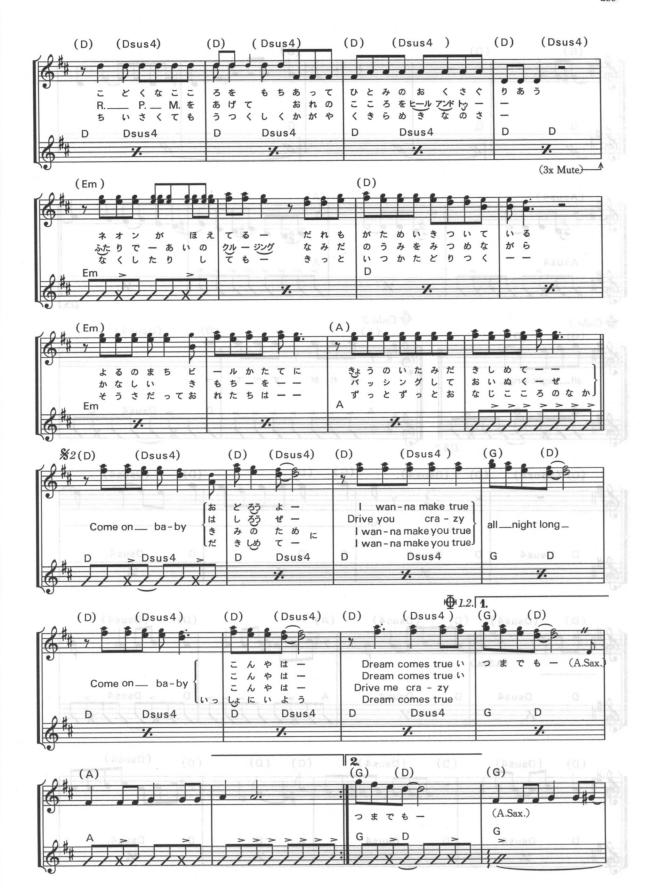










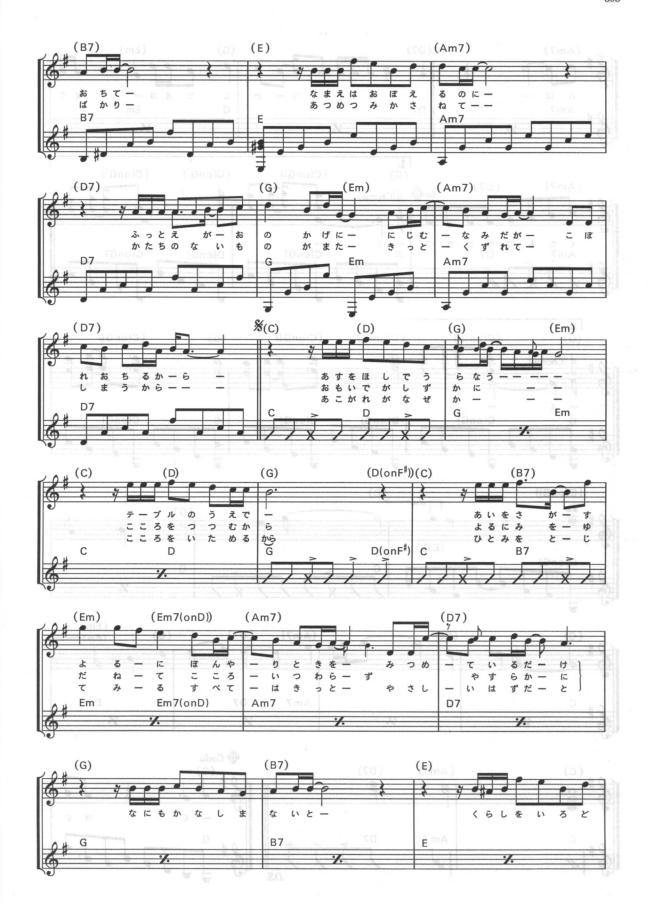






優しい陽射し

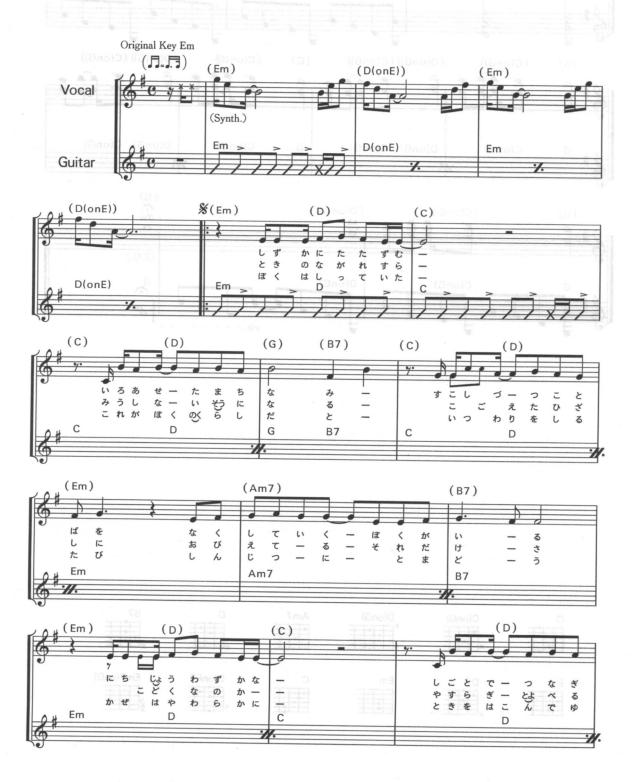


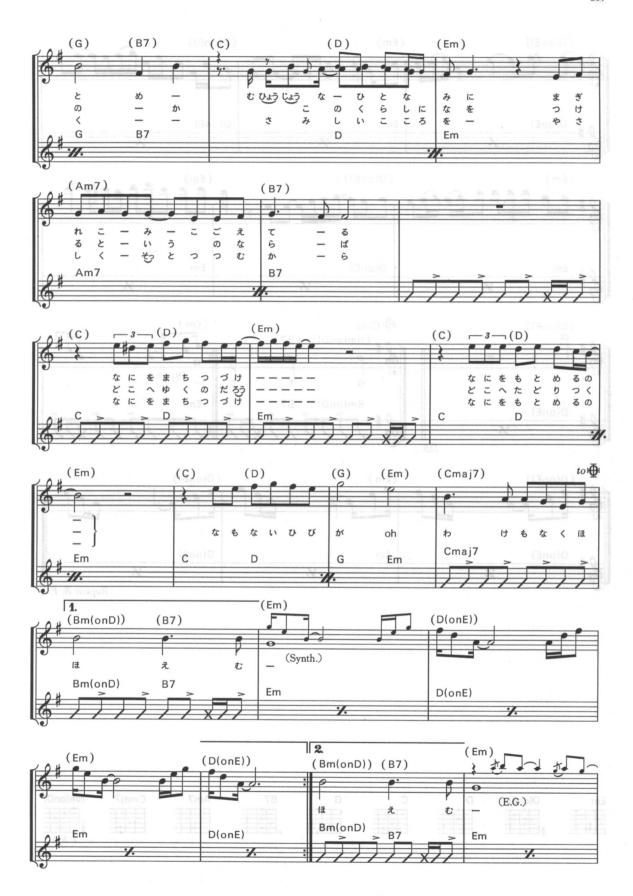






贖罪







ふたつの心

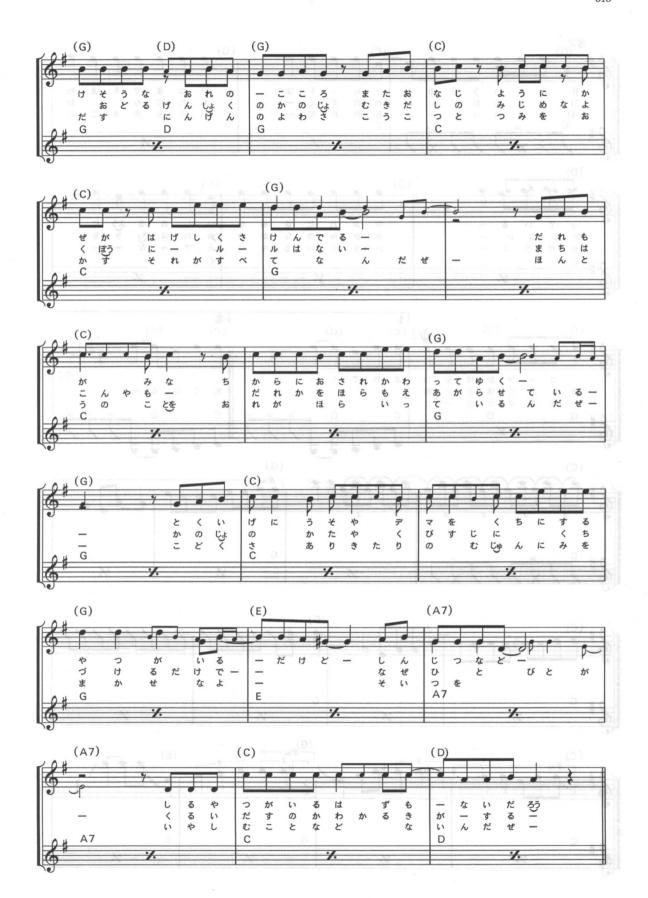






原色の孤独











太陽の瞳







Monday Morning 作詩/作曲:尾崎 豊

© Y. Ozaki



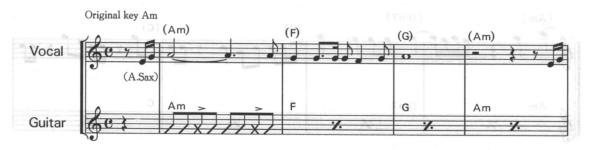


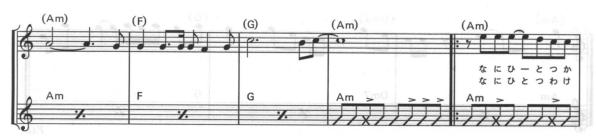


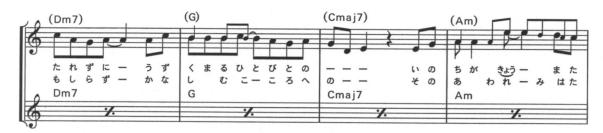




作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki

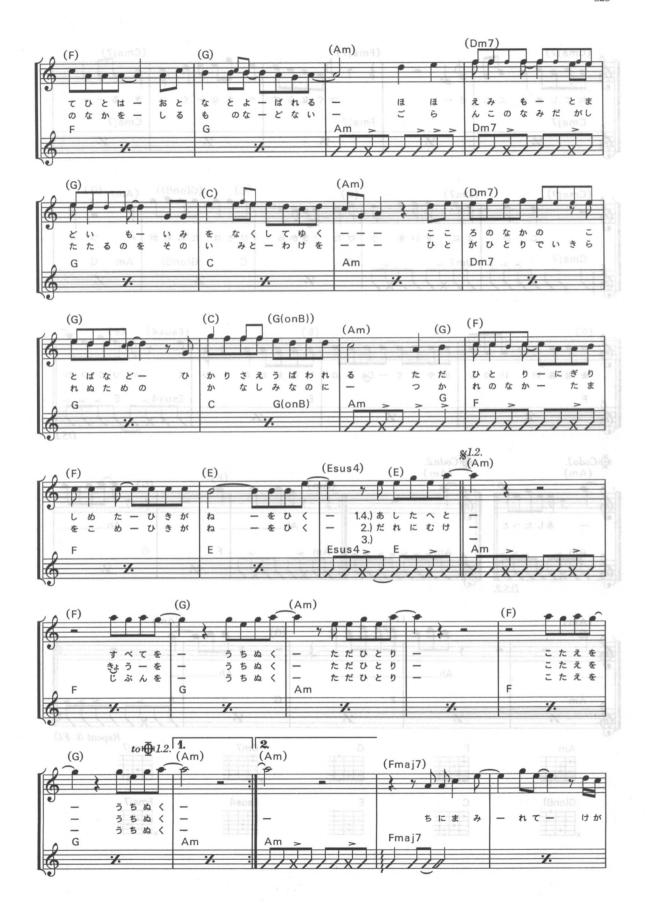














Mama, say good-bye

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki







汚れた絆

Words and Music by Yutaka Ozaki

俺たちは街の流れに すれ違う人混みの中で まるで運命に選ばれるように出会った

時が幾ら流れても 信じて見つめるものはいつでも同じだと誓い合う様に語り明かした心の中を探り合えば 傷みと悲しさを覚え合う Oh 他はまだ震えてる 二人を止めるものもなく分け合う寂しさに 怯えた二人の絆が 凍えた風に吹かれてる

他たちは気付かぬ振りをした 別々の人生の意味がいつか二人を引き裂いてしまうことを 嘘だけは決して付かないと約束したときから 裏切りがやがて訪れた ふと気付けば互いは互いを演じ 見つめ合うことすら出来ぬ Oh 俺はきっと忘れない 二人はこれで良かったのさ 今は汚れた絆も なにも変わらず信じている 俺たちの輝き奪われぬように

なお覚えてるかい、俺たちの笑顔 今日またその意味が静かに流れて行く 失うことばかりが、やけに多過ぎると 心かばうやつらにすがるよに泣くのか 誰もが皆 一人じゃいられず 二人で分け合うことすら出来ない Oh いつかまた出会えるさ 俺たちを止めるものは何もない 汚れた絆のその意味を 俺たちは決して忘れない 求め続けた輝きを

自由への扉

Words and Music by Yutaka Ozaki

今夜素敵な夢を描いて 自由への扉を開いてみるのさ きっとそこに信じていた全ての姿があるはず

公園通りの恋人達は肩寄せながら愛を彷徨い 独りばっちで人混みの中立ち止まれば見失いそうさ だけど何ひとつ不自然なものはない 全てが奏でるハーモニーに心委ねてみてもいいのさ

だって全ては触れ合いながらひとつひとつの心を生み出すよ きっとそこに信じていた 自分らしさがあるのだから

笑顔さえも見つからなくて 時は流れて寂しくなる 誰かに手をさしのべても悲しみだけが心彩る 分け合うことに心が届かぬままで 見つめるものがすれ違っても いつか分かりあえる大丈夫

君も僕もこの街で夢を追い求める輝きなのさ きっとそこに信じていた 僕らの姿があるはず

閣夜の国に浮かぶ月明かりに照らされて 星が揺らめきながら明日を信じてる 永遠に思える様な僅かな悲しみと暮らしは続く

裏切られても 信じることから 奪われても 与えることから 寂しくても 分け合うことから 悲しくても 微笑むことから 君なしじゃ僕のままでいられやしない 誰もか皆自由に生きてゆくことを許し合えればいいのさ

Get it down

Wards and Music by Yutaka Ozaki

洒落たブルーのジーンズにサングラス ワイルドなウェスタンブーツ 仕事を終えて夜にくりだす俺は寂しがり屋のキング シャイな振りした彼女のハートにそっと火を点けて 孤独な心を持ち合って瞳の奥探り合う ネオンが吠えてる 誰もがため息ついている 夜の街ビール片手に今日の傷み抱きしめて Come on baby 踊ろうよ I wanna make true

I wanna make true all night long Come on baby 今夜は Dream comes true いつまでも

俺の車はダークなブルー さぁ急いで乗り込めよ アクセル吹かせばハイに心震わすギストノイズ 君の心をシフトアップアンドダウン アウトインアウトでコーナ抜けて R.P.M.を上げて俺の心をヒールアンドトゥー 二人で愛のクルージング 涙の海を見つめながら 悲しい気持ちをパッシングして追い抜くぜ Come on baby 走ろうぜ Drive you crazy all night long Come on baby 今夜は Dream comes true いつまでも

ベッドの上 ふっと見つめる星の様なイルミネイション 君も俺もこの街に埋もれた寂しがり屋のセレナーデ だけどいつもいつまでもこの世界のどこかで 小さくても美しく輝くきらめきなのさ なくしたりしても きっといつか辿り着く そうさだって俺たちはずっとずっと同じ心の中 Come on baby 君のために I wanna make you true all nigt long Come on baby 今夜は Drive me crazy all night long Come on baby 抱きしめて I wanna make you true all night long Come on baby 抱きしめて I wanna make you true all night long Come on baby 一緒にいよう Dream comes true それが全て

優しい陽射し

Words and Music by Yutaka Ozaki

過ぎ行く日々の中で 寂しくなる君は うつろう心の理由に 一人唇 噛み締めている 誰かと恋に落ちて 名前は覚えるのに ふっと笑顔の影に 滲む涙が零れ落ちるから 明日を星で占うテーブルの上で 愛を探す夜に ぼんやり時を見つめているだけ 何も悲しまないと 暮らしを彩れば きっといつか 答えは育むものだと気付く 大切にしてるけど 壊れてしまうから 夢は夢のままだと 諦めてみて 戸惑うばかりで

家は多のままだと 離めてみて 戸窓っぱかりて 意味のない物ばかり 集め積み重ねて 形の無いものが またきっと崩れてしまうから 思い出が静かに 心を包むから 夜に身を委ねて 心偽らず安らかに 何も悲しまないと 暮らしを彩れば きっといつか 答えは育むものだと気付く

憧れか何故か 心を傷めるから 臓を閉じてみる 全てはきっと優しいはずだと 何も悲しまないと 暮らしを彩れば きっといつか 答えは育むものだと気付く 育むものだと気付く…… 贖罪

Words and Music by Yutaka Ozaki

静かに佇む色褪せた街並み すこしづつ言葉を無くして行く僕がいる 日常僅かな仕事でつなぎ止め 無表情な人波に紛れ込み凍えてる 何を待ち続け何を求めるの 名もない日々が 訳もなく微笑む

時の流れすら見失いそうになる 凍えた日差しに怯えてるそれだけさ 孤独なのか安らぎと呼べるのか この暮らしに名を付けるというのならば 何処へ行くのだろう 何処へ辿り着く 名もない日々が訳もなく微笑む

僕は知っていた これが僕の暮らしだと 偽りを知る度 真実に戸惑う 風は柔らかに時を運んでゆく 寂しい心を優しくそっと包むから 何を待ち続け 何を求めるの 名もない日々が 訳もなく微笑む

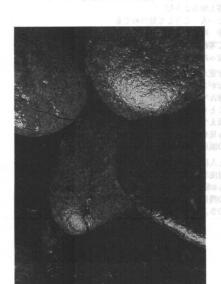
ふたつの心

Words and Music by Yutaka Ozaki

見つめ合うだけの暮らし心の鼓動が 寂しさ塗りつぶし今日を温め合うよ ふたつの心ふたつの生き方を重ね合うから 君は時々涙を僕はため息を零すけど 二人求め合い暮らしてゆけるさ 夜明けまでずっと抱き締め合いながら

そっと原閉じて僕が旅に行く時 君はいつまでも笑顔を浮かべていた 夜の明かりの向こうで君は僕の帰りを待つの 見知らぬ街の片隅で僕は君の面影抱き締めている 離れて過ごしても 君の心が聞こえるよ 君に届くだろう僕のこの思いが

分け合うものなど初めからないけど 心さえあればいつでも二人はあるがまま そっと強く受け止め合いながら夜が明けるまでずっと 抱き締め合っているよ 二人あるがまま……



原色の孤独

Words and Music by Yutaka Ozaki

名もない都会の空 虚しい光の色 嘘だらけの言葉に 張り裂けそうな俺の心 また同じように 風が歌しく叫んでる 誰もが皆 力に押され変わってゆく 得意げに嘘やデマを口にする奴がいる だけど 真実など知る奴がいるはずもないだろう 舞台裏のルーレットはいつまでも回っている 破れた夢買い占めるようにコインが ほら 積まれてく

白昼夢の中で 弄ぶ慰安のうた
まるで生と死彷徨い 踊る原色の彼女
むき出しのみじめな 欲望にルールは無い
街は今夜も誰かを ほら燃え上がらせている
彼女の肩や首筋に くちづけるだけで
何故人々が くるい出すのか 分かる気がする
心が壊れてく 俺にも分からない
鏡の中の俺は 今日も惨めに ほら吠えている

約束とは常識を 隠すためのメッセージ 破られた常識に ボロをだす人間の弱さ 恍惚と罪を犯すそれが 全てなんだぜ 本当のことを俺が ほら言っているんだぜ 孤独さ ありきたりの矛盾に 身を任せなよ そいつを卑しむことなど ないんだぜ サイコロは振られたぜ 命まるごと賭けろよ 生きている奴らは みなイカサマな賭博師さ サイコロは振られたぜ 命まるごと賭けろよ 生きている奴らは みなイカサマな賭博師さ

太陽の瞳

Words and Music by Yutaka Ozaki

太陽が沈もうとしている夜が 唸りをあげて暴れている 心が釣打たれるような 傷みを感じている 何も失わぬようにと だからこんなに疲れている 僕はたった一人だ 僕は誰も知らない 誰も知らない僕がいる

こんな仕事は 早く終わらせてしまいたい まるでぼくを殺すために 働くようだ それでなければ 自由を求める 籠の中に閉じ込められてる 夢も現実も消えてしまえばいい 僕はたった一人だ 見知らぬ人々が 僕の知らない僕を見てる

一人になって 罪を消そうとしても 自分の成律の罪は消せない 人は誰も罪人だから 覚えてきたものに捕まえられている 一人になりたくない 争い合いたくない 僕はたった一人だ 僕は僕と戦うんだ 誰も知らない 僕がいる

Monday morning

Words and Music by Yutaka Ozaki day (of supply han shoot)

Monday Morning 傷んだ心 窓に映る一人ぱっちの影 ドアを開け踏み出す 積木の様な街の中 Blue な人波に流されてゆく時 仕事を抱えてジグソーパズルのひと駒の様に並べ替えられる Rambling Tambling 孤独な瞳の奥に浮かんでる Rambling Tambling このまま俺は明日を夢見る

Jungle City 踏み外したら ポップコーンの様にはじけてしまう 砂漠の中のエリートコース 騙されるようにあてがわれる このまま生き延びることだけの Happy Ending

だけどこの戦いはいつまでも追いかけて来る。逃げ場所はない Rambling Tambling 戦友は勝利の名に引き裂かれ

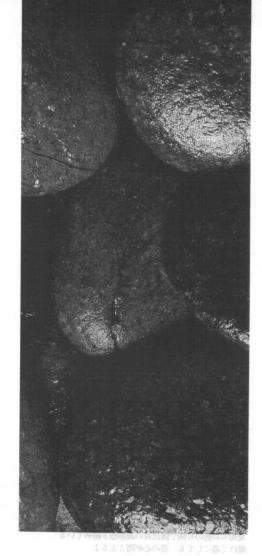
Rambling Tambling 等顔だけ歪んだ今日の真実

Rambling Tambling 孤独な瞳の奥に浮かんでる Rambling Tambling このまま俺は明日を夢見る

闇の告白

|前の日日 Words and Music by Yutaka Ozaki

何ひとつ語れずに うずくまる人々の 命が今日またひとつ 街に奪われた 憎しみの中の愛に 育くまれながら 目覚めると やがて人は大人と呼ばれる 微笑みも 戸惑いも意味を失くしてゆく 心の中の言葉など 光さえ奪われる ただ一人 握りしめた引き金を引く 明日へと 全てを撃ち抜く ただ一人 答えを撃ち抜く 何ひとつ理由もしらず 悲しむ心への その衰れみは たやすく消し去られてゆく 暖かな温もりに 手を伸ばしてみても 誰一人 心の中知る者などない ごらんこの涙が滴るのを その意味と訳を 人が一人で生きられぬための悲しみなのにもなる。 疲れの中弾丸をこめ、引きがねを弾く ただ一人 答えを撃ち抜く 血にまみれて 汚れてしまう心 コララ は料 2年 47年計算 Aこ まるではくを収すために 働くようだ 償う術もなく生きる この世に生をうけた時から 人は誰もがう自己 をはれるうから 罪を背負い何時しか。やがて銃の引きがねを弾くると思い中の無 いつの日か 自分を撃ち抜く はず人の 自動量 さんースとうお祭 ただ一人 答えを撃ち抜く るて見る針り込み限の第 明日へと 全てを撃ち抜く まきょうき 音楽器 フェダコスー ただ一人 答えを撃ち抜く



Mama, say good-bye

Words and Music by Yutaka Ozaki 夜明けまであとすこし 俺はハイウェイを走る 疲れた心が 今過ぎ去る時を抱えてる 夜空に揺らめく 静かな星屑たちは生き急いでいる その答え知るようだ たった一人 こうして見つめてる 闇の中 明日が続くならば 溢れて零れる たった一粒の涙 星になった貴方の温もり 今でも覚えてる 貴方を覚えてきた 振り返ることもなく 夜のながさの片隅にだけ 暮らしを見つめながら 愛を育んで 費やした日々 休むことも知らず 生きる答えは何故 ねえ教えて ささやかな人生の願いは 一つでも叶ったの 誰にも見せぬように 一人零していた 貴方の涙を 今でも覚えてる きっと人は やがて深い闇の中で 一人自由な 夢叶えて眠るのだろう だからお眠りよ もう何も悲しまなくていい 貴方の残した人生は さよならの言葉さえ、聞けなかった

本当のさよなら ずっと夢みて その安らかな笑顔で



太陽の破片尾崎豊

Words and Music by Yutaka Ozaki Arranged by Toshiyuki Honda Produced and Mixed by Kinji Yoshino

CO

MCD-3/STEREO/¥1,000



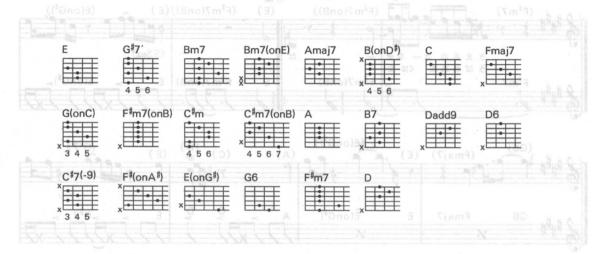
太陽の破片

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1988 by Grand Mother Music Vision Inc.









太陽の破片

Words and Music by Yutaka Ozaki 昨晩 眠れずに 失望と戦った

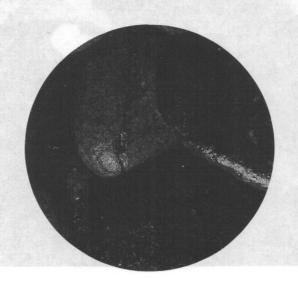
君が 悲しく見える 街が悲しいから 昨晩 一晩中 欲望と戦った 君を包むもの全てが 僕を壊すから すり変ってゆく 現実との はざまに描いた夢が 愛を傷つける 暮しはただ 街明りに照らされ 何を信じるの どこへ向かうの 僕の手も握らずに 消えるのは何故

誰も手をさしのペず 何かにおびえるなら 自由 平和 そして 愛を何で示すのか だから 一晩中 絶望と戦った 僕はただ 清らかな 愛を信じている

目をつぶってみる 涙がほら 渇くまでの間に 忘れられるさ 破れた約束の前で 人はいつも 偽りつづける だけど 君を もう欲望の果てにただ 奪われたくはない

君を守りたい 悲しみ こぼれぬよう あわれみが 今希望の内に生まれるよう もし君が 暗闇に光を求めるなら ごらん 僕を 太陽の破片が 頬をつたう

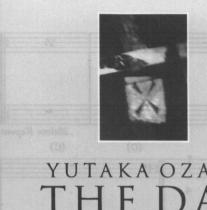
昨晩 眠れずに





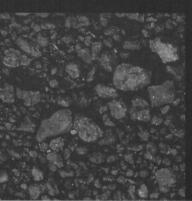


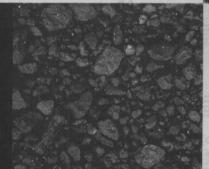
Yutaka Ozaki Complete Song Book



YUTAKA OZAKI

VOLUME 1.







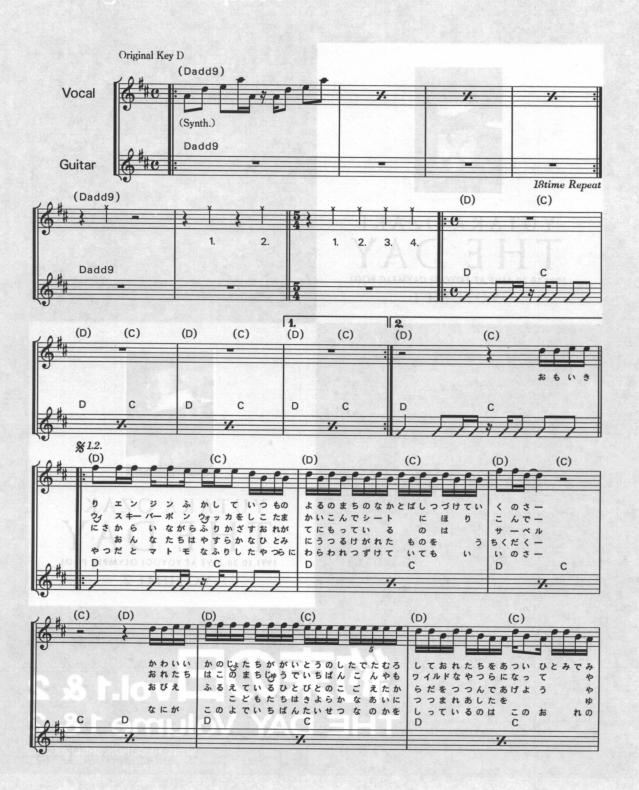
YUTAKA OZAKI

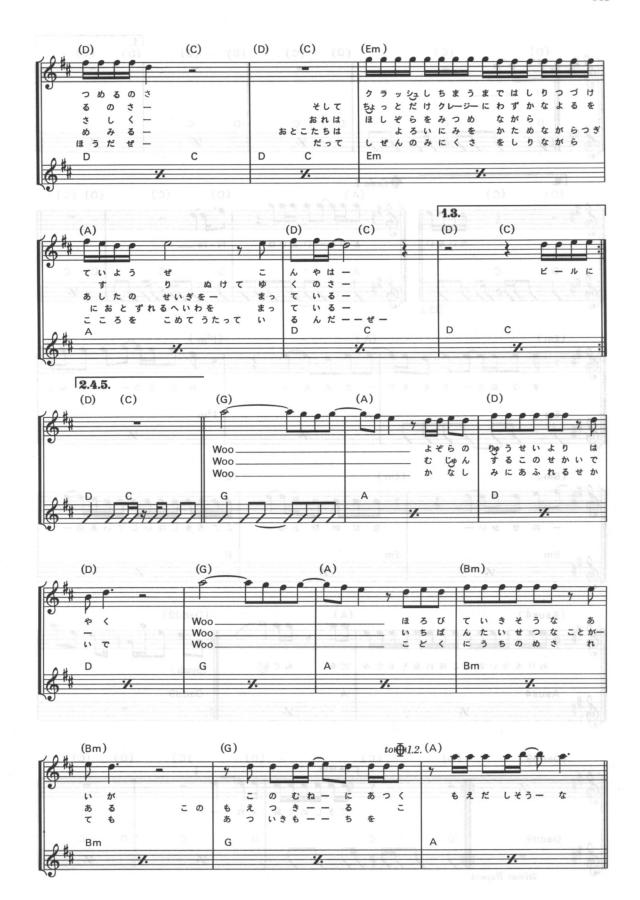
VOLUME 2.

約束の日vol.1 & 2 THE DAY Volume 1 & 2

SONY RECORDS SRCL 2602 & 2

Fire 作詩/作曲: 尾崎 豊 © Y. Ozaki



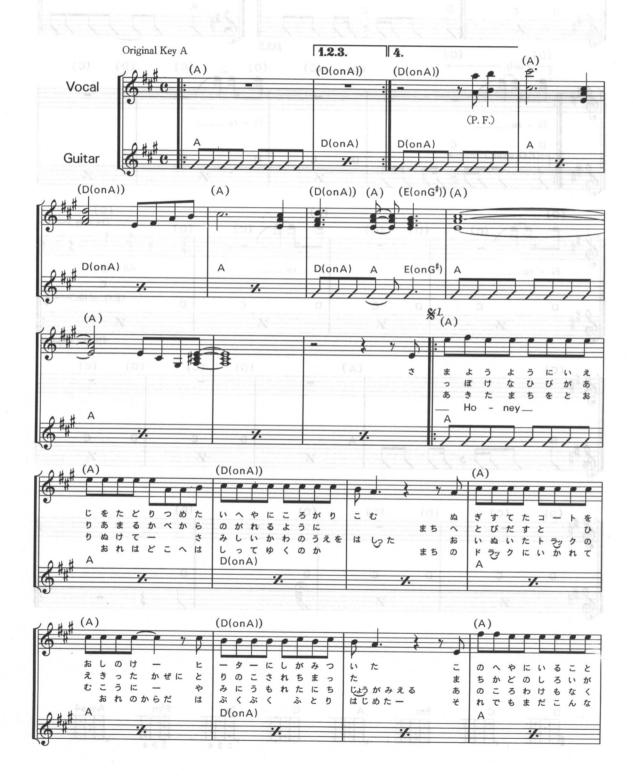






Driving All Night

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1985 by Grand Mother Music Vision Inc.









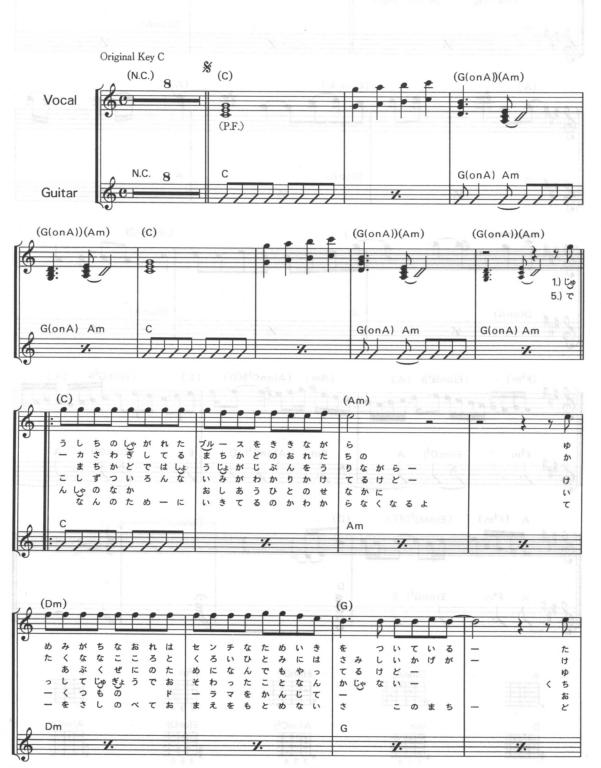


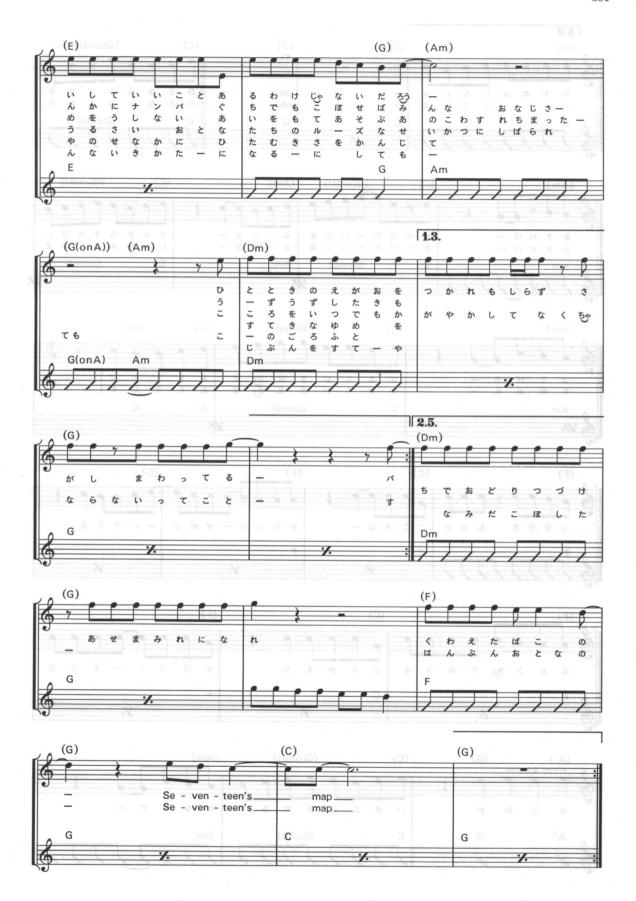


十七歳の地図

SEVENTEEN'S MAP

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.



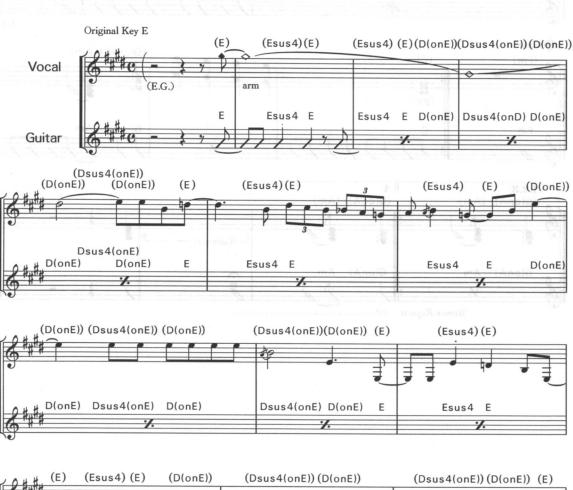


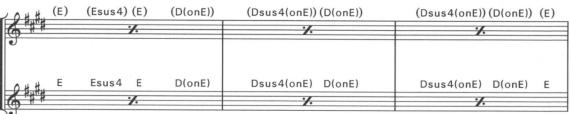




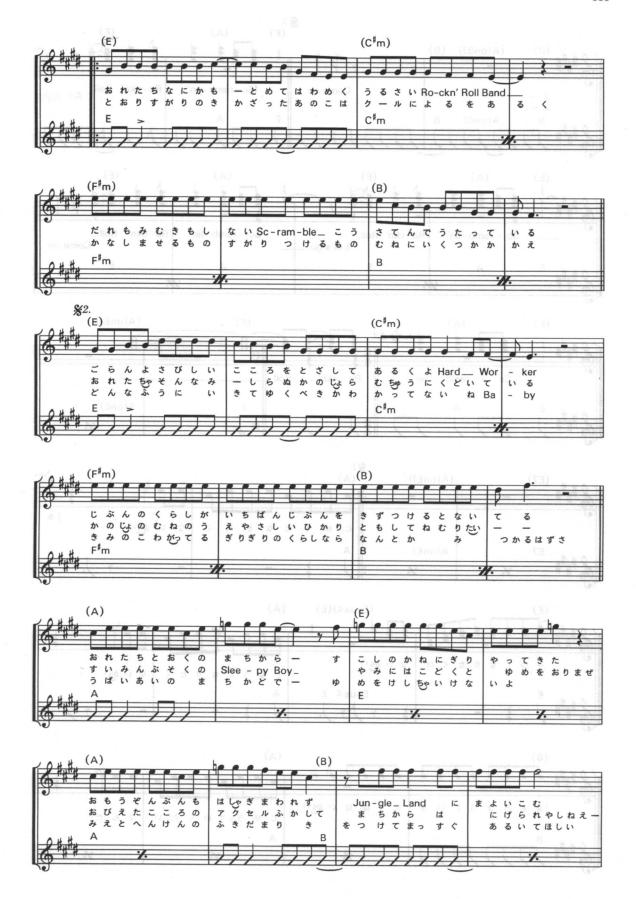
Scrambling Rock'n' Roll

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1984 by Grand Mother Music Vision Inc.

















僕が僕であるために

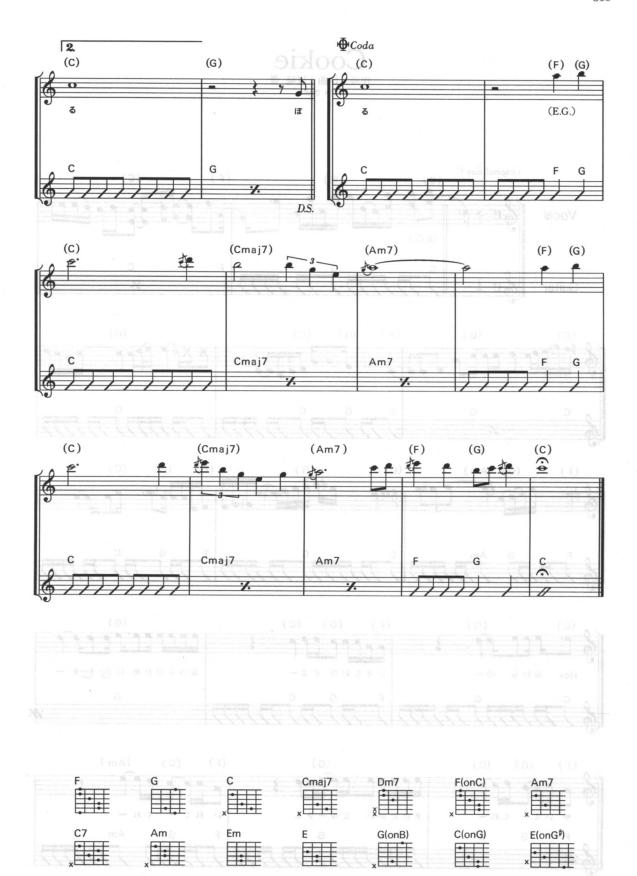
MY SONG

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.

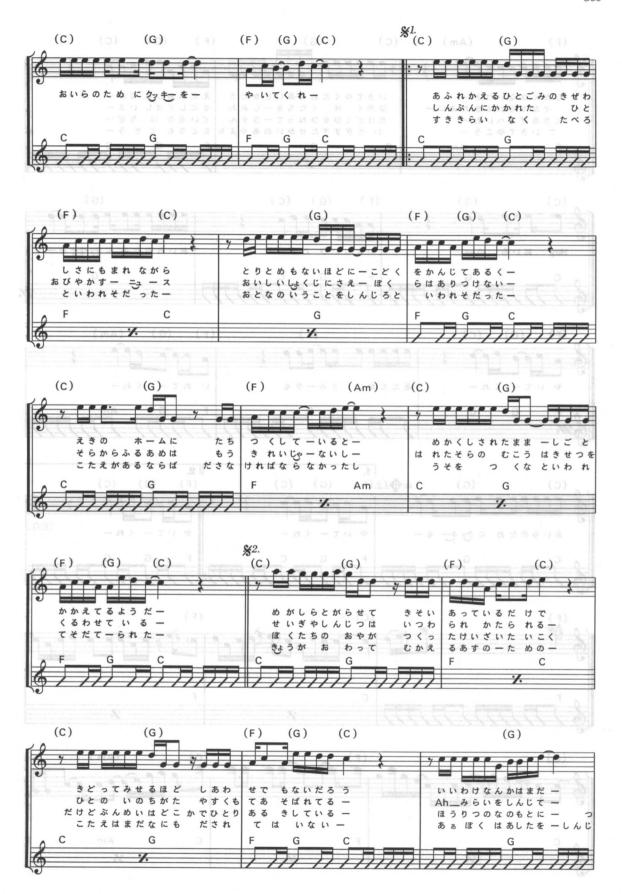




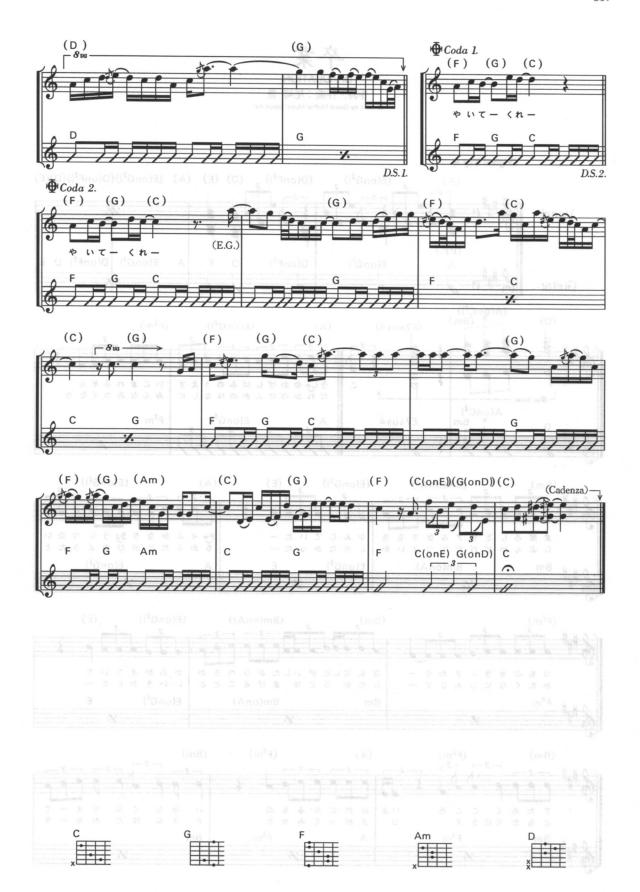












ざ わ め く こ こ と も だ ちにさ え

<

F[#]m

いま

おれ

よが 2 て

にあ る Ø

F[#]m

2 き に

Bm

はだ

n かー

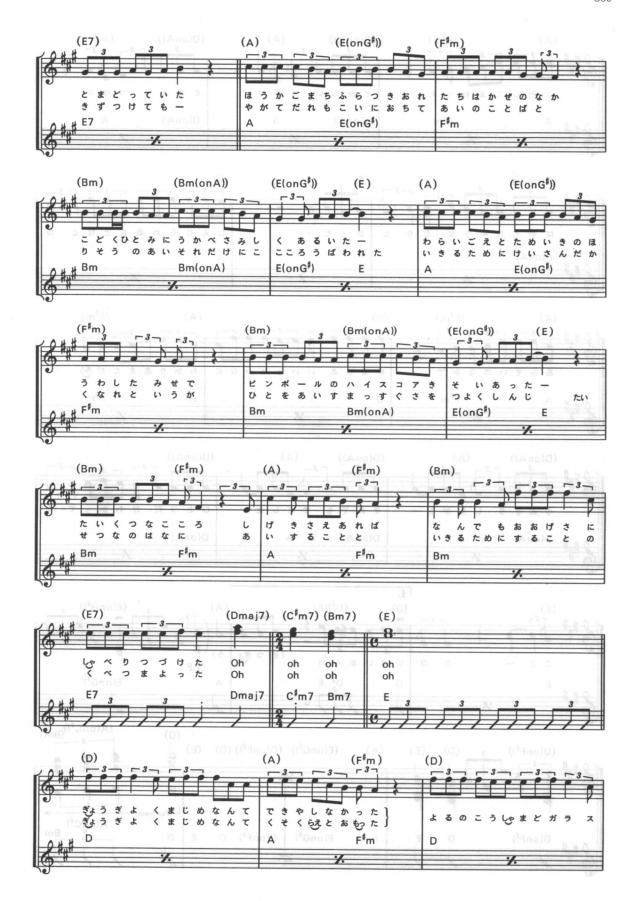
みせた

1/-

ざわめ

Bm





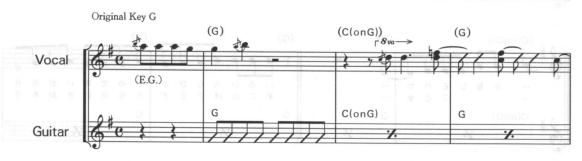




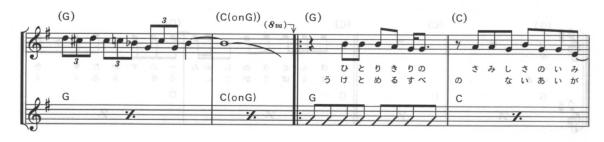


永遠の胸

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki





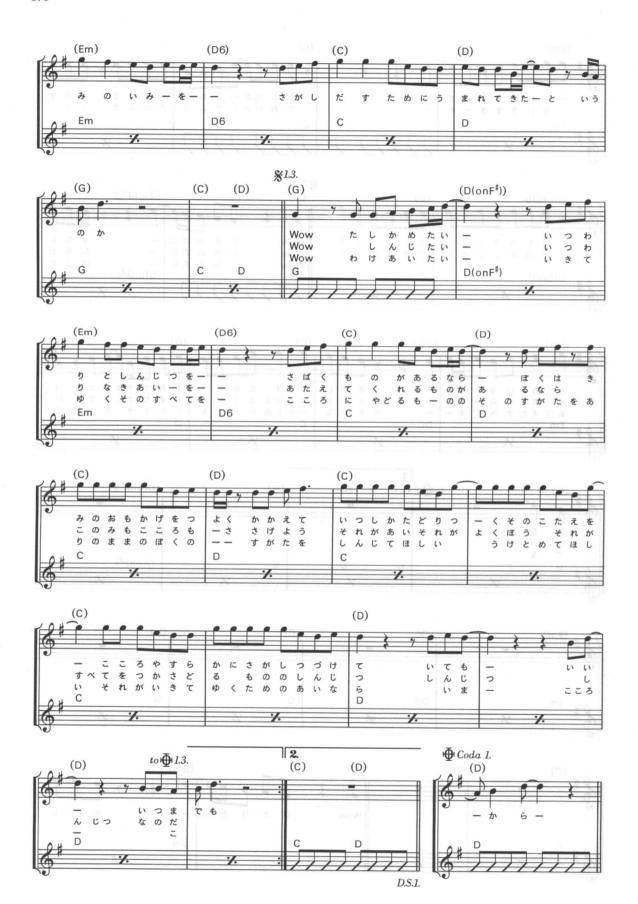


















Freeze Moon

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1985 by Grand Mother Music Vision Inc.













太陽の破片

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1988 by Grand Mother Music Vision Inc.



A(onB)

1.

В

1.

B(onD#)

1.

E

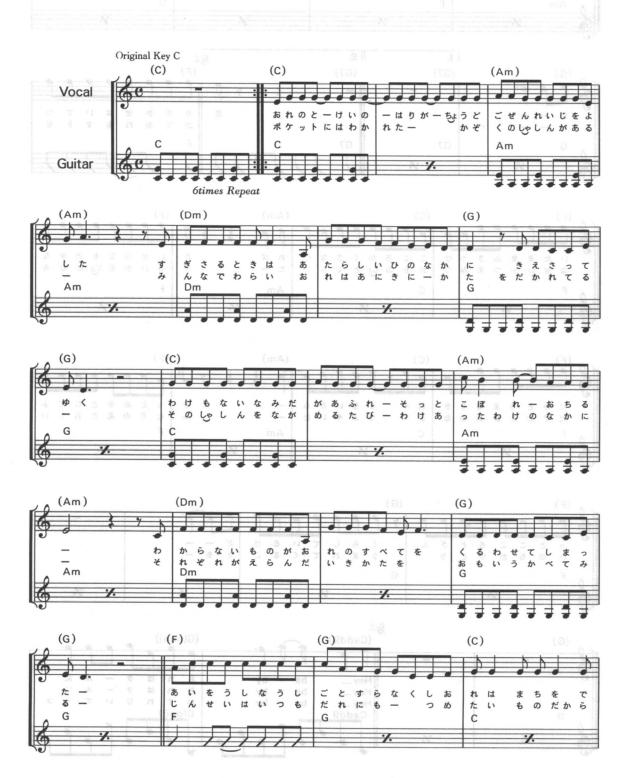
























15の夜

THE NIGHT

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1983 by Grand Mother Music Vision Inc.



1.







I Love You

作詩/作曲:尾崎 豊 © 1983 by Grand Mother Music Vision Inc











FIRE

Words and Music by Yutaka Ozaki

思い切りエンジン吹かして 思い切りエンジン吹かして いつもの夜の街の中 飛ばし続けて行くのさ 可愛い彼女達が 街灯の下で たむろして 俺たちを 熱い瞳で見つめるのさ クラッシュしちまうまで 走り続けていようぜ 今夜は

ビールにウイスキー バーボン ウォッカを しこたま買い込んで シートに放り込んで 俺達は この街中で 一番今夜も ワイルドなやつらになって やるのさ そして ちょっとだけ クレイジーにわずかな夜をすり抜けて行くのさ

Woo 夜空の流星より早く

Woo 滅びて行きそうな愛が

この胸に 熱く 燃え出しそうな Fire

体制に逆いながら振りかざす 俺が手に持っているのは サーベル 脅え震えている人々の凍えた体を包んであげよう 優しく 俺は星空を見つめながら 明日の正義を待っている

女達は 安らかな瞳に映る 汚れたものを 打ち砕く 子供達は 清らかな愛に包まれ 明日を夢見る 男達は 鎧に身をかためながら 次に訪れる平和を 待っている

Woo 矛盾するこの世界で Woo 一番大切なものがある この燃え尽きることのない愛は Fire

素直な気持ち さえも 語り尽くせぬこの世界 何が人の心を支配してるの 訳もないのに こぼれ落ちる涙を拭おう

拘うしめておくれ

おかしな奴だと マトモな振りした奴らに 笑われ続けても いいのさ 何がこの世で一番大切なのかを 知っているのは この俺の方だぜ

だって 自然の醜さを知りながら 心をこめて歌って いるんだぜ

Woo 悲しみに溢れる世界で Woo 孤独に打ちのめされても

熱い気持ちを燃やし続けようぜ Fire

Driving All Night

Words and Music by Yutaka Ozaki

さまようように 家路をたどり 冷たい部屋にころがりこむ 脱ぎすてたコートを押しのけ ヒーターにしがみついた この部屋にいることすら 俺をいらつかせたけど 疲れをまとい 床にへばりつき 眠った

ちっぽけな日々が ありあまる壁から逃れるように 街へ飛び出すと 冷えきった風に とり残されちまった 街角の白い街燈が とても優しかった 敗けないでってささやく あの娘のように見えた

街までのハーフ・マイル アクセル踏み込む スピードに目をやられ 退屈が見えなくなるまで 少しぐらいの時を 無駄にしてもいいさ 色褪せた 日常につぶやく

俺にとって俺だけが すべてというわけじゃないけど 今夜俺誰のために 生きてるわけじゃないだろう

Wow wow 行くあてのない Driving all night Wow wow 慰めのない Driving all night 見あきた街を通りぬけて 寂しい川の上を走った 追い抜いたトラックの向うに 闇に埋もれた日常が見える あの頃 わけもなく笑えた 俺の友達は みんなこの橋を 死物狂いで走った

十七歳の地図 Words and Music by Yutaka Ozaki

十七のしゃがれたブルースを聞きながら 夢見がちな俺はセンチなため息をついている たいしていい事あるわけじゃないだろう 一時の笑顔を疲れも知らず探し回っている バカ騒ぎしてる 街角の俺達の かたくなな心と黒い瞳には寂しい影が 喧嘩にナンパ 愚痴でもこぼせば皆同じさ うずうずした気持で踊り続け 汗まみれになれ くわえ煙草のSeventeen's map

街角では少女が自分を売りながら あぶく銭のために何でもやってるけど 夢を失い 愛をもて遊ぶ あの子忘れちまった 心をいつでも輝かしていなくちゃいけないってことを 少しずつ色んな意味が解りかけてるけど 決して授業で教わったことなんかじゃない 口うるさい大人達のルーズな生活に縛られても 素敵な夢を忘れやしないよ

人波の中をかきわけ 壁づたいに歩けば すみからすみはいつくばり 強く生きなきゃ思うんだ ちっぽけな俺の心に 空っ風が吹いてくる 歩道橋の上 振り返り 焼けつくような夕陽が 今 心の地図の上で 起こる全ての出来事を照らすよ Seventeen's map

電車の中 押しあう人の背中にいくつものドラマを感じて 親の背中にひたむきさを感じて このごろふと涙こぼした 半分大人のSeventeen's map 何のために生きてるのか解らなくなるよ 手を差しのべて おまえを求めないさ この街 どんな生き方になるにしても

人波の中をかきわけ 壁づたいに歩けば しがらみのこの街だから 強く生きなきゃ思うんだ 歩道橋の上 振り返り 焼けつく様な夕陽が ちっぽけな俺の心に 空っ風が吹いてくる 今 心の地図の上で 起こる全ての出来事を照らすよ Seventeen's map

Honey 俺は何処へ走って行くのか 街のドラッグにいかれて 俺の体はぶくぶく太りはじめた それでもまだこんなところに のさばっているのか あの頃みたいに 生きる気力もなくして

街までのハーフ・マイル アクセル踏み込む スピードに目をやられ 退屈が見えなくなるまで 少しぐらいの時は 無駄にしてもいいさ 色褪せた 日常につぶやく

自分を捨てやしないよ

俺はまだまだ だめになりゃしないさ 今夜俺 誰のために 生きてるわけじゃないだろ

Wow wow 行くあてのない Driving all night Wow wow 慰めのない Driving all night

俺にとって 俺だけが すべてというわけじゃないけど 今夜俺 誰のために 生きてるわけじゃないだろ

Wow wow 行くあてのない Driving all night Wow wow 慰めのない Driving all night Wow wow 行くあてのない Driving all night

Wow wow 慰めのない Driving all night

Scrambling Rock'n' Roll

Words and Music by Yutaka Ozaki

俺達何かを求めてはわめく うるさいRock'n' Roll Band 誰も見向もしない Scramble交差点で歌っている ごらんよ 寂しい心を閉ざして歩くよ Hard Worker 自分のくらしが─番自分を傷つけると泣いてる

能達遠くの街から 少しの金にぎりやってきた 思う存分もはしゃぎまわれず Jungle Landに 迷いこむ

Scramblin' Rock'n' Roll

通りすがりの 着飾ったあの娘は クールに夜を歩く 悲しませるもの すがりつけるもの 胸にいくつかかかえ 俺達そんな見知らぬ彼女を 夢中にくどいている 彼女の胸の上 優しい光ともして眠りたい

睡眠不足の Sleepy Boy 闇には孤独と 夢を織りまぜ おびえた心のアクセルふかしても 街からは逃げられやしねえよ

Scramblin' Rock'n' Roll

自由になりたくないかい
熱くなりたくはないかい
自由になりたくないかい
自由っていったいなんだい
どうすりゃ自由になるかい
自由っていったいなんだい
君は思う様に生きているかい

さかりのついた獣の様に 街はとてもDangerous 入口はあっても出口はないのさ 奪いあっては さまよう街角

自由になりたくないかい
熱くなりたくはないかい
自由になりたくないかい
思う様に生きたくはないかい
自由っていったいなんだい
どうすりゃ自由になるかい
自由っていったいなんだい
君は思う様に生きているかい

寂しがりやの君の名前すら 誰も知りはしない Scramble交差点では 心を閉ざし解りあうことがない どんなふうに生きてゆくべきか わかってないねBaby 君の恐がってる ぎりぎりの暮しなら なんとか見つかるはずさ

奪いあいの街角で 夢を消しちゃいけないよ 見栄と偏見のふきだまり 気をつけて まっすぐ歩いてほしいよ

Scramblin' Rock'n' Roll Scramblin' Rock'n' Roll 奪いあいのRock'n' Roll

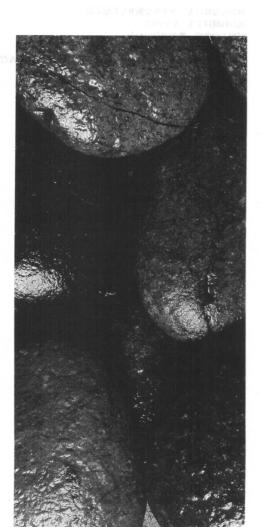
僕が僕であるために

Words and Music by Yutaka Ozaki

心すれちがう悲しい生き様に
ため息もらしていた
だけど この目に映る この街で僕はずっと
生きてゆかなければ
人を傷つける事に目を伏せるけど
優しさを口にすれば人は皆傷ついてゆく
僕が僕であるために勝ち続けなきゃならない
正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで
僕は街にのまれて 少し心許しながら
この冷たい街の風に歌い続けてる

別れ際にもう一度 君に確かめておきたいよこんなに愛していた 誰がいけないとゆう訳でもないけど 人は皆わがままだ 慣れあいの様に暮しても 君を傷つけてばかりさ こんなに君を好きだけど 明日さえ教えてやれないから 君が君であるために 勝ち続けなきゃならない 正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで 君は街にのまれて 少し心許しながら この冷たい街の風に歌い続けてる

> 僕が僕であるために勝ち続けなきゃならない 正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで 僕は街にのまれて 少し心許しながら この冷たい街の風に歌い続けてる



COOKIE

Words and Music by Yutaka Ozaki

Hey おいらの愛しい人よ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 温かいミルクもいれてくれ おいらのためにクッキーを焼いてくれ

溢れかえる人混みの気忙しさにもまれながら とりとめもないほどに孤独を感じて歩く 駅のホームに立ち尽くしていると 目隠しされたまま仕事抱えてるようだ 目頭とがらせて競い合っているだけで 気取って見せる程幸せでもないだろ 言い訳なんかはまだしたくはないけど 生きてゆくための愛し方さえ誰も知らない

Hey おいらの愛しい人よ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 温かいミルクもいれてくれ おいらのためにクッキーを焼いてくれ

新聞に書かれた人角かすニュース 美味しい食事にさえばくらはありつけない 空から降る雨はもう綺麗じゃないし 晴れた空の向に含ま季節を狂わせている 正義や真実は偽られ語られる 人の命がたやすくもて遊ばれている 未来を信じて育てられて来たのに 早く僕たちを幸せにしてほしいよ

Hey おいらの愛しい人よおいらのためにクッキーを焼いてくれ温かいミルクもいれてくれおいらのためにクッキーを焼いてくれおいらのためにクッキーを焼いてくれ

好き嫌いなく食べろと言われ育った 大人の言うことを信じろと言われ育った 答えがあるならば出さなければならなかったし 嘘をつくなと言われて育てられた

僕たちの親が作った経済大国 だけど文明はどこかで一人歩きしている 法律の名のもとに作り上げた平和 だけど首をひねって悩んでいるのは何故

Hey おいらの愛しい人よおいらのためにクッキーを焼いてくれ温かいミルクもいれてくれおいらのためにクッキーを焼いてくれ

今日が終わって迎える明日のための 答えはまだ何も出されてはいない ああ僕は明日を信じて生きてゆこう 急ぎ過ぎた世界の過ちを取り戻そう

Hey おいらの愛しい人よ おいらのためにクッキーを焼いてくれ 温かいミルクもいれてくれ おいらのためにクッキーを焼いてくれ

卒業

Words and Music by Yutaka Ozaki

校舎の影 芝生の上 すいこまれる空 幻とリアルな気持 感じていた チャイムか鳴り 教室のいつもの席に座り 何に従い 従うべきか考えていた ざわめく心 今 俺にあるものは 意味なく思えて とまどっていた

放課後 街ふらつき 俺達は風の中 孤独 瞳にうかべ 寂しく歩いた 笑い声とため息の飽和した店で ピンボールのハイスコアー 競いあった 退屈な心 刺激さえあれば 何でも大げさにしゃべり続けた

行儀よくまじめになんて 出来やしなかった 夜の校舎 窓ガラス壊してまわった 逆らい続け あがき続けた 早く自由になりたかった 信じられぬ大人との争いの中で 許しあい いったい何 解りあえただろう うんざりしながら それでも過した ひとつだけ 解ってたこと この支配からの 卒業

誰かの喧嘩の話に みんな熱くなり 自分がどれだけ強いか 知りたかった 力だけが必要だと 頑なに信じて 従うとは負けることと言いきかした 友達にさえ 強がって見せた 時には誰かを傷つけても

やがて誰も恋に落ちて 愛の言葉と
理想の愛 それだけに心奪われた
生きる為に 計算高くなれと言うが
人を愛すまっすぐさを強く信じた
大切なのは何 愛することと
生きる為にすることの区別迷った

行儀よくまじめなんて クソくらえと思った 夜の校舎 窓ガラス壊してまわった 逆らい続け あがき続けた 早く自由になりたかった 信じられぬ大人との争いの中で 許しあい いったい何 解りあえただろう うんざりしながら それでも過した ひとつだけ 解ってたこと この支配からの 卒業

卒業して いったい何解ると言うのか 想い出のほかに 何か残るというのか 人は誰も縛られた かよわき小羊ならば 先生あなたは かよわき大人の代弁者なのか 俺達の怒り どこへ向うべきなのか これからは 何が俺を縛りつけるだろう あと何度自分自身 卒業すれば 本当の自分に たどりつけるだろう

仕組まれた自由に 誰も気づかずに あがいた日々も 終る この支配からの 卒業 関いからの 卒業

永遠の胸

Words and Music by Yutaka Ozaki

一人きりの寂しさの意味を 抱きしめて暮らし続ける日々よ見つかるだろうか 孤独を背負いながら生きていく 心汚れなき証示す道しるべが 色々な人との出会いがあり 心かよわせて戸惑いながら 本当の自分の姿を失いそうな時 君の中の僕だけがぼやけて見える ありのままの姿はとてもちっぱけすぎて 心かり取り付く時君を また見失ってしまうから 人はただ悲しみの意味を 探し出すために生まれてきたというのか確かめたい 偽りと真実を 裁くものがあるなら僕は 君の面影を強く抱えて 何時しか辿り着くその答えを 心安らかに探し続けていてもいい いつまでも

受け止める術のない愛がある 消し去ること出来知傷もある 忘れないように 全ての思い出が与えてくれた 心の糧を頼りに生きることを そこには様々な正義があり 幸せ求めて歩き続けている 欲望が心をもろく崩してゆきそうだ 人の心の愛を信じていたいけど 人の暮らしの幸せはとても小さすぎて 誰一人 心の掟を破ることなど出来ないから 今はただ幸せの意味を 守り続けるように君を抱きしめていたい信じたい 偽りなき愛を 与えてくれるものがあるならこの身も心も捧げよう それが愛それが欲望 それか全てを司るものの真実 なのだから

断崖の絶壁に立つ様に夜空を見上げる 今にも吸い込まれてゆきそうな空に叫んでみるんだ 何処へ行くのか 大地に立ち尽くす僕は 何故生まれてきたの

生まれたことに意味があり 僕を求めるものがあるなら 伝えたい、僕が覚えた全てを 限り無く幸せを求めて来た全てを

分け合いたい 生きてゆくその全てを 心に宿るもののその姿を ありのままの僕の姿を 信じてほしい 受け止めてほしい それが生きてゆくための愛なら 今 心こめて

僕はいつでもここにいるから 涙溢れて何も見えなくても 僕はいつでもここにいるから

太陽の破片

Words and Music by Yutaka Ozaki

昨晩 眠れずに 失望と戦った 君が 悲しく見える 街が悲しいから 昨晩 一晩中 欲望と戦った 君を包むもの全てが 僕を壊すから

すり変ってゆく 現実との はざまに描いた夢が 愛を傷つける 暮しはただ 街明りに照らされ 何を信じるの どこへ向かうの 僕の手も握らずに 消えるのは何故

誰も手をさしのべず 何かにおびえるなら 自由 平和 そして 愛を何で示すのか だから 一晩中 絶望と戦った 僕はただ 清らかな 愛を信じている

目をつぶってみる 涙がほら 渇くまでの間に 忘れられるさ 破れた約束の前で 人はいつも 偽りつづける だけど 君を もう欲望の果てにただ 奪われたくはない

君を守りたい 悲しみ こぼれぬよう あわれみが 今希望の内に生まれるよう もし君が 暗闇に光を求めるなら ごらん 僕を 太陽の破片が 頬をつたう

昨晩 眠れずに 昨晩 眠れずに

Freeze Moon ADMOOD

Words and Music by Yutaka Ozaki

キャデラック・メイン・アベニューでは 今ウブなあの娘の hip bangで 俺達はメロメロになる そして腹ペコをかかえた俺達は バーガー・ショップに駆けこんでポテトをコーラで流しこむ みんないい気持ちになりたくて 何度も息を止めてみるけど そのたび 金網にへばりついては 転げ落ち いつでもさみしい思いをしている

俺は風を感じる 風を求めて wow oh 風がどこへ行こうとしてるか 俺は知りたい 胸をはるんだ

今夜は朝が来るまで 走り続けているから 君はエンジンの音の中で 眠ればいい

oh oh……翼をひろげ oh oh……風を求めて 俺達の真夜中の翼は ボロボロになっちまう どうしようもなく また街に戴る 俺達の終りなき dance

フェンスに腰かけ ピクピクしていた あの頃と似たような顔つきで みんなだまりこくっちまう 彼女は今夜も ドラッグにいかれて 昔みたいな ドラッグ・クィーンになろうとしている もうガラスをひっかく音は 聞こえないけど 今でもストリートには ガラスの破片が星のようにちらばっている それはまるで まるであの頃の俺達の夢みたいに

みんな風を感じる 風を求めて wow oh 風がどこへ行こうとしてるか みんな知りたくないかい 胸をはるんだ

まだ まだ 何か足りないなら 通りに出て 夜を買えばいい 誰も"どうして?"なんて聞かないから

oh oh……翼をひろげ oh oh……風を求めて 俺達の真夜中の翼は ボロボロになっちまう どうしようもなく また街に戯れる 俺達の終りなき dance

夜はいつでも 凍りついていて 置きっぱなしのバイクにまたがると 昔みたいな気持になっちまう ボンネットに寝転んだやつらは この街で一番さみしい 星をみつけ 誰にもわからないような 一人言をつぶやいている いったいなんだったんだ こんな暮し こんなリズム いったいなんだったんだ きっと 何もかもちがう 何もかもがちがう

oh oh……翼をひろげ oh oh……風を求めて



誕生

Words and Music by Yutaka Ozaki

俺の時計の針がちょうど午前零時を指した 過ぎ去る時は新しい日の中に消え去ってゆく 訳もない涙が溢れ そっとこぼれ落ちる 分からないものが俺の全てを狂わせてしまった 愛を失い 仕事すらなくし 俺は街を出た そして今俺は一体何を待ち続けているのか

ポケットには別れた家族の写真がある 皆で笑い俺は兄貴に肩を抱かれてる その写真をながめる度 分けあった訳の中に それぞれが選んだ生き方を思い浮かべてみる 人生はいつも誰にも冷たいものだから 捨ててしまうことの方がきっと多いものだから

街の風は凍ついたまま吹きつけ心穏さなければ 大切なもの何ひとつ守りきれやしないから そっと目を閉じて ふっと心を閉ざし 暮らしているけど

Hey baby 俺はクールにこの街で生きてみせる
Hey baby 俺は祈りの言葉なんか忘れちまった
俺はきっとまだ。マトモにやれるはずさ
街中の飢えた叫び声に。立ち向かいながら
俺は走り続ける。叫び続ける。 求め続けるさ。俺の生きる意味を

一人で生きる寂しさに疲れ やがて恋に落ちた 彼女と二人暮らし始めて半年が経った マトモな仕事が見つからずに 荒れ果てた暮らし 投げ出したくなる そんな暮らしか続く日毎に俺は 愛の温もりも忘れて 心はすさんでゆき 自分自身から逃げ出そうと 脅えて暮らした

心の弱さの逃げ道に罪を犯した俺は 捕えられ 牢獄の重い扉の奥で息をひそめた そして裁判の後 俺は手首ナイフで切り付け 気がつけば病院のベッドの上薬漬にされた ああ教えてくれ 俺のどこに間違いがあるのか 街の冷たい風から逃れて生きてきただけなのに

やかて俺もマトモな生活を見つめ彼女と暮した ある日彼女は 涙ぐむ笑顔の中でつぶやいた 二人の新しい命か宿り 生まれてくることを

Hey Baby 俺はクールにこの街に生まれた
Hey Baby そして何もかも捨てちまって生きてきたんだ
生きる早さに追いたてられ 愛求め 裏切られ 孤独を知り
振り返ることも出来ず 震え暮らした
そして走り続けた 叫び続けた
求め続けていた 生きる意味も分からぬまま

産声を上げ そして立ち上がり やがて歩き始め 一人きりになる 心が悲しみに 溢れかき乱されても 脅えることはない それが生きる意味なのさ

Hey Baby 忘れないで強く生きることの意味を Hey Baby 探している 答えなんかないかもしれない 何ひとつ確かなものなど見つからなくても 心の弱さに負けないように立ち向かうんだ さあ走り続けよう 叫び続けよう 求め続けよう この果てしない 生きる輝きを

新しく生まれてくるものよ おまえは間違ってはいない 誰も一人にはなりたくないんだ それが人生だ 分かるか

15の夜

Words and Music by Yutaka Ozaki

落書きの教科書と外ばかり見てる俺 超高層ビルの上の空 届かない夢を見てる やりばのない気持の扉破りたい 校舎の裏 煙草をふかして見つかれば逃げ場もない しゃがんでかたまり 背を向けながら 心のひとつも解りあえない大人達をにらむ そして仲間達は今夜家出の計画をたてる とにかくもう 学校や家には帰りたくない 自分の存在が何なのかさえ 解らず震えている 15の夜―

盗んだバイクで走り出す 行き先も解らぬまま 暗い夜の帳りの中へ 誰にも縛られたくないと 逃げ込んだこの夜に 自由になれた気がした 15の夜

冷たい風 冷えた躰 人恋しくて 夢見てるあの娘の家の横を サヨナラつぶやき走り抜ける 闇の中 ほつんと光る 自動販売機 100円玉で買えるぬくもり 熱い缶コーヒー握りしめ 恋の結末も解らないけど あの娘と俺は将来さえ ずっと夢に見てる 大人達は心を捨てみ捨てみと言うが 俺はいやなのさ 退屈な授業が他達の全てだというならば なんてもっぱけで なんて意味のない なんて無力な 15の夜—

盗んだバイクで走り出す 行き先も解らぬまま 暗い夜の帳りの中へ 覚えたての煙草をふかし 星空を見つめながら 自由を求め続けた 15の夜 盗んだバイクで走り出す 行き先も解らぬまま 暗い夜の帳りの中へ 誰にも縛られたくないと 逃げ込んだこの夜に

I LOVE YOU

Words and Music by Yutaka Ozaki

自由になれた気がした 15の夜

I love you 今だけは悲しい歌聞きたくないよ I love you 逃れ逃れ 辿り着いたこの部屋 何もかも許された恋じゃないから 二人はまるで 捨て猫みたいこの部屋は落葉に埋もれた空き箱みたいだからおまえは小猫の様な泣き声できしむベッドの上で 優しさを持ちよりきつく躰 抱きしめあえば それからまた二人は目を閉じるよ 悲しい歌に愛がしらけてしまわぬ様に

I love you 若すぎる二人の愛には触れられぬ秘密がある I love you 今の暮しの中では 辿り着けない ひとつに重なり生きてゆく恋を 夢見て傷つくだけの二人だよ 何度も愛してるって聞くおまえはこの愛なしでは生きてさえゆけないと きしむベッドの上で 優しさを持ちよりきつく躰 抱きしめあえば それからまた二人は目を閉じるよ 悲しい歌に愛がしらけてしまわぬ様に



を通過の対象とようとでは容易を関した 意を出るの対象というの中に対えまってゆく ともと、例の例が、そっとこばがあるこ からないものの例ができまだかでしまった。 をかり、日本するなくし、例は知る対応

高書きの説得者と相当の見てる機 認定部とから、別学の影像のだけ やのほのぶし別学の影像のだけ 控念の裏 頻準とおして見つかは実施が得るなく しゃかなこのたます。作を知じるから



多しかべっ ドの子で、際しきを除るよう かって鉢、浴さしのかえば それからまた、人は日を削しるよ まして数にせかしらしてしまいの物に

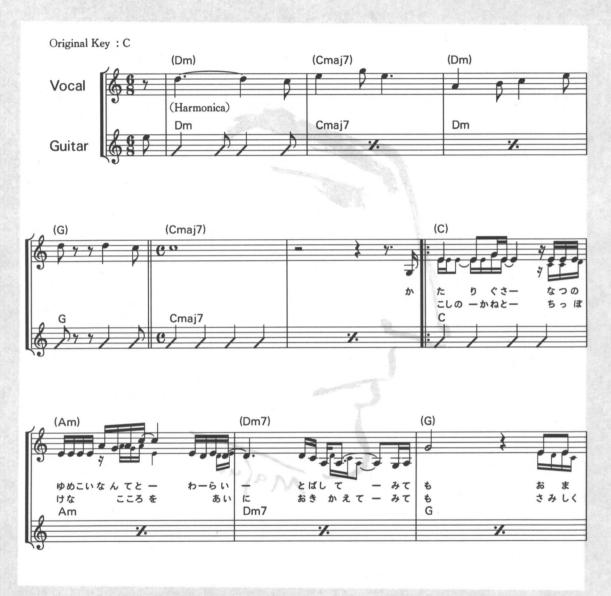
Yutaka Ozaki Complete Song Book



もうおまえしか見えない

作詩/作曲:尾崎 豊 ② Y. Ozaki

Complete Song Book











Street Blues

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki

















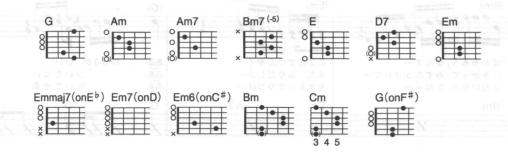
秋風

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki





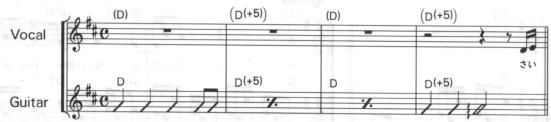




酔いどれ

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki

Original Key: Db
Tuning: Half Down







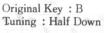






弱くてバカげてて

作詩/作曲:尾崎 豊 © Y. Ozaki





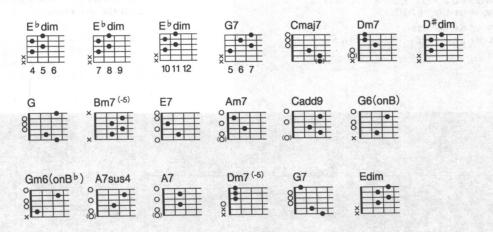












もうおまえしか見えない

Words and Music by Yutaka Ozaki

語り草 夏の夢恋なんてと 笑いとばしてみても
おまえの姿 やきついたまま 消せやしないで つよがってるおいら
ばかだよ サヨナラも うまくいえず
ばかだよ 恋の中 落ちたままで
そうさ 愛の影ばかりをつかもうとして 心のカギをなくしちまったんだ
だけど 信じておくれよ baby baby
まわりみち まわりみち したけれど
信じておくれよ baby baby
もう おまえしか 見えない おいらさ

少しの金と ちっぽけな心を 愛におきかえてみても さみしくなるのは わかっていたのに なにもできないで 強がってるおいら ばかだよ 町の光によいしれて ばかだよ ふざけ気分のままでいたよ そうさ 心の言葉さえももたないで おまえの心を悲しませたんだ

だけど 信じておくれよ baby baby まわりみち まわりみち したけれど 信じておくれよ baby baby もう おまえしか 見えない おいらさ

秋風

Words and Music by Yutaka Ozaki

色あせてゆく 町なみは 秋の弱い光に てらされてる 過ぎた夏の思い出が おとす影の 色は濃いよ ふと かげろうの様なあの日 おもい出しては はしゃぎすぎたみたいだと にが笑い 町は秋風 さみしくなるばかり うらないさえもこのごろは ついてないおいらさ さきおくれた白い花 すてちまった愛を おもわせる 高くなる空の色に ひとりとりのこされそう 愛はみなひと夜の夢だと おもってたけど 今じゃあの子のぬくもり さがしてる 町は秋風 さみしくなるばかり うらないさえもこのごろは ついてないおいらさ てりつけるそんな日に つよがって見せた それだけさ 小さな幸せを 見過ごしてしまった 心 くるわせてしまう光に ある日気づいてみれば 夏から秋へのおかしな ものがたり 町は秋風 さみしくなるばかり うらないさえもこのごろは ついてないおいらさ

Street Blues

Words and Music by Yutaka Ozaki

いつもいつも 町へ行きたくて おちつかないさ そんなにいいこと あるわけじゃないけど きれいな光で ここよりゃましなユメが見られるさ ウソでも なんでも 歌ってくれるよ そしてそして わけもわからず バカさわぎするさ ケンカに なんぱ ぐちでもこぼして 飢えた奴らの くもった目つきは俺も同じさ 似たよな連中の たまり場だね

頭の先から つま先まで ピカピカきめた や郎ども 女目当てなら さっさと きめちまったらどうなんだい 女達は さっきからうずうず ずっとまってるぜ 早く なぐさめて やれよ

さみしがりや のら犬ブルース スマートにゃ きまりやしないさ あさ ひる 晩と ぶっ通し 舞れ いつものことなんか忘れ さあ 抜け出すさ いつもの地獄から ここは天国 のら犬Street

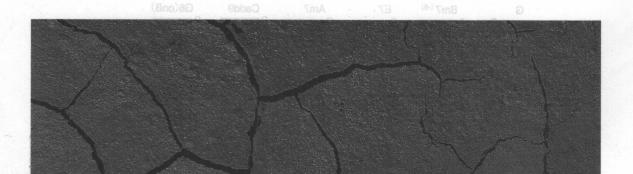
町かどやまない人のざわめき くるっているさ 笑い さけび うめき声 すすり泣き 今の時代のモラルの中に 誰もが自分をころして たえることだとうなづいている

だけどだけど ここは見せかけの ごまかしの町さ 愛 お笑いだ 夢 よく言うよ うわべでつくろうおまえの心は 時代にただようあき缶みたいさ からっぽな気持にあきれちまうぜ

考えることを 1から10まで 変えちまうのもいいだろう 金が目当てなら さっさと 消えちまうのがいいだろう ひとりよがりで たのしむがいいぜ ずっとそうして 泣きをみれば気がつくよ

> さみしがりや のら犬ブルース スマートにゃ きまりやしないさ だけどここでなら 好きにやれる 愛し合ってれば なんでもできる さあ 抜け出すさ いつもの地獄から ここは天国 のら犬Street

さみしがりや のら犬ブルース スマートにゃ きまりやしないさ あさ ひる 晩と ぶっ通し 舞れ いつものことなんか忘れ さあ 抜け出すさ いつもの地獄から ここは天国 のら犬Street



酔いどれ

Words and Music by Yutaka Ozaki

最終のプラットホームに 集まるよいどれたち ちどり足のステップふみ 笑顔で床にくずれる 見しらぬ淋しさが 少し風に吹かれれば 「ばかやろう」なんて 小声でつぶやく ああ 笑うがいい おいらは酔いどれ 今日も魂を 切り売りしてきた

眠りにつくまでは こうしていてもいいだろう 朝がくるまでは 素敵な夢を見させてね 目覚めれば ラッシュアワーの中

ちっぽけな幸せも とどきやしないさ オレのもつ言葉じゃ いいつくせやしない いつもの淋しさが すこし星に見られたら いきがってみて流されて またふり出しさ ああ ついてない おいらは酔いどれ

眠りにつくまでは こうしていてもいいだろう 朝がくるまでは 素敵な夢を見させてね 目覚めれば ラッシュアワーの中

最終のプラットホームは 人生の語り場 ぼろきれまとう心に 泣き笑いの毎日 しらふの自分がまだ 俺をばかにする 弱いやつだね お前って奴は ああ 泣いてやる おいらは酔いどれ 泣いて おこって 笑ってみるのは おいらのすること おいらの人生かい 無駄使いのあぶくぜにさ 生きてるわけかい そんなものありゃしないよ 目覚めれば あたりまえにおれがいる 眠りにつくまでは こうしていてもいいだろう

弱くてバカげてて

Words and Music by Yutaka Ozaki

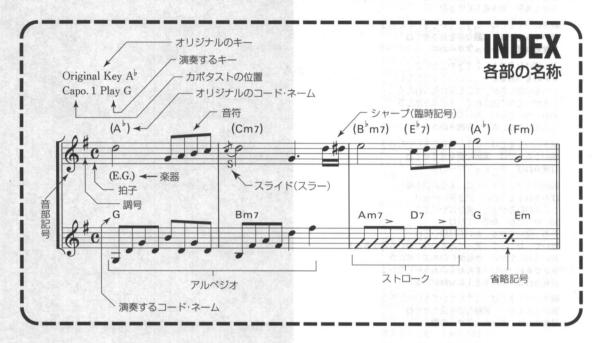
朝がくるまでは 素敵な夢を見させてね 目覚めれば ラッシュアワーの中

心がおもいね 時間におしつぶされちまう 弱いねおいらは 流されくじけちまうだけ おいらの好きな町の風 早足の人たちにもまれ 強い酒でも あおってみるさ バカげてても 気にしないさ このままでいい

心がおもいね ひとりになっちまうから わかるかいおまえにも なぐさめておくれ一晩中 ほれたあいつにあいたいね 夢でも抱きたいね おどけて笑い 忘れちまうから バカげてても 気にしないさ 笑うがいい

心がおもいけど こんどあうとしたら 弱虫なんかじゃないさ おいらが抱いてやる 別れぎわまであまえてる 弱い男の唄だよ 男と女 こんなもんかな? さよならのやさしさをおくるよ さいごに さいごに

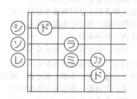




●ド・レ・ミ

★ド・レ・ミと押える位置を確かめましょう。





●シャープ・フラット・ナチュラル〔臨時記号〕

*(シャープ)=半音上げる	ト(フラット)=半音下げる	り(ナチュラル) = #又はりした音を再び もとの音にもどす	×(ダブル・シャーブ) = #した音をさら に半音上げる	⊌(ダブル・フラット)=⊌した音をさら に半音下げる
→ # → # +	= ≥b	**************************************	#• → ו F# F×	b
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	2> 1	3 -> 4 -> 3	4 → 5	1> 0

●音階と押えるフレット

★ローポジションでの音と押える位置を覚えて下さい。





●ストローク

★ストロークは譜玉を使わない記譜が一般的です。 ピック又は指で弾きます。(↓=ダウン・ストローク/↑=アップ・ストローク)



●アルペジオ

★和音(コード)を分散させて弾く奏法がアルペジオです。 基本的には指で弾きます。





〈スリーフィンガー奏法〉



左手と右手の記号



(左手の記号)

 人差指
 1

 中指
 2

 薬指
 3

 小指
 4

 開放弦
 0



(右手の記号)

親指……p (pulgar) 人差指……i (indice) 中指……m (medio) 薬指……a (anular) 小指……ch (chico)

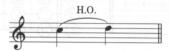
特殊奏法

★ギターにはいろいろな奏法があります★

●スラー

★スラーとは"なめらかに"の意で、次のような弾き方が一般的です。

1 ハンマリング・オン(H.O.)



●左指で弦をたたくようにして音を出します。

2 プリング・オフ(P.O.)



●左指で弦をひっかくようにして音を出します。

3 スライド(S)又はグリッサンド(g)



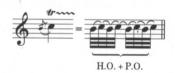
●左指を弦の上をすべらせて音を出します。

4 チョーキング(cho)又はベンド



●左指で弦を押し上げるようにして音を上げます。(音を下げる場合はチョーキング・ダウン(D)といいます)

5 トリル(tr.)



●装飾音としてよく使われます。 奏法としてはH.O.とP.O.の組み合わせになりますが、この場合は細く・速く弾きます。

●ハーモニックス(Harm.)

★大変美しい奏法で、弦の上に指を軽くふれて音を出します。 ハーモニックスはすべての弦で出せますが、ポジションは限られています。 12・7・5フレットがきれいに鳴らせます。

第(3)弦(ソ)の第7フレット



●ミュート(Mute)▽はピッツィカート(Pizz.)

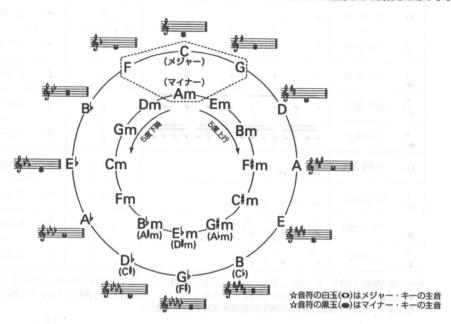
★ピッキングやアルペジオを弾くときに右手で弦にふれながら音をころしてプレイする奏法です。



●キー(調)とコード

★キーとはCメジャー(八長調)、Aマイナー(イ短調)などの調のことで、曲の調性を表わします。 すべてのキーと調号(ホ・ト)の数、位置を確かめて下さい。

★この図は5度圏(circle of fifth)と呼ばれるもので、キーとそのキーにおけるコード進行などの関係がわかります。



●点線の内側の関係はCを基準としたときに最も 密接な関係にあるコードを表わしています。 キーCの時にはCを中心にAm・F・Gのコードは よく使われる重要なコードだということです。

> (基本的コード進行) C→Am→F→G7→C

キー・コート・	よく使われるコード	基本的コード進行
G #	C D Em	G→Em→C→D7→G
D #	G Bm	D→Bm→G→A7→G
A 4	D A E	A→Flm→D→E7→A
E ##	A B Com	E→Clm→A→B7→E
F \$.	B C Dm	F→Dm→B→C7→F

●カポタスト(Capo.)

★カボタスト(カボ)は歌の伴奏をする時や、キーを変えたい時などに役立ちます。 楽譜に指定がある場合には、 指定のフレットにカボをつけるとオリジナルと同じキーでの演奏ができます。

●各プレイ・キーに おけるカボタスト をつける位置とそ の時のキー

Capo フレット Play Key	1	2	3	4	5
C	C‡(Di)	D	DI(E)	E	F
G	GI(AI)	Α	Al(BI)	В	C
D	Dŧ(E١)	E	F	F#(GI)	G
Α	Af(B)	В	C	CI(DI)	D
E	F	FI(GI)	G	GF(AL)	Α
F	F#(GI)	G	G#(Al-)	Α	AI(BI)

- 【例1】 Key Gで演奏してカポを4フレットにはめると、その 時のキーはBになる。
- 【例2】 友人から「この曲はGfで弾いてよ」と言われたが、自分 はこの曲の場合Fで覚えているのでカボを3フレット に付けて演奏してあげた。
- ★表はメジャー・キーで書かれていますが、マイナー・キーの 時も同様です。

●音符の長さ・音楽記号

■ 音符の長さ・休符の長さ

.150	崔	音符・名称	4分音符を1拍とした時の数え方	4分音符を基準とした時の長さ	休	符・名称
	o	全 音 符	o 1 2 3 4	4	-	全 休 符
	0	2分音符	1 2 3 4	2	-	2分休符
		4分音符	1 2 3 4 7	7 1	3	4分休符
	1	8分音符	1 & 2 & 3 & 4 &	1/2	7	8分休符
	A	16分音符		$\frac{1}{4}$	7	16分休符
	0.	付点全音符	o. = o + o	4+2	1	付点全休符
	0.	付点2分音符	J. = J + J .	2+1		付点2分休符
	J .	付点4分音符	J. # J + D mt3 mt3	$1 + \frac{1}{2}$	3.	付点4分休符
	1.	付点8分音符). =) + AB	$\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$	7.	付点8分休符

★表では4分音符(休符)を1拍として他の音符との長さを比較していますが、これはわかりやすくするためであって必ずしも4分音符が1拍だということではありません。 2分音符、8分音符を1拍とする場合も多くあります。それぞれの音符同士の相対的な関係を理解して下さい。

2 連符の長さ



キーCの時にはCを中心にAm・F・Gのコードと よく使われる解析をコードだとい

3 拍子記号

拍子は大きく分けて2拍子系(2拍子・4拍子・6拍子・12拍子)と3拍子系(3拍子・9拍子)とに大別されます。 拍子記号は主に分数や記号で書き表されます。 分数の形で示される場合は、分子にあたる数字は拍子の種類で、 分母にあたる数字は、1拍に数える音符の種類を示します。 例えば 🔏 は4分音符を1拍としての2拍子ということ になります。

	•	
9	t	
<	1	
13	ŧ	
	0	
1	1	
	5	
ŧ	白子	
Ξ	F	

	<u>2</u> または¢	2分の2拍子	2分音符を1拍として の2拍子	1 2	2拍子
=	2/4	4分の2拍子	4分音符を1拍として の2拍子		2拍子
拍子	<u>4</u> またはC	4分の4拍子	4分音符を1拍として の4拍子		4拍子
系	8	8分の6拍子	8分音符を1拍として の6拍子	636 CESTITUTE OF	6拍子
	12 8	8分の12拍子	8分音符を1拍として の12拍子	m	12拍子
≡	3 4	4分の3拍子	4分音符を1拍として の3拍子	1 2 3	3拍子
拍子	$\frac{3}{2}$	2分の3拍子	2分音符を1拍として の3拍子		3拍子
系	V3 1 3 5 - ‡	8分の3拍子	8分音符を1拍として の3拍子		3拍子

4 音楽記号

不配う		
<i>ff</i>		
f		
mf		やや強く
mp	(メゾ・ピアノ)	
p	(ピアノ)	
<i>pp</i>	(ピアニシモ)	非常に弱く
cresc		だんだん強く
decresc	〔デクレッシェンド〕	
ا		音と音の間を切る
D.C	(ダカーポ)	
D.S		
Fine		終わり
Φ	(コーダ)	終わりの部分
<u> </u>		その音だけのばす
>		その音に力を入れて
	(リピート)	
rit		
accel		
a tempo		もとの速さで
F.O		音量を徐々に絞り、音を消すこと
F.I		音量を徐々に上げ、規定の音量まで達すること
N.C	(ノー・コード)	
8 va	〔オクターブ記号〕	オクターブ(完全8度)の上・下を示す " $m{8} va$ " 記号のこと。 こ
		の記号が音符の上部に記譜されているとその音符はオク
		タープ高く演奏され、下部の場合はオクターブ低い音域で演
4		奏される。
1. 11. 1111.		前の小節(複数の場合あり)又はフレーズと同じだということ

5 反復記号の応用例



演奏順序 —— $A \cdot B \cdot C \cdot D \cdot E \cdot F \cdot C \cdot D \cdot E \cdot G \cdot E \cdot H$ *D.C. 又は、D.S. で戻った場合は、原則としてリピートはしない。



YUTAKA ()ZAKI

Complete Song Book

All About 89 Words & Music

尾崎 豊■ギター弾き語り全曲集

協力:(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント

発行日:1996年10月30日発行

デザイン: NOBU

採譜:田嶌道生/岡田研二

净書: Write Staff

編集:石川祐弘/水橋貴章

発行人:安永憲一郎

発行所:株式会社ドレミ楽譜出版社

[営業部] 〒171 東京都豊島区高田3-38-23 高田ハイツ1F

Tel.03-3985-5031'2 Fax.03-3988-6681

[編集部] 〒171 東京都豊島区高田3-36-4 クリエイティヴ・ボックス・ビル

Tel.03-3988-6451 Fax.03-3988-8685

振替口座: 00130-0-84424

ISBN4-8108-4722-5

定価2678円(本体2600円)

貼付免除

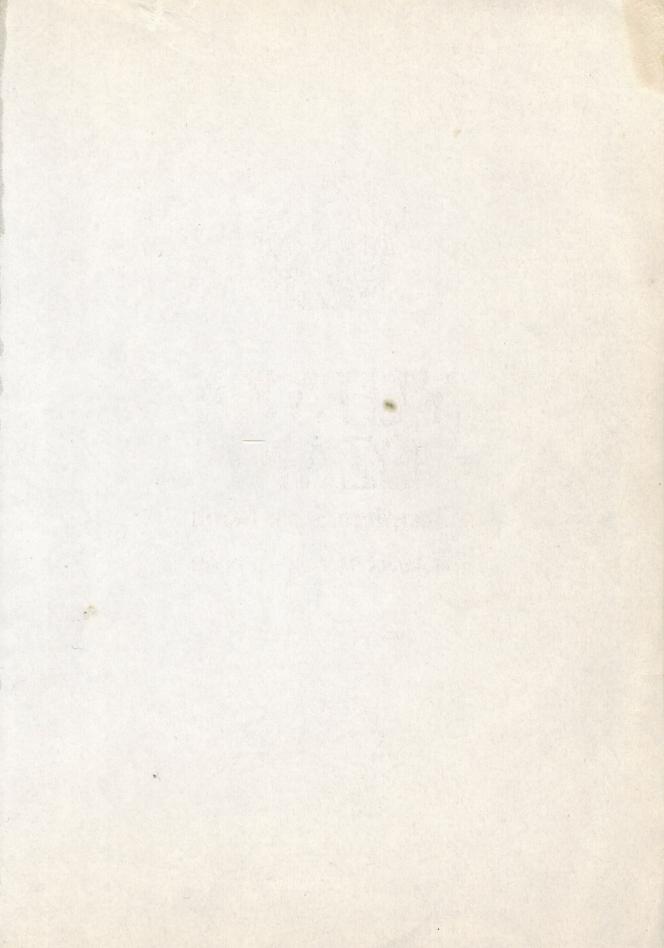
JASRAC 出 9310834-612 (許諾番号の対象は当該出版物中、当協会が許諾することのできる著作物に限られます。)

⑥無断複製、転載を禁じます。●万一、乱丁や落丁がありました時は当社にてお取り替えいたします。

弊社出版物のご注文方法

楽器店・書店等の店頭で品切れの際は直接販売店にご注文下さい。尚、通信販売希望の場合は下記の方法で本の代金十送料300円(何景でも可)を送付して下さ 旧現金書館月200円以下の切手以郵便局窓口にて加入者負担支払通知際に弊社口座番号00130-0-84424、金額(本の代金十送料300円)、本のタイトル、貴方の住所・氏名を明記し





YUTAKA OZAKI

Complete Song Book

All About 89 Words & Music

